

大串兎代夫関係文書(第一次受入分) 目録

2013年9月
国立国会図書館憲政資料室

大串兎代夫関係文書(第一次受入分)目録【凡例】

【整理・記述について】

・当室搬入時、官田光史氏により、資料は一点ごとに封筒に分けられ、段ボール箱に箱詰めされていた。さらに官田氏による仮目録(追加資料含まず)も作成されていた。
・当室では、まず、仮目録と資料を照らし合わせ、目録の修正を行った上で、追加資料の分を整理、目録に加筆し、資料を項目ごとに分類、項目内での作成者別、あるいは年代順の並べ替えとそれに基づく資料の再整理を行った。再整理に際しては、保存の現状に関係なく、個々の資料の性格に基き資料の大幅な移動を行ったものもある。

・記述項目は番号／タイトル／作成者／宛先／年月日／内容／記述法／用紙／備考／数量 である。
・タイトルは原則として原表題によるが、資料に表題のない場合は目録作成者・整理者が適宜付した。その場合にはタイトルに〔 〕を付している。

・作成者、年月日は推定可能なものについては記述した。その際には〔 〕を付した。年代の推定については、とくに断らない限り、書類の場合は内容に、書簡の場合は封筒または葉書の消印による。

・用紙欄には、資料の来歴を推測させる内容があった場合に記述した。

例:「国民精神文化研究所」原稿用紙

・記述法欄には資料の記述法について記述した。

例:謄写

・備考欄には、資料相互の元々の包含関係、作成者及び年月日の推定の典拠、作成者などについての情報などについて記述した。

・ステープラー・クリップなどの金具類は可能な限り除去した。ただし、除去についての記述はしていない。

【主な内容】:

・大串兎代夫関係資料は「書簡」、「大学(戦前)」、「教育(戦前)」、「国民精神文化研究所・教学練成所」、「大日本言論報国会」、「文部省教学局・日本諸学振興委員会」、「企画院・日本法理研究会」、「弁護士関係」、「大学(戦後)」、「教育(戦後)」、「憲法学会・憲法関連」、「海外長期滞在昭和40～41年」、「大串兎代夫葬儀・追悼関係」、「大串兎代夫個人資料」、「日記・手帳」、「覚書」、「原稿・草稿」、「論文」、「雑誌」、「新聞」、「書籍類」、「各種団体・その他」に分けた。特に説明のない限り、資料は年代順に整理した。

・「1.書簡」は、手紙・葉書や申込書・案内文など、郵便を通じてやり取りされた資料である。大串宛書簡とその他(含 大串兎代夫書簡草稿)に分け、作成者の五十音順に配列(英文・日本語の順)した。一般的な書簡に加え、留学時の師であるオットー・ケルロイター氏への書簡をはじめとするドイツ語書簡が多く見られるのが特徴的である。なお一部書簡については、他の資料との関連性などから本項目以外の個所に分類されているものがある。

・「2.大学(戦前)」は、主に大串が関わった戦前期の大学教育に関する資料である。講義ノートや学内団体機関誌、学生のレポートや論文、大学寮の回想資料など大学関連の資料である。

・「3.教育(戦前)」は、大串が関わった大学以外での教育に関する資料である。憲兵学校での講義や、各種教官業務に関するもの、大串の講演を聞いた学生の感想文などを含む資料群である。

・「4.国民精神文化研究所・教学練成所」は、大串が戦前期籍を置いていた両組織に関する資料である。同組織発行の刊行物や、大串の講義関連資料を中心に構成されている。

・「5.大日本言論報国会」は、大串が戦前期籍を置いていた同組織に関する資料である。同組織発行の刊行物や、通知書類など会員向けの資料など。

・「6.文部省教学局・日本諸学振興委員会」は、大串が戦前期籍を置いていた両組織を含む文部省関連資料。教学局の刊行物をはじめ、思想審議会や閣議決定など、文部省関連の資料。

・「7.企画院・日本法理研究会」は、太平洋戦争後期に非常大権や国体の問題に関する研究討議を行った両組織に関する資料を分類したもの。主として国体や非常大権関連の討議資料であるが、企画院の嘱託であった清水伸の手による研究資料や、大串が第一部会のメンバーであった日本法理研究会の部会資料などで構成されている。

・「8.弁護士関係」は、戦後の公職追放後、大串が生業としていた弁護士、法律関係の資料である。京都伏見稻荷大社紛争などの裁判に関する新聞記事や、陳情書などの裁判関連書類、弁護士連合会の機関誌など。

・「9.大学(戦後)」は、大串が関わったものを中心とする戦後期の大学教育に関する資料である。学生の論文・レポートや学内報、学内団体・大学図書館関係の資料など。

・「10.教育(戦後)」は、教科書検定問題など、日本の大学以外の戦後期の教育に関する資料。家永三郎氏の教科書検定問題に関する記事のスクラップなどの資料や、海外の「初等日本語」のテキストや教育に関する雑誌など。

・「11.憲法学会・憲法関連」は、大串が理事も務めた憲法学会や、憲法関連の資料。憲法学会の機関誌や、日本国憲法に関する文書・論稿類を中心としている。

・「12.海外長期滞在 昭和40～41年」は、昭和40年12月～41年9月までの、大串のアメリカ・ドイツを中心とする海外長期滞在時の資料。パスポートや荷物票などの品々から、滞在中やりとりされた書簡、パンフレット類など雑多な資料群となっている。

・「13.大串兎代夫葬儀・追悼関係」は、大串の葬儀及び死後の大串の顕彰・追悼に関する資料。葬儀の際の弔辞や、死後の大串追悼・回想記事、書簡などを含む。

・「14.大串兎代夫個人資料」は、大串兎代夫の個人情報に関する資料を分類したもの。人名簿・履歴書・辞令など。

・「15.日記・手帳」は、大串の日記・手帳を分類したもの。東京帝大法学部時代、ドイツ留学時代及び、戦後の昭和20～30年代の日記、昭和30年代の手帳類を含む。

・「16.覚書」は、手書き資料のうち、原稿とはみなせない書き付け、短文の羅列のようなもの、その他図表(例:[江戸幕府組織図])などの資料。単純なメモから、書籍等の抜き書き、目次など多様で、特に抜き書きは、大串の言論・執筆活動に影響を与えたと考えられる。

・「17.原稿・草稿」は、手書き資料のうち、何らかの原稿であることが明確な資料。国際法や国家・国体に関するものをはじめ、時局分析・思想観、憲法問題など多様な論稿が含まれる、本文書の核となる資料群となっている。

・「18.論文」は、雑誌論文の抜刷や校正刷など草稿以上の段階の文章資料を分類したものである。大串作成・大串訳・その他に分け、前2つは年代順にその他は作成者順に整理した。大串の手による論文をはじめ、寄贈された抜刷などを含む資料。ドイツ語論文・英語論文が多く見られる。

・「19.雑誌」は、定期刊行物及び機関誌など、一般に広く刊行された印刷体の資料を分類したものである。タイトル順に分類し、それぞれ年代順に整理した。ドイツ語雑誌を含む雑誌資料群。昭和40年前後の保守系・改憲運動組織の機関誌の数が多く、大串の寄稿文掲載のものも見られる。

・「20.新聞」は、新聞切り抜き、スクラップブックや原紙、機関紙など新聞型の印刷体の資料を分類したものである。切抜・スクラップと原紙に分け、新聞及び機関紙はタイトルごとに分類の後、それぞれ年代順に整理した。朝日新聞やNew York Timesなどの一般紙から、保守系団体の機関紙に至る幅広い新聞資料となっている。

・「21.書籍類」は、一般刊行物のうち、書籍・パンフレット及び、内部文書や会議資料など。大串作成・大串訳・その他に分け、タイトル順に整理した。前者は大串の著書(その校正刷も含む)をはじめ、戦前期の教科書・テキストから、東側諸国に関する分析書など多様な資料群となっている。後者は意見書や、研究討議資料など。

・「22.各種団体・その他」は、上記の各種組織以外で、団体関連である資料(会報・内部文書など)及び、上記のどの分類にも属さない資料。前者は保守系団体や、陸軍、中学校同窓会から神道関連組織に至るまで、幅広い組織に関する資料となっている。後者はパンフレット、写真、広告ビラ、観光案内など雑多な資料で構成されている。各種団体資料は団体ごとに分類し、その他資料と共にそれぞれ年代順に整理した。

・当目録作成に当たっては、資料寄贈の仲介をしていただいた官田光史氏(当時 日本学術振興会特別研究員)が作成した仮目録を元にするとともに、作成時に同氏の協力を得た。ここに記して感謝いたします。

・当目録は、憲政資料室が立本紘之(東京大学大学院 人文社会系研究科 博士課程)に依頼して作成した。

大串兎代夫関係文書(第一次受入分)目録【目次】

1 書簡.....	p. 1
1-1 大串宛書簡.....	p. 1
1-2 その他書簡.....	p. 7
2 大学(戦前).....	p. 9
3 教育(戦前).....	p. 11
4 国民精神文化研究所・教学練成所.....	p. 11
5 大日本言論報国会.....	p. 11
6 文部省教学局・日本諸学振興委員会.....	p. 12
7 企画院・日本法理研究会.....	p. 12
8 弁護士関係.....	p. 15
9 大学(戦後).....	p. 16
10 教育(戦後).....	p. 20
11 憲法学会・憲法関連.....	p. 21
12 海外長期滞在 昭和40～41年.....	p. 23
13 大串兎代夫葬儀・追悼関係.....	p. 27
14 大串兎代夫個人資料.....	p. 28
15 日記・手帳.....	p. 29
16 覚書.....	p. 30
17 原稿・草稿.....	p. 35
18 論文.....	p. 48
18-1 大串作成論文.....	p. 48
18-2 大串訳論文.....	p. 48
18-3 その他論文.....	p. 49
19 雑誌.....	p. 50
20 新聞.....	p. 58
20-1 スクラップ、切抜.....	p. 58
20-2 新聞原紙.....	p. 58
21 書籍類.....	p. 59
21-1 大串作成書籍類.....	p. 59
21-2 大串訳書籍類.....	p. 60
21-3 その他書籍類.....	p. 60
22 各種団体・その他.....	p. 65
22-1 各種団体.....	p. 65
22-2 その他.....	p. 68

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
1. 書簡									
1-1. 大串宛書簡									
1	[DODWELL & COMPANY, LTD. M. NAGAI書簡]	DODWELL & COMPANY, LTD. M. NAGAI	Prof. Toyowo Ohgushi [大串兎代夫]	1966年10月20日	“CITY OF COLOMBO” 注文の件	タイプ	「DODWELL & CO., LTD.」用箋	1・2はステーブラー留め、「DODWELL & CO., LTD.」封筒(表「Prof. Toyowo Ohgushi Fujisawa - city, KANAGAWA Pref.」、一部破損)あり	1通
2	[Dodwell & Co. Ltd. 書簡]	Messrs. Dodwell & Co. Ltd. Yokohama / JAPAN	GEORG-WILHELM SANNE Schiffsmakler - Luftfahrtmakler	1966年10月14日	“City of Colombo” 注文の件	電子式複写			1通
3	[Dr. Bettin書簡]	Dr. Bettin	Herrn Prof. Toyowo Ohgushi [大串兎代夫]	1967年1月9日	独語書簡		「独日友好委員会」用紙		1通
4	[Dürckheim書簡]	[K. Dürckheim]	[Prof. T. Ohgushi]	1945年5月19日	独語書簡	ペン	「DÜRCKHEIM」用紙	4・5は封筒(表「Herrn Prof. T. Ohgushi」「K. Dürckheim」)一括	1通
5	[中国孔聖学会書簡]	中国孔聖学会(公印)	串兎先生 [大串兎代夫]	昭和18年3月25日	中国語書簡	印刷、墨書	中国孔聖学会用箋	4・5は封筒(表「Herrn Prof. T. Ohgushi」「K. Dürckheim」)一括	1通
6	[Dürckheim書簡]	[G. Dürckheim]	[Prof. T. Ohgushi [大串兎代夫]]	[1961年12月29日]	独語書簡	ペン	絵葉書	6・7は封筒(表「Herrn Prof. T. Ohgushi」「G. Dürckheim」)一括	2枚
7	DIE WERKE VON GRAF DÜRCKHEIM				デュルクハイム伯の業績	印刷		6・7は封筒(表「Herrn Prof. T. Ohgushi」「G. Dürckheim」)一括	1綴
8	[Dürckheim書簡]	Karllriw Dürckheim	Lieber Ohgushi! [大串兎代夫]	1944年5月19日	独語書簡	タイプ、ペン	「GRAF K. VON DÜRCKHEIM-MONTMARTIN」用箋		1通
9	[Dürckheim書簡]	G Dürckheim	Tokio Ogushi [大串兎代夫]	1962年1月20日	独語書簡	ペン	「Prof. Dr. GRAF K. VON DU RCKHEIM」用箋	封筒あり	1通
10	[Freundschaftskomitee Deutsche Demokratische Republik - Japan 封筒]	Freundschaftskomitee Deutsche Demokratische Republik - Japan	Herrn Professor Toyowo Ohgushi [大串兎代夫]	[1940年以降]		タイプ、スタンプ、印刷			1枚
11	[G. Leibhok封筒]	G. Leibhok	Professor Toyo Ohgushi [大串兎代夫]	[19] 54年10月14日		タイプ、ペン、鉛筆	「Bundesverfassungsgericht Karlsruhe」封筒		1枚
12	[Hildegard Weidler書簡]	Hildegard Weidler	Herrn Prof. T. Ohgushi [大串兎代夫]	1966年11月13日	独語書簡	タイプ、ペン		封筒あり	1通
13	[J. Barth Dr. C. von Weegmann書簡]	Deutsche Gesellschaft für Natur- und Volkerkunde Ostasiens J. Barth Dr. C. von Weegmann	[大串兎代夫]	1939年6月21日	招待状	タイプ			1通
14	[Otto Koellreutter書簡]	Otto Koellreutter	Mein Lieber Ohgushi! [大串兎代夫]	1940年1月27日	独語書簡	タイプ、ペン	「PROFESSOR OTTO KOELLREUTTER」用紙	14・15は封筒(表「Herrn Toyowo Ohgushi」・裏「Prof. Koellreutter」)一括	1通
15	[Otto Koellreutter書簡]	Prof. Dr. Otto Koellreutter	An das Japanisch-Deutsche Kultur-Institut Tokyo - St. Sehr geehrter Herr Dr. Donat	1940年1月17日	独語書簡	タイプ		後欠。14・15は封筒(表「Herrn Toyowo Ohgushi」・裏「Prof. Koellreutter」)一括	1通
16	[Otto Koellreutterほか書簡]	Ihres alten [不詳] Otto Koellreutter	Lieber Herr Ohgushi! [大串兎代夫]	1933年12月27日	独語書簡	タイプ、ペン			1通
17	[S. Muiwm書簡]	S. Muiwm	Herrn Prof. Toyowo Ohgushi [大串兎代夫]	1957年1月11日	独語書簡	タイプ、ペン	「Prof. Dr. G. Leibholz Richter des BUNDESVERFASSUNGSGERICHTS」用箋	封筒あり	1通
18	[青木栄三書簡]	東京都杉並区青木栄三	藤沢市 大串兎代夫様	[昭和33年11月]	転居通知	ペン、印刷	葉書		1通
19	[有明道場 井上寅雄封筒]	長崎市 有明道場 井上寅雄	東京都渋谷区国学院大学 梧陰文庫 大串兎代夫	昭和40年7月27日		ペン、スタンプ		封筒のみ	1枚

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
20	〔石川一貫書簡〕	〔石川一貫〕	〔大串兎代夫〕	〔昭和35年8月8日〕	今秋あるいは冬には退院できそうなところまでこぎつけました	ペン		封筒（表「神奈川県藤沢市 大串兎代夫様」・裏「横浜市にて 石川一貫」）あり	1通
21	〔稲垣清書簡〕	春日井市 稲垣清	名古屋市昭和区 名城大学内 大串兎代夫	〔昭和35年8月16日〕	ご帰宅のうへはさっそく参上いたしたく存じますゆえ、お手数ながらご一報くださいますよう折り入ってお願いいたします	ペン	葉書		1枚
22	〔稲緑会雑誌部柿崎 入江書簡〕	稲緑会雑誌部 柿崎 入江	先生〔大串兎代夫〕	〔昭和10～18年〕	後で早速ご送付申し上げます	ペン			1枚
23	〔浦野保三書簡〕	名古屋市中村区 浦野保三	神奈川県藤沢市 大串兎代夫	〔昭和36年8月10日〕	近日中にお伺いしようと思っております	ペン	葉書		1枚
24	〔大串兎代夫書簡・覚書〕	〔大串兎代夫〕	〔大串兎代夫・孝子〕	〔1966年〕2月26日（土）朝	原爆慰霊碑の碑文・NHKの人事異動などについて	ペン		封筒（表「Herrn Prof. T. Ohgushi Freiburg」・裏「広島市 大串兎代夫」）あり、24～33は「参議院」封筒一括、封筒表に「開発関係」などの覚書・大串宛不破直三書簡（先生の資料をご送付いたします）あり	1通
25	〔覚書〕	〔大串兎代夫〕	〔大串兎代夫〕	〔1966年5月21日〕	「国土総合開発」に関する資料の写など	ペン、鉛筆		封筒（表「Herrn Toyowo Ohgushi Freiburg」 「広島市 大串兎代夫」）あり。24～33は「参議院」封筒一括	7枚
26	〔大串兎代夫書簡〕	ときを〔大串兎代夫〕	〔大串兎代夫・孝子〕	昭和41年2月18日 夜	広島・長崎の原爆被害状況、教育の方への担務変更などについて	ペン、鉛筆		封筒（表「Herrn & Frau Ohgushi Freiburg」・裏「T. Ohgushi 広島市」）あり。24～33は「参議院」封筒一括	1通
27	〔大串兎代夫書簡・覚書〕	〔大串兎代夫〕	〔大串兎代夫・孝子〕	〔1966年5月4日〕	辞典（「日本管理」「管理経過」などの項目）などの写	ペン、鉛筆		封筒（表「Herrn Toyowo Ohgushi Freiburg」 「広島市 大串兎代夫」）あり。24～33は「参議院」封筒一括	4枚
28	自民党政策（最近のもの）			〔昭和40年〕	雑誌記事（「参議院議員選挙にのぞむ政策大綱」「昭和四十一年度予算の特色と大要」）の合綴	ペン、印刷、鉛筆		ステープラー留め。24～33は「参議院」封筒一括	1綴
29	〔覚書〕				「“Kensetsu-sho-Jugonen-shi” Keizai-kikaku-cho」ほか	鉛筆		24～33は「参議院」封筒一括	1枚
30	〔日本国憲法・国会法・衆議院規則・参議院規則・内閣法・国家行政組織法〕			〔1966年〕	図書の切取り	印刷		封筒（表「Herrn Toyowo Ohgushi Freiburg」・裏「藤沢市 大串益人」）あり。24～33は「参議院」封筒一括	1綴
31	愛知県地方計画作成要領			昭和31年12月5日決定	図書の切取り	印刷、鉛筆		24～33は「参議院」封筒一括	1綴
32	〔大串兎代夫書簡〕	広島市 大串兎代夫	Herrn Toyowo Ohgushi Freiburg〔大串兎代夫〕	〔1966年5月23日〕	調査事項（日本の人口・面積など）・近況の報告	ペン、スタンブ	葉書	24～33は「参議院」封筒一括	1枚
33	私の意見 均衡ある経済計画 物価安定を信ず	経済企画庁長官 藤山愛一郎		昭和41年5月16日	新聞切抜き	印刷、鉛筆		「41.5.16 日本経済」とあり。24～33は「参議院」封筒一括	1枚
34	〔大村書店封筒〕	図書出版 大村書店 東京都練馬区	藤沢市 大串兎代夫	〔昭和40年11月〕		印刷、ペン		封筒のみ	1枚
35	〔大村書店 健五書簡〕	〔大村〕 健五	兄上様〔大串兎代夫〕	〔昭和40年10月〕14日	「はしがき」いただきました、同封の「目次」を中根先生の方にも発送します	ペン		35・36は封筒（表「藤沢市 大串兎代夫様」「図書出版 大村書店 東京都練馬区」）一括	1通
36	行政法講義 目次			〔昭和40年10月〕		印刷		35・36は封筒（表「藤沢市 大串兎代夫様」「図書出版 大村書店 東京都練馬区」）一括	1組
37	〔大村純毅書簡〕	大村市 大村純毅	名古屋市昭和区 名城大学教授 大串兎代夫	〔昭和34年11月11日〕	民生毛糸紡績工場などを視察するため名古屋に宿泊する予定、いずれ学校のほうへ電話連絡します	ペン	葉書		1枚
38	〔大原宗徳書簡〕	東京都練馬区 大泉学芸大学 付中内 大原宗徳	藤沢市 大串兎代夫	〔昭和35年〕7月31日	文部省の校長講習で東京にやってきましたが、連日の講義や演習で出られそうにありません	ペン	葉書		1枚
39	〔小川清太郎書簡〕	小川清太郎	大串先生〔大串兎代夫〕	〔昭和35年〕8月21日	国士館大学の柴田学長から大串先生を政経学部の専任教授にお迎えしたいので内意を伺ってほしいと小生に申し出がありました、如何なものでしょう	ペン		封筒（表「藤沢市 大串兎代夫先生」・裏「東京都北多摩郡狛江町 小川清太郎」）あり	1通

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
40	小田村寅二郎書簡	(社団法人 国民文化研究 会 理事長) 小田村寅二郎	大串兎代夫	昭和41年12月 25日	帰国のごあいさつ	印刷、ペン		ステープラー留め、封筒(表「藤 沢市 大串兎代夫先生」・裏「東 京都中央区 社団法人 国民文化 研究会 小田村寅二郎」)あり	1通
41	〔小野ミツエ書 簡〕	姫路市立家政 女学校内 小 野ミツエ	東京市渋谷区 大串兎代夫	〔昭和17年〕 4月21日	長い間ご消息を伺 いませので、ど うしていらっしゃる かとおハガキを 書くことにいたし ました	ペン	葉書		1枚
42	〔鎌田純一 智子 書簡〕	東京都中野区 鎌田純一 智 子	藤沢市 大串 兎代夫	昭和36年12月	喪中の挨拶	印刷、ペン	葉書		1枚
43	〔亀子書簡〕	亀子	大串さん〔大 串兎代夫〕	1965年	出発前はいろいろ ありがとうございました	色刷、ペン			1通
44	〔瀨瀬宇恵雄書 簡〕	東京都千代田 区 大屋書房 瀨瀬宇恵雄	藤沢市 大串 兎代夫	〔昭和41年〕 10月29日	「仁義理古武志」 の案内	ペン、スタン プ	葉書		1枚
45	〔皇典研究所総務 課書簡〕	皇典研究所 総務課	大串兎代夫	〔昭和10年 代〕1月29日	学階試験御挨拶些 少ながら御受納下 されたく	ペン	「皇典研究 所」罫紙		1枚
46	〔国民教育図書株 式会社書簡〕	東京市神田区 国民教育図書 株式会社	神奈川県片瀬 町 大串兎代 夫	〔昭和18年1 月25日〕	税務署の命により お払い済みの原稿 料を申告すること になりました	ペン、印刷	葉書		1枚
47	〔国民錬成所封 簡〕	東京府北多摩 郡小金井町 国民錬成所	神奈川県片瀬 町 大串兎代 夫	〔昭和20年5 月16日〕		墨書、印刷			1枚
48	〔五十二会書簡〕	世話人 西村 龍介 定松秀 雄 佐々木求 小橋一雄	藤沢市 大串 兎代夫	〔昭和35年12 月26日〕	五十二会月例会御 知らせ	印刷、ペン	葉書		1枚
49	〔後藤書簡〕	後藤	大串先生〔大 串兎代夫〕	昭和□年□月 □日	昨日夜の会見につ いて報告、先方の 条件など	ペン	「三宝工業株 式会社」罫紙		1枚
50	〔後藤是美書簡〕	後藤是美 勤 務先 大分県 立竹田高等学 校 現住所 大分県直入郡 久住町	藤沢市 大串 兎代夫	昭和36年 元 旦	年賀状	印刷、ペン	葉書		1枚
51	〔小西六写真工業 株式会社内 西村 龍介封簡〕	東京都中央区 小西六写真工 業株式会社内 西村龍介	藤沢市 大串 兎代夫	昭和35年8月2 日		ペン、スタン プ			1枚
52	〔小巻大祐書簡〕	東京都渋谷区 小巻大祐	神奈川県鎌倉 郡片瀬町 大 串兎代夫	〔昭和戦後 期〕1月28日	就職も外務省に決 まる	ペン	葉書		1枚
53	〔小巻大祐 貞女 書簡〕	姫路市 小巻 大祐 貞女	藤沢市 大串 兎代夫	昭和41年12月 23日	喪中の挨拶	印刷、ペン	葉書	53・119・1302・1310・1563・ 1725・1799・1818～1821・1927・ 1933は封筒(表「神奈川県藤沢市 大串兎代夫様」・裏「東京都渋谷 区 明治神宮崇敬会」)一括	1枚
54	〔小森義峯書簡〕	京都市右京区 小森義峯	神奈川県藤沢 市 大串兎代 夫	〔昭和41年10 月9日〕	来る10月17日(公 法学会)と18日 (憲法学会)に上 京いたしますにつ きまして、17日夜 先生の御宅にて一 泊させていただい たでしょうか	ペン	葉書		1枚
55	〔小森義峯書簡〕	京都、右京 小森義峯	神奈川県藤沢 市 大串兎代 夫	〔昭和41年10 月15日〕	17日夜、先生の御 宅へ着くのはだい ぶおそくなるので はないかと思いま すが、何分にもよ ろしく願います	ペン	葉書		1枚
56	〔小森義峯書簡〕	京都市右京区 小森義峯	神奈川県藤沢 市 大串兎代 夫	昭和41年10月 26日	先日は夜遅くにお 邪魔しまして、い ろいろご迷惑をお かけいたし、大変 お世話に相成りま した	ペン、スタン プ	葉書		1枚
57	〔小山寛二書簡〕	騒友社 東京 都世田谷区 小山寛二	藤沢市 大串 兎代夫	〔昭和40年〕 6月6日	一周年記念号は今 月25日ごろにお願 い申し上げたく、 恐縮ながらよろし くご配慮賜ります よう	印刷、ペン	葉書		1枚
58	〔小山寛二書簡〕	小山寛二	大串兎代夫	〔昭和41〕年 1〔12〕月18 日	遊欧中の所感の執 筆依頼	ペン	「騒友社」原 稿用紙	「騒友社」封筒(表「藤沢市 大 串兎代夫様」・裏「小山寛二」) あり	1通
59	〔才川長助書簡〕	仙台 才川長 助	名古屋市昭和 区 名城大学 大串兎代夫	〔昭和29～37 年〕11月20日	その後広浜君とも 会いご意向のほど 伝えておきました	ペン	絵葉書		1枚
60	〔佐藤通次封簡〕	神奈川県葉山 町 佐藤通次	藤沢市 大串 兎代夫	〔昭和36年12 月25日〕		ペン、スタン プ			1枚
61	〔佐藤通次書簡〕	神奈川県葉山 町 佐藤通次	藤沢市 大串 兎代夫	昭和37年6月 14日	院と館との過去の 軋轢など越えて手 を携えてゆきたい と思います	ペン、スタン プ	葉書		1枚

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
62	〔佐藤通次書簡〕	佐藤通次	大串兎代夫	〔昭和39年9月3日〕	私の三女がドイツへ留学しました。デュルクハイム氏のご住所をご一報くださいませぬか	ペン	葉書	封筒（表「藤沢市 大串兎代夫様」「神奈川県葉山町 佐藤通次」）あり	1枚
63	〔住所覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和39年〕	デュルクハイムの住所カ	ペン		62と関連カ	1枚
64	〔産業経済新聞社封筒〕	産業経済新聞社	神奈川県片瀬町 大串兎代夫	〔昭和14年以降〕		印刷、ペン	「生産指導者要報」封筒		1枚
65	〔執中会幹事書簡〕	執中会幹事（公印）	大串兎代夫	〔昭和35年8月〕	昭和35年下半年雑費および通信費金1200円也ご納入いただきたいと存じます	印刷、ペン		65・66は封筒（表「昭和区 大串兎代夫様」・裏「名古屋市中区 執中会」）一括	1通
66	請求書	執中会	大串兎代夫	35年8月1日	通信費及雑費1200円	印刷、ペン、スタンプ		65・66は封筒（表「昭和区 大串兎代夫様」・裏「名古屋市中区 執中会」）一括	1枚
67	〔芝田与七書簡〕	芝田与七	名古屋市昭和区 大串兎代夫	〔昭和〕35年盛夏〔8月〕	暑中見舞い	ペン	葉書	昭和郵便局の付箋、「35.8.10」の消印あり	1枚
68	生産義勇隊組織（柴野方彦書簡）	柴野方彦	大串先生〔大串兎代夫〕	〔昭和20年〕3月11日	大串宛書簡と「屯田兵の企業集団別産業義勇軍結成の構想」から成る	墨書、ペン	書冊（「湯浅蓄電池製造株式会社」罫紙）		1冊
69	〔封筒〕（十八日会書簡）	東京都港区中外調査会内十八日会	藤沢市 大串兎代夫	〔昭和37年〕□月19日		ペン、印刷		未開封	1枚
70	〔新日本協議会書簡〕	新日本協議会（公印）	大串兎代夫	昭和34年10月26日	（本会専門委員会の）お車代として金壹万円也同封いたしましたから、ご笑納ください	印刷、ペン		封筒（表「名古屋市昭和区 名城大学内 大串兎代夫殿」・裏「東京都千代田区 明徳会館内 新日本協議会」）あり。70・392～395・805・819・1907・1948は封筒（表「名古屋市昭和区 名城大学内 大串兎代夫先生」・裏「京都市右京区 小森義峯」）一括	1通
71	新日本協議会 安倍源基書簡	新日本協議会代表理事 事務総長 安倍源基	大串兎代夫	昭和35年9月2日	第二回時局懇談会御案内の件	印刷、ペン			1通
72	連絡者名簿	〔新日本協議会〕		〔昭和35年〕		印刷		71の別紙	1枚
73	〔菅原裕書簡〕	菅原裕	大串兎代夫	〔昭和40年〕10月3日	「法典論争」・「不二」12月号恵送の礼状、憲法担当大臣を置くという佐藤総理の発言について	ペン	「菅原裕法律事務所用箋」	封筒（表「神奈川県藤沢市 大串兎代夫先生」・裏「東京都渋谷区 菅原裕」）あり	1通
74	〔鈴木明書簡〕	東京都目黒区弁護士 鈴木明	藤沢市 弁護士 大串兎代夫	昭和27年10月〔3〕日	自宅に電話開通いたしました	ペン、印刷	葉書		1枚
75	〔須知徳平書簡〕	須知徳平	大串先生〔大串兎代夫〕	〔昭和41年〕10月13日	甥の須知真郎（亜細亜大学1年生）と大串先生の機縁に驚き、また懐かしく嬉しく、私の学生時代、教えを受けた先生のことを話したりしました。目下、私はアイヌの娘、知里幸恵さんのことを書いております	ペン	「文房堂製」原稿用紙	封筒（表「神奈川県藤沢市 大串兎代夫先生」・裏「東京都練馬区 須知徳平」）あり	1通
76	〔政界往来編集部書簡〕	政界往来編集部	大串兎代夫	〔昭和27年〕10月23日	『政界往来』12月号に「首班争奪に露呈された日本政党政治の本質」をぜひとも執筆たまわりたい	印刷、ペン			1通
77	〔政治刷新国民運動封筒〕	政治刷新国民運動 東京都中央区	藤沢市 大串兎代夫			印刷、謄写版	「政治刷新」封筒		1枚
78	〔成文堂封筒〕	図書出版 株式会社 成文堂 東京都新宿区	藤沢市 大串兎代夫	〔昭和41年〕12月9日		印刷、墨書、スタンプ	「成文堂」封筒	「著者献本在中」印あり	1枚
79	〔禅道発行所 足利禅道会封筒〕	足利市 禅道発行所 足利禅道会	神奈〔川〕県片瀬町 大串兎代夫	〔昭和22～24年〕		謄写版、墨書、スタンプ			1枚
80	〔騒友社封筒〕	騒友社 小山寛二・杉田有窓子 東京都世田谷区	藤沢市 大串兎代夫	〔昭和40年〕3月25日		ペン	「騒友社」封筒		1枚
81	騒友社 小山寛二 杉田有窓子書簡	騒友社 小山寛二 杉田有窓子	大串兎代夫	昭和40年7月初院	“騒友”酒談会御案内	印刷、ペン		封筒（表「藤沢市 大串兎代夫様」・裏「東京都世田谷区 騒友社 小山寛二 杉田有窓子」）あり	1通
82	〔園田新兵書簡〕	園田新兵	大串先生〔大串兎代夫〕	〔昭和戦後期〕12月20日	山本・阿刀氏の動向	墨書			1通
83	〔第九回 川合修二作陶展封筒〕	第九回 川合修二作陶展	神奈川県片瀬町 大串兎代夫	昭和35年10月11日～16日	会期 昭和三十五年十月十一日～十六日	印刷、ペン			1枚

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
84	〔高階研一書簡〕	榎原神宮宮司 高階研一		昭和42年1月 吉辰	紀元祭の案内	印刷		84～88は封筒（表「藤沢市 大串 兎代夫殿」・裏「榎原神宮宮司 高階研一 奈良県榎原市」）一括	1通
85	〔建国記念日制定 祝賀式典発起人書簡〕	建国記念日制定 祝賀式典発起人 神社本 庁統理 佐佐 木行忠 奈良 県知事 奥田 良三 榎原神 宮宮司 高階 研一		昭和四十二年 一月吉辰	建国記念日制定祝 賀式典の案内	印刷		84～88は封筒（表「藤沢市 大串 兎代夫殿」・裏「榎原神宮宮司 高階研一 奈良県榎原市」）一括	1通
86	〔榎原神宮祭儀課 書簡〕		奈良県榎原局 区内 榎原神 宮祭儀課	〔昭和42年〕	紀元祭・建国記念 日制定祝賀式典へ の参列についての 回答	印刷	葉書	84～88は封筒（表「藤沢市 大串 兎代夫殿」・裏「榎原神宮宮司 高階研一 奈良県榎原市」）一括	1枚
87	紀元祭次第			〔昭和42年〕		印刷		84～88は封筒（表「藤沢市 大串 兎代夫殿」・裏「榎原神宮宮司 高階研一 奈良県榎原市」）一括	1枚
88	御参列についての 注意			〔昭和42年〕		印刷		84～88は封筒（表「藤沢市 大串 兎代夫殿」・裏「榎原神宮宮司 高階研一 奈良県榎原市」）一括	1枚
89	〔高橋治書簡〕	高橋治	大串兎代夫	〔昭和39年〕 7月27日	9月18日午後を予定 いたし、ただいま 松木氏宛て書信い たしおきましたの で、いずれあらた めて連絡あるはず です	ペン	「相州・鶴沼 在・高橋用 箋」	封筒（表「神奈川県藤沢市 大串 兎代夫様」・裏「神奈川県藤沢市 高橋治」）あり	1通
90	〔田中卓郎書簡〕	名古屋市昭和 区 田中卓郎	藤沢市 大串 兎代夫	昭和35年12月 15日	喪中の挨拶	印刷、墨書	葉書		1枚
91	〔玉置保書簡〕	京都市中京区 玉置保	神奈川県藤沢 市 大串兎代 夫	昭和36年12月	喪中の挨拶	印刷、ペン	葉書		1枚
92	〔坪井与雄書簡〕	名古屋市瑞穂 区 愛知日産 自動車K・K南 部営業所 坪 井与雄	藤沢市 大串 兎代夫	昭和35年8月	暑中見舞い	ペン、スタン プ	葉書		1枚
93	〔東光書院 村上 綸太郎書簡〕	埼玉県比企郡 菅谷村 東光 書院 村上綸 太郎	神奈川県藤沢 市 大串兎代 夫	〔昭和33年〕 7月24日	東光書院建設資 金、いくらかご送 金願えれば幸甚で す	ペン	葉書		1枚
94	〔中井勝彦書簡〕	京都市上京区 中井勝彦	神奈川県藤沢 市 大串兎代 夫	〔昭和41年9 月〕	阪本様にお会いし ましたところ、先 の話はないことに してほしいとこと	印刷、ペン	葉書	「9月29日」の消印ありカ	1枚
95	〔中井勝彦書簡〕	勝彦	大串先生〔大 串兎代夫〕	〔昭和41年9 月28日〕	阪本先輩が北野神 社を退職し、東京 方面で住みたいと 希望、先輩を助け る方法を考へてく ださい	ペン	「T.S」便箋	封筒（表「神奈川県藤沢市 大串 兎代夫先生」・裏「京都市上京区 白峯神宮宮司 中井勝彦」）あり	1通
96	〔中野正子書簡〕	東京都大田区 中野正子	神奈川県藤沢 市 大串兎代 夫	〔昭和〕33年 盛夏	暑中見舞い	墨書	葉書		1枚
97	〔名古屋地方検察 庁書簡〕	名古屋市中区 名古屋地方検 察庁	神奈川県藤沢 市 大串兎代 夫	〔昭和41～42 年〕	ご面談いたしたい ことがありますか ら来る1月26日午後 1時当係員（刑事部 笹岡検事）までお いでください	印刷、ペン、 鉛筆	葉書		1枚
98	〔西内雅書簡〕	西内雅	大串賢台〔大 串兎代夫〕	〔昭和39年〕 2月7日	憲法基本問題の研 究員・富田先輩宅 を訪ねる件	墨書	「KOKUYO」便 箋	98・99は封筒（表「藤沢市 大串 兎代夫様」・裏「東京都町田市 西内雅」）一括	1通
99	〔富田健治書簡〕	平塚市 富田 健治	都内町田市 西内雅	〔昭和39年〕 2月25日	2月14日は先約これ あり、できれば 次の土曜に願われ ませんか	ペン、印刷	葉書	98・99は封筒（表「藤沢市 大串 兎代夫様」・裏「東京都町田市 西内雅」）一括	1枚
100	〔日本経済新聞社 書簡〕	株式会社 日 本経済新聞社 （公印）	大串兎代夫	〔昭和〇年〕 某月某日	ご稿料を同封お届 けいたします	印刷、カーボ ン			1通
101	〔封筒〕	日本経済新聞 社	神奈川県藤沢 市 大串兎代 夫	1月22日		スタンプ、ペ ン、鉛筆		100の封筒カ	1枚
102	〔封筒〕（日本健 青会中央本部書 簡）	東京都台東区 日本健青会中 央本部	藤沢市 大串 兎代夫	〔昭和30年8 月19日〕		印刷、墨書		未開封	1枚
103	〔日本交易株式会 社 島崎書簡〕	日本交易株式 会社 島崎	神奈川県藤沢 市 弁護士 大串兎代夫	〔昭和25年〕 11月9日	三月中には全部に ならぬまでもご送 金いたすつもりで います	印刷、ペン	葉書		1枚
104	〔日本政治資料調 査所封筒〕	東京都新宿区 日本政治資料 調査所	藤沢市 大串 兎代夫	〔昭和39年9 月1日〕		印刷、ペン	「旬刊 日本 政治資料」封 筒	封筒のみ	1枚

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
105	〔日本放送協会 放送文化研究所長 書簡〕	日本放送協会 放送文化研究 所長	大串兎代夫	昭和23年1月 19日	放送の参考資料と して各方面にご活 躍中の皆様のカ ードを作ること になりました、同封 の用紙にお書入れ のうえご返送下 さるようお願い 申し上げます	謄写版、ペン			1通
106	〔野本幸男書簡〕	佐世保市 野 本商店 野本 幸男	神奈川県藤沢 市 大串兎代 夫	盛夏〔昭和40 年8月4日〕	暑中見舞い	色刷、ペン	葉書		1枚
107	〔野本幸雄書簡〕	佐世保郡福田 町 野本幸雄	神奈川県藤沢 市 大串兎代 夫	〔昭和39年8 月29日〕	残暑見舞い、私の 第二の人生も近づ いてきました	ペン	葉書		1通
108	花見達二君快気激 励会の案内	発起人 岩淵 辰雄ほか13名	神奈川県藤沢 市 大串兎代 夫	昭和35年6月		印刷、ペン	往復葉書		1枚
109	〔林田重喜書簡〕	満洲国牡丹江 第十軍郵便所 気付 満洲第 八七五六部隊 古賀隊 林田 重喜	神奈川県片瀬 町 大串兎代 夫	〔昭和10年 代〕	海苔をお送りいた だきまして恐縮に 存じます	ペン、スタン プ	葉書（軍事郵 便）		1枚
110	〔日置春良書簡〕	春良	大串先生〔大 串兎代夫〕	〔昭和38年9 月〕17日	先生よりお便りを いただき恐縮して おります	ペン	「コクヨ」原 稿用紙	封筒（表「名古屋市 大串兎代夫 先生」・裏「兵庫県多紀郡篠山町 日置春良」）あり	1通
111	〔日置春良封筒〕	兵庫県多紀郡 内神社連合会 長 日置春良 兵庫県多紀郡 篠山町	大串先生〔大 串兎代夫〕	昭和□年□月 □日〔発信〕		印刷、墨書			1枚
112	〔不二出版社書 簡〕	不二出版社 （公印）	大串兎代夫	昭和23年1月 10日	年末会計整理の御 高配に深謝	謄写版、墨書			1通
113	〔藤田嗣雄書簡〕	東京都新宿区 藤田嗣雄	神奈川県藤沢 市 大串兎代 夫	〔昭和41年〕 12月19日	貴論文お送り下 され恐縮に存じま す、拙著お送り申 上げましたところ 早速お返事に接 しお礼申し上げます 、目下明治憲法 を検討しております	ペン	葉書		1枚
114	〔藤田豊書簡〕	藤田	大串先生 奥 様〔大串兎代 夫・孝子〕	20日	12日夜は失礼いた しました、27日に 新宿へ引越します	ペン	「東京電機大 学」便箋		1通
115	文化講座御案内	主催 仏教文 化研究会	藤沢市 大串 兎代夫	〔昭和35年12 月22日〕		印刷、ペン	葉書		1枚
116	〔古屋傑書簡〕	都内葛飾区 東京拘置所内 古屋傑	神奈川県藤沢 市 大串兎代 夫	〔昭和25年12 月1日〕	控訴の所存につき 先生のご意見お洩 らし願う	ペン、スタン プ			1枚
117	〔古財陸男書簡〕	古財	大串先生〔大 串兎代夫〕	〔昭和41年〕 10月4日	15日にでもご高説 拝聴の歓迎会を開 催いたしたく池田 君が手配中、来春 開校予定の国学院 八王子大学に吉永 君を学生課長か何 かでぜひ送り込み たく目下極秘に工 作中		「船橋市立法 田中学校」罫 紙	「船橋市立法田中学校」封筒（表 「神奈川県藤沢市 大串兎代夫先 生」・裏「千葉県船橋市 古財陸 男」）あり	1通
118	〔平楽寺書店封 筒〕	京都市 平楽 寺書店	藤沢市 大串 兎代夫			印刷	「平楽寺書 店」封筒	封筒表に「目録在中」とあり	1枚
119	〔別府次郎封筒〕	東京都北多摩 郡 別府次郎	神奈川県藤沢 市 大串兎代 夫	〔昭和〕41年 12月21日		ペン、スタン プ		53・119・1302・1310・1563・ 1725・1799・1818～1821・1927・ 1933は封筒（表「神奈川県藤沢市 大串兎代夫様」・裏「東京都渋谷 区 明治神宮崇敬会」）一括	1枚
120	〔徳積五一書簡〕	東京〔都〕文 京〔区〕徳 積五一	名古屋市中区 大串兎代夫	〔昭和34年10 月16日〕	未延一二三様去る 13日ご他界、来る 18日川越市の光西 寺においてご葬 儀、とりあえずお 知らせいたします	ペン	葉書		1枚
121	〔孫田秀春 増田 義一書簡〕	孫田秀春 増 田義一	大串兎代夫	昭和20年12月 27日	「日本国家科学大 系」第12・13巻は 事態の急変により 発行を中止するの 止むを得ざるに立 ち至りました	謄写版、ペン			1通
122	〔正元書簡〕	正元	大串兎代夫		展覧会がございま すのでご笑覧ご叱 正願います	ペン			1枚
123	〔益田書簡〕	益田■	大串先生〔大 串兎代夫〕	〔昭和10年 代〕10月9日	写真が完成いたし ましたのでご送付 申し上げます、自 身と友人の近況	ペン	「国学院大学 論文用紙」		1枚
124	〔松本米治書簡〕	松本米治	大串兎代夫	〔昭和41年〕 10月20日	憲法学会のご報告 には、強い感銘を 受けました	ペン	「松本用箋」	封筒（表「神奈川県藤沢市 大串 兎代夫様」・裏「京都市左京区 松本米治」）あり	1通

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
125	〔三須武男書簡〕	東京都杉並区 三須武男	藤沢市 大串 兎代夫	昭和40年10月 4日	「不二」誌ご恵送 下され、ありがた く存じおります	ペン、スタン プ	葉書		1枚
126	〔三須武男書簡〕	三須生	大串先生〔大 串兎代夫〕	〔昭和41年〕 11月4日	憲法の会大会に熱 演くされ一同感 銘深きしだい、お 話の件は太田君に 話いたしおきまし たのでお含みおき くださいましたし		「TS」便箋	封筒（表「神奈川県藤沢市 大串 兎代夫先生」・裏「東京都杉並区 三須武男」）あり	1通
127	〔森経夫書簡〕	台湾派遣誠第一 八四七一部 隊 森経夫	神奈川県片瀬 町 大串兎代 夫	〔昭和20年10 月〕	終戦後の苦難を拝 察	ペン	葉書		1枚
128	〔毛呂清輝書簡〕	師走二日夕 毛呂清輝	大串兎代夫	〔昭和41年〕	小誌「新勢力」に 滞雑感的な一文 をいただけません か	墨書		封筒（表「藤沢市 大串兎代夫 様」・裏「東京都大田区 毛呂清 輝」）あり	1通
129	〔八尾忠伯書簡〕	大阪府南河内 郡美陵町 八 尾忠伯	名古屋市昭和 区 大串兎代 夫	〔昭和35年〕 盛夏	暑中見舞い、先 日はわざわざ資料 をお送りいただき ありがとうございます	ペン	葉書	「35.8.5」の消印あり	1枚
130	〔麗沢大学学友会 会長 北川治男書 簡〕	千葉県柏市 麗沢大学学友 会 会長 北 川治男	藤沢市 大串 兎代夫	〔昭和39年9 月3日〕	夏季学生シンポジ ウムに際しまして は、私たちのため に多大なお力添え をたまわりまして まことにありがと うございました	ペン	葉書		1枚
131	〔渡辺書簡〕	渡辺生	先生〔大串兎 代夫〕	〔昭和10年 代〕5日午前	門の扉だけ繕し ました	ペン	「朝倉書店用 紙」	郵便書簡ではなく置手紙のような ものカ	1枚
132	〔渡辺昌幸書簡〕	渡辺昌幸	藤沢市 大串 兎代夫先生 御家内御局様 〔大串兎代 夫・孝子〕	〔昭和41年〕 9月1日	日本通運株式会社 晴海埠頭支店へ転 勤することになり ました	印刷、ペン	葉書		1枚
133	〔不明書簡〕		〔大串兎代 夫〕	〔昭和10年 代〕	主人が世田谷の部 隊に無事入隊いた しました	ペン	「日本学術振 興会」罫紙		1枚
134	〔不明書簡〕	〔不詳〕	Herrn Professor T. Ohgushi〔大 串兎代夫〕	1945年4月25 日	独語書簡	タイプ、ペン	「DER LANDESGRUPPE NLEITER DER AUSLANDS- ORGANISATION DER NSDAP IN JAPAN」用 紙		1通
135	〔不明書簡〕		〔大串兎代 夫〕	〔昭和戦後 期〕	戦後の民衆の動向 について	墨書		前後欠	1枚
136	〔不明書簡〕		〔大串兎代 夫〕	〔昭和20年10 月〕	練成所辞職の報 告、毎日新聞の不 信義はひどいです ね	ペン			1枚
137	〔不明封筒〕		Herrn Prof. Toyo Ohgushi 〔大串兎代 夫〕			ペン		「Hochschwarzwald」の消印あり	1枚
1-2. その他書簡									
138	〔Chartered Express Co., Ltd. 封筒〕	Chartered Express Co., Ltd. Room No. 311 Tokyo Business Residence				印刷、タイプ	「CHARTERED EXPRESS CO., LTD.」封筒	「VIA AIR MAIL」	1枚
139	〔Hertha Jahn封 筒〕	Hertha Jahn Bad Nauheim	Fräulein Reiko Tachiiri HAMBURG〔建 入黎子〕	〔1966年9月8 日〕		タイプ、スタ ンプ		封筒のみ	1枚
140	〔Otto Koellreutter書 簡〕	Otto Koellreutter			独語書簡	ペン		前欠	1通
141	〔相原良一書簡〕	相原良一	建国記念日審 議会	昭和41年11月 21日	祝祭日に関する大 学入試問題の解答 について	謄写版		「写」「秘」印あり	1通
142	〔出光佐三書簡〕	宗像神社復興 期成会長 出 光佐三		昭和三十七年 七月十八日	今般「宗像神社史 上巻」を上梓しま した	印刷、ペン			1通
143	〔大串一郎書簡草 稿〕	大串一郎拝	高浦又市 大 久保千代吉	〔昭和10年 代〕3月10日	講金出銅負担の件	ペン	「国民精神文 化研究所」原 稿用紙	143～145は同折	1組
144	〔大串一郎書簡草 稿〕	大串一郎拝	大久保千代吉	〔昭和10年 代〕2月23日	橋本君よりの出銅 これなき模様の解 決法について	ペン	「国民精神文 化研究所」原 稿用紙	143～145は同折	1枚
145	〔大串一郎書簡草 稿〕	〔大串一郎〕		〔昭和10年 代〕	所有権の譲渡しに ついて	ペン	「国民精神文 化研究所」原 稿用紙	143～145は同折	1枚
146	〔大串一郎書簡〕	〔大串一郎〕	〔高浦又市〕		年講の件	ペン		封筒（表「長崎県西彼杵郡面高村 高浦又市殿」・裏「神奈川県片瀬 町 大串一郎」）あり	1通
147	〔大串兎代夫封 筒〕	〔大串兎代 夫〕		〔昭和10年 代〕				原稿用紙の紙背使用	1枚

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
148	〔大串兎代夫書簡草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10～20年代〕	「拝復 その後お障りもあらせられず おすごしでいらつしやいませうか」	ペン	「日本法理研究会用紙」		1枚
149	〔大串兎代夫書簡草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	私共二日朝やっと東京に帰ってまいりました	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1枚
150	〔大串兎代夫書簡草稿〕	Tokio	Verehrtes Fräulein Encken!	1938年12月10日	独語書簡	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1通
151	〔大串兎代夫書簡草稿〕	〔大串兎代夫〕	先生	〔昭和19～20年〕	荒井福子一家の紹介状	ペン	「教育研究会原稿用紙」		1枚
152	〔大串兎代夫書簡草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年6月〕	「戦時特別措置法」通過に伴い論調を変えてもう一度書いてみました	ペン	「法律新報」原稿用紙		1枚
153	〔大串兎代夫書簡草稿〕	兎代夫	姉上	〔昭和20年〕 7月29日	英彦の養育・特許その他のことについて、(特許の件カ)技術院の松前重義さんに相談します	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	2頁。153・924～928は同折	1枚
154	〔大串兎代夫書簡草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年代〕	私は(農地委員会の)通知の廻送を受けておりません	ペン	「法律新報社」罫紙	154・1165～1167は同折	1枚
155	〔大串兎代夫書簡草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年代〕	翻訳の仕事などいたし、そのうち本でも書こうかと思っています	ペン	「松屋製」原稿用紙		1枚
156	〔大串兎代夫書簡草稿〕	〔大串兎代夫〕	林	〔昭和20年〕	小生中央にありながら力及ばず、かくの如き結果となり自分として大死一番の外なしと存じております	ペン	「国民錬成所」原稿用紙		1組
157	〔封筒〕(大串兎代夫書簡)	神奈川県藤沢市 大串兎代夫	芝区 [菅] 谷理次郎	昭和24年10月6日		ペン、謄写版、スタンプ		未開封、持戻りを伝える芝郵便局の付箋あり	1枚
158	〔大串兎代夫書簡草稿〕	〔大串兎代夫〕		1950年7月19日	独語書簡			「Katase, d. 19. Juli, 1950.」とあり	1組
159	〔大串兎代夫書簡草稿〕	〔大串兎代夫〕		1954年10月1日	独語書簡	ペン	「築地運送株式会社」罫紙		1通
160	〔大串兎代夫書簡草稿〕	神奈川県藤沢市 大串兎代夫	東京都中野区 秋元条次郎	昭和41年12月31日	貴殿使用の宅地は小生において法律事務所建設のため必要となりました	鉛筆	「大串用箋」		1枚
161	〔大串兎代夫書簡草稿〕	〔大串兎代夫〕			健五の教育について	ペン	「松屋製」原稿用紙		1組
162	〔大串兎代夫書簡草稿〕	〔大串兎代夫〕			書出し「拝復 御申越しの小切手、」のみ	ペン	「松屋製」原稿用紙		1枚
163	〔大串兎代夫封筒〕	〔大串兎代夫〕	茅ヶ崎市 田代庄次郎			ペン		封筒のみ	1枚
164	〔太田耕造書簡〕	Rektor Kozo Ohta Asia University [太田耕造]		1966年11月16日	独語書簡、文献リスト	タイプ		ステープラー留め、文字かすれあり	1綴
165	〔清田邦三書簡〕	清田邦三	中倉節男	昭和27年5月23日	土地家屋の譲渡に関する念書の写真	写真		「ひろさわ写真商会」封筒(表「米山様」)あり	1枚
166	御案内(国際協力開発研究所後援会書簡)	国際協力開発研究所後援会代表 足立正原安三郎 高杉晋一	各位	昭和40年2月5日	上智大学農学博士野間海造氏の研究報告会と、かねてより願申申し上げておりました「国際協力開発研究所」法人化の準備会への御出席の御都合を返信下さい	印刷			1綴
167	〔小橋紙器株式会社 小橋一雄行書簡〕		東京都練馬区 小橋紙器株式会社 小橋一雄		出欠連絡	印刷	往復葉書(返信)		1枚
168	督促状(国立横浜病院 石川寿章書簡)	横浜市戸塚区 歳入徴収官 国立横浜病院 石川寿章(公印)	藤沢市 大串芳子	昭和35年12月2日	診療費の納付について	印刷、ペン、スタンプ、カーボン	葉書		1枚
169	〔白坂京一書簡〕	白坂京一	大串孝子	8月10日	上京の感想	青焼き、ペン		ステープラー留め	1綴
170	〔陳公博書簡〕	陳公博謹訂		〔昭和10年代〕4月9日	招待状	印刷、スタンプ		封筒(差出「上海特別市政府 緘」・宛名「虹口百老口大樓五〇八号 大串先生転交 文化使節団 塩谷温団長閣下」)あり	一紙
171	〔東大卒業生名簿編纂委員会書簡〕	東大卒業生名簿編纂委員会		昭和41年11月	『東大人名録』「四十二年版・官公庁編」を何卒、一冊お備えいただけますでしょうか	印刷		171～173は一括	1通
172	払込票 払込通知票					印刷		171の別紙払込票。171～173は一括	1通
173	東大人名録・官公庁編(42年版)予約のお願い	東大卒業生名簿編纂委員会		昭和41年□月□日	内容紹介と予約申込書	印刷		171～173は一括	1枚

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
174	〔中井勝彦書簡〕	中井勝彦	東京都渋谷区池田己代治	〔昭和41年10月11日〕	会合の欠席通知、阪本様も高階先生の力で広田神社官司に定まるようです	謄写版、ペン	往復葉書（返信）		1枚
175	〔西方マーケット和洋菓子部封筒〕	片瀬西方 西方マーケット和洋菓子部		〔昭和10年代〕		スタンプ			1枚
176	〔根本勝書簡〕	根本勝	大串兎紀夫	〔平成4年〕	先生のことを東憲に投稿、掲載されましたのでお送り申し上げます。なおNHKより照会がありましてそのうち回答するつもりであります	ペン	「KOKUYO」便箋	ステープラー留め。176～178は封筒（表「藤沢市 大串兎紀夫様」・裏「横須賀市 根本勝」）一括	1通
177	憲校教官大串兎代夫師のこと	横須賀市 根本勝		〔平成4年〕		電子式複写		『東憲』第282号掲載文のコピー。ステープラー留め。176～178は封筒（表「藤沢市 大串兎紀夫様」・裏「横須賀市 根本勝」）一括	1枚
178	〔山下信久書簡〕	NHKスペシャル「太平洋戦争」プロジェクトディレクター 山下信久	根本勝	〔平成4年〕	フィリピン戦でのレジスタンス、抗日ゲリラについてご存じのことをお教え頂ければ幸いです	印刷		ステープラー留め。176～178は封筒（表「藤沢市 大串兎紀夫様」・裏「横須賀市 根本勝」）一括	1枚
179	〔荻豆子封筒〕	東京都豊島区荻豆子		〔昭和20年代〕8月25日		鉛筆			1枚
180	〔馬場書簡〕	馬場	不破〔直巳〕		諸論文、官庁資料をまとめたものですので、先生の御要望に沿えるものと思います	ペン	「参議院」用箋	180・181は封筒（表「渋谷区 不破直巳様」「Prof. T. Ohgushi」）一括	1枚
181	調レ第一九〇号一ドル＝三六〇円の為替レートについて	国会図書館調査立法考査局財政金融調査室 財政金融課		昭和41年6月1日		印刷		ステープラー留め。180・181は封筒（表「渋谷区 不破直巳様」「Prof. T. Ohgushi」）一括	1綴
182	〔ポール・リシヤール博士後援会書簡〕		東京都足立区依田方 ポール・リシヤール博士後援会	昭和40年盛夏	P・リシヤール博士の日本招聘と後援会の件	印刷	葉書	昭和40年7月の書簡カ。182・183は封筒（表「P・リシヤール博士後援会」）一括	1枚
183	〔ポール・リシヤール博士後援会書簡〕	東京都中央区スエヒロ道輝会館内ポール・リシヤール博士後援会		昭和40年8月1日	P・リシヤール博士後援会の出欠確認	印刷	往復葉書	180・181は封筒（表「渋谷区 不破直巳様」「Prof. T. Ohgushi」）一括	1枚
184	民衆大学時局解説執筆各位へおねがひ(民衆大学編集部書簡)	〔民衆大学編集部〕		〔昭和20年代〕	原稿執筆に際しての注意点	謄写版			9枚
185	〔名城大学封筒〕			〔昭和30年代〕			「名城大学」封筒		1枚
186	〔緑水会九州支部 秦一之 栗山就吉 岡田安雄 室原亥十二書簡〕	緑水会九州支部 秦一之 栗山就吉 岡田安雄 室原亥十二	緑水会会員各位	昭和40年11月10日	緑水会総会において、緑水会会誌ならびに名簿を早急に調整配布することに決定	印刷、ペン		封筒（表「神奈川県藤沢市 大串兎代夫様」・裏「五高ボート部緑水会連絡事務所 熊本市 室原医院 室原亥十二」）あり	1通
187	ヤコブ・フィッシャー (J. Fischer) 先生について (連絡幹事 上智大 品田豊治 総理府 栗山廉平書簡)	連絡幹事 上智大 品田豊治 総理府 栗山廉平		〔昭和40年前後〕	ヤコブ・フィッシャー氏の履歴ほか	電子式複写		右下に「酒井」(ペン)とあり	1枚
188	〔不明書簡〕			〔昭和戦後期〕	家に着いて捜しはじめましたが、どうしてもみつきりません	ペン	「KOKUYO」便箋	188・189は同折	1通
189	〔不明書簡〕			〔昭和戦後期〕	履歴書がやっとみつきりましたので送ります	鉛筆	「KOKUYO」便箋	188・189は同折	1通
190	〔不明書簡〕				ドイツから本を送ってきましたから転送します	ペン	「KOKUYO」便箋	家族の手紙カ。後欠	1通
2. 大学 (戦前)									
191	〔「哲理的国家観」「歴史的国家観」講義ノート〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和戦前期〕		ペン、鉛筆	〔ノートブック〕	表紙なし	1冊
192	〔講義ノート覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和戦前期〕	独語覚書	鉛筆	ノートブック		1冊
193	国家学	〔大串兎代夫〕		〔昭和戦前期〕	講義ノートカ	ペン		表紙破損	1冊
194	〔逐条憲法講義ほか講義ノート〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕		ペン		破損あり	1冊
195	〔「第〇章 天皇親政」講義ノート〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕		ペン		破損あり	1枚
196	〔講義ノート覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	「第二講 国体法」の講義ノートカ	ペン			1枚

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
197	〔講義ノート覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	ヨーロッパ史の講義ノートカ	ペン			1綴
198	国体学（三）	大串先生御講述		〔昭和10年代〕		ペン	「賢文館用箋」	「賢文館用箋」を冊子体にまとめたもの	1冊
199	国体学（四）	大串先生御講述		〔昭和10年代〕		ペン	「賢文館用箋」	「賢文館用箋」を冊子体にまとめたもの	1冊
200	国体学（五）	大串先生御講述		〔昭和10年代〕		ペン	「賢文館用箋」	「賢文館用箋」を冊子体にまとめたもの	1冊
201	国体学（六）	大串先生御講述		〔昭和10年代〕		ペン	「賢文館用箋」	「賢文館用箋」を冊子体にまとめたもの	1冊
202	国体学（七）	大串先生御講述		〔昭和10年代〕		ペン	「賢文館用箋」	「賢文館用箋」を冊子体にまとめたもの	1冊
203	国体学（八）	大串先生御講述		〔昭和10年代〕		ペン	「賢文館用箋」	「賢文館用箋」を冊子体にまとめたもの	1冊
204	文化部予算見積書	大串兎代夫		〔昭和10年代〕		ペン			1枚
205	〔大串兎代夫書簡草稿〕	大串兎代夫	松尾三郎	〔昭和10年代〕1月27日朝	今度の学校（国学院）の新内容について文部省へ届ける件	ペン			1組
206	憲法論文 明治維新に於ける五箇条の御誓文と帝国憲法	国学院大学高等師範部 第四学年六九番 吉成謙		〔昭和11～20年〕		ペン	書綴（「国学院大学論文用紙」）	綴はずれ	1綴
207	帝国憲法論文 憲法第一条に就いて	第四、三九 竹村淳	大串先生〔大串兎代夫〕	〔昭和11～20年〕		墨書、ペン	書綴（「国学院大学論文用紙」）	綴はずれ	1綴
208	若木 創刊号	国学院大学院友会内 若木会 右代表者 大串兎代夫		昭和12年3月20日〔発行〕		印刷		破損あり	1冊
209	若木 第弐号	国学院大学院友会内 若木会 右代表者 大串兎代夫		昭和12年10月20日〔発行〕		印刷			1冊
210	新入生歓迎会			〔昭和〕13年4月	写真	電子式複写		210～212は一括	1枚
211	志士寮送別会			〔昭和〕17年	写真	電子式複写		210～212は一括	1枚
212	吟ぢる 藤野雄輔候補生			〔昭和10年代〕	写真	電子式複写		210～212は一括	1枚
213	会報 会名改称記念号（第六号）	国学院大学大亜細亜研究会		昭和13年11月		電子式複写		ステープラー留め	1冊
214	思想と学生 準備号 国家論特輯	発行所 国学院大学大亜細亜研究会 事務所 志士寮		昭和14年4月3日〔発行〕	大串兎代夫「家族国家の理念」掲載	電子式複写		ステープラー留め	1冊
215	〔（国学院大学）新聞学会係書簡〕	新聞学会係	〔国学院大学〕専門部興亜部学監 大串先生〔大串兎代夫〕	〔昭和15～20年〕	新入生に対するお言葉をお届けできれば幸いです	ペン	「皇典講究所所報原稿用箋」		1枚
216	上代に於ける神典編纂に就いての一考察一特に聖書を対象として一	興亜部第二学年十八番 三浦郁雄		〔昭和15～20年〕		ペン	「国学院大学論文用紙」	金具留め	1冊
217	古事記論文 国生みの思想に就いて	興亜部二年十七番 堀江三郎		〔昭和15～20年〕		ペン	書綴（「国学院大学論文用紙」）	クリップ留め	1綴
218	古事記 本質なるものへの確認	興二 二五 船田祥一		〔昭和15～20年〕		ペン	書綴（「国学院大学論文用紙」）	ステープラー留め	1綴
219	古事記より見たる現代	興亜部二年十九番 村田敏之	大串教授〔大串兎代夫〕	〔昭和15～20年〕		ペン	書綴（「国学院大学論文用紙」）		1綴
220	江戸時代の国学者と古事記	興亜部二年二十二番 吉岡二郎	大串先生〔大串兎代夫〕	〔昭和15～20年〕		ペン	書綴（「国学院大学論文用紙」）		1綴
221	○古事記論文「古事記に於ける国生み神生みに付て」	興亜部二年二十番 村井末吉	大串先生〔大串兎代夫〕	〔昭和15～20年〕		ペン	書綴（「国学院大学論文用紙」）		1綴
222	エホバは果して神なりや否や。	興亜部二年二三番 和田治次	大串先生〔大串兎代夫〕	〔昭和15～20年〕		ペン	「国学院大学論文用紙」		1組
223	〔国体論原稿〕	〔国学院大学学生〕		〔昭和16～20年〕	講義レポートカ	ペン	書綴（「国学院大学作文作歌祝詞作文用紙」）		1綴
224	第二章 国家の成立に関する研究 第一節 人類の生存形態	大串教授 国家学 清水		〔昭和16～20年〕		印刷		ステープラー留め	1綴
225	維新の性格	国史学科 金子智親	憲法 大串兎代夫	昭和16年度		ペン	書綴（「国学院大学論文用紙」）	ステープラー留め	1綴
226	古事記	大串兎代夫		昭和17年4月於国学院大学	講義ノート	墨書、ペン			1冊
227	学部 国家学	大串		昭和18年	講義ノート	墨書、ペン	学用ノート（「統制株式会社」製）		1冊
228	数学科			昭和18年1月27日	教授方針など	印刷		「秘」印あり、ステープラー留め	1綴
229	若木 第五号	若木会 右代表者 大串兎代夫		昭和18年3月5日〔発行〕		印刷		破損あり	1冊

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
230	国体論	興亜部三年3番 太田陸男		昭和18年7月23日提出		ペン	書綴（「アジア製品」原稿用紙）	毛筆の練習帳として使用	1綴
231	学徒動員（国学院大学）錬成会関係書類	〔大串兎代夫〕		自昭和19年5月1日 至〃5月31日	件名などの書上げ	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1枚
232	戦前の学生運動史—満蒙研究会・大亜細亜研究会—志士寮始末記（稿本）	藤田豊〔編〕		昭和58年7月23日		ペン、電子式複写	「コクヨ」原稿用紙		1冊
233	志士寮 入寮者氏名表			〔昭和50年代〕		ペン	「東京電機大学」罫紙		1枚
234	志士寮の記	白坂京一		〔昭和〕57年7月26日〔到〕		電子式複写		ステープラー留め。234・235は同折	1綴
235	満蒙研究会—大アジア研究会—志士寮始末記（要旨）	藤田豊		〔昭和50年代〕		電子式複写		「参考に」から始まるメモ書き添付。ステープラー留め。234・235は同折	1綴
3. 教育（戦前）									
236	憲兵学校原稿	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	表題のみ	ペン			1綴
237	国体学	大串教授述 陸軍憲兵学校		〔昭和10年代〕		謄写版		ステープラー留め	1冊
238	教授方針			〔昭和10年代〕	「高等学校理科ノ化学教育」について	謄写版		「大串」印あり、ステープラー留め	1綴
239	〔講演「時局と青年」の感想文〕	二部一年乙組 鈴木春雄ほか	〔大串兎代夫〕	〔昭和12～16年〕		ペン、鉛筆			1綴
240	〔講演「時局と青年」の感想文〕	浜一中三年一組 麦谷馨ほか5名	〔大串兎代夫〕	〔昭和15～20年〕		ペン	「浜松第一中学校作文用紙」		1組
241	〔講演「時局と青年」の感想文〕	本科一部四学年 中道益己ほか	〔大串兎代夫〕	〔昭和16年〕		ペン、鉛筆			1綴
242	憲兵学校 国憲	大串兎代夫		昭和17年度12月12日		墨書、ペン、鉛筆	「教授手簿」		1冊
243	連絡	陸軍憲兵学校 教務主任 加末少佐（印）	乙種、甲幹学生関係教官	9月7日	学生に対する課題 作業出題予定ならびに回数、大串教官分	謄写版、ペン			1枚
4. 国民精神文化研究所・教学錬成所									
244	国体の精華について	第十二期研究員（廿二番） 志村修平	大串兎代夫	〔昭和10年代〕		墨書、ペン		原稿用紙を冊子体にまとめたもの。破損あり	1冊
245	時局国民精神読本 第五輯 世界の動きと日本	藤沢親雄 国民精神文化研究所〔編〕		昭和12年11月20日発行		印刷			1冊
246	時局国民精神読本 第六輯 御製を拝して 戦争に就ての反省	井上孚麿 国民精神文化研究所〔編〕		昭和12年11月20日発行		印刷			1冊
247	時局国民精神読本 第七輯 事変と教育	文学博士吉田熊次 国民精神文化研究所〔編〕		昭和12年11月20日発行		印刷			1冊
248	思想戦とは何か	国民精神文化研究所思想国防研究部		昭和13年12月		印刷、鉛筆、ペン		校正刷、ステープラー留め	1綴
249	〔研究所講義ほか講義ノート〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和14～15年〕	「研究所講義（昭和十五年一月）」「国家と憲法」十四時間」ほか	ペン、鉛筆	「Note-Book」		1冊
250	高等学校研究員接心会提唱用講本 臨濟慧照禅師語録 説法ノ段ノ一節	国民精神文化研究所		昭和17年9月5日		謄写版		書込み（鉛筆）あり。250・251は同折	1枚
251	白隠禅師座禅和讃					印刷		250・251は同折	1枚
252	本所の錬成について	〔大串兎代夫〕		〔昭和18年〕		ペン、鉛筆	書綴（「国民精神文化研究所原稿用紙」）	綴はずれ	1綴
253	武教小学	〔山鹿素行・吉田松陰、国民錬成所〕		〔昭和18～20年〕		印刷		「教学錬成所印」あり	1冊
254	賜暇願		教学錬成所長 橋田邦彦	〔昭和19～20年〕		印刷		未使用	2枚
255	通知	教育研究所庶務課長 福原義人（公印）	元錬成所大串兎代夫	昭和20年11月9日	職務勉勵につきその賞金を下賜	タイプ、墨書、スタンプ	「教学錬成所」用紙	封筒（表「神奈川県片瀬町 大串兎代夫殿」、裏「東京都北多摩郡 小金井町 教学錬成所」）あり	1枚
5. 大日本言論報国会									
256	〔大日本言論報国会 日本世界観委員会幹事書簡〕	大日本言論報国会 日本世界観委員会幹事（公印）	大串兎代夫	〔昭和17～20年〕	第二回委員会の報告	印刷、墨書			1通
257	〔大日本言論報国会封筒〕	東京市京橋区 銀座 社団法人 大日本言論報国会	神奈川県片瀬町 大串兎代夫	昭和18年9月19日		印刷、ペン			1枚

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
258	〔意見書〕			〔昭和19～20年〕	重大なる時機に際し世の指導者に訴うべき要望、大日本言論報国会の建白書案カ	謄写版		書込み（ペン）あり	1組
259	大東亜共同宣言初版	大日本言論報国会〔編〕同盟通信社		昭和19年4月15日〔発行〕	大串兎代夫「独立親和の原則」掲載	印刷			1冊
260	会員だより	大日本言論報国会		昭和19年10月		印刷			1枚
261	言論報国 第三巻第一号	大日本言論報国会		昭和20年1月1日〔発行〕		印刷			1冊
262	言論報国 第三巻第五号	大日本言論報国会		昭和20年5月1日〔発行〕		印刷			1冊
263	決戦国内政治体制問題ニ関スル件、非常大権奏請ニ関スル件	社団法人大日本言論報国会（印）	大串兎代夫	昭和20年5月12日	首題の件に関し5月24日に御尊台をはじめ本会会員貴衆両院議員の御高見を拝聴いたしたし	謄写版、ペン	「大日本言論報国会」用紙		1枚
264	言報動発第十二号「必勝企業国家体制確立に関する件」打合会御案内	社団法人大日本言論報国会理事長 鹿子木員信		昭和20年5月15日		謄写版			1枚
6. 文部省教学局・日本諸学振興委員会									
265	最近に於ける国家学説 憲法教育資料	大串兎代夫述 文部省		昭和11年1月31日〔発行〕		印刷			3冊
266	国体の本義解説叢書 帝国憲法と臣民の翼賛	大串兎代夫著 教学局		昭和13年12月15日〔発行〕		印刷			1冊
267	思想情報 第十五号	教学局		昭和15年10月19日		印刷		破損あり、ステープラー留め	1冊
268	調査資料第一輯 イタリヤの新「学校憲章」	文部省教育調査部		昭和15年11月25日〔発行〕		印刷		表紙から10頁欠損	1冊
269	日本諸学振興委員会法学会要項 附出席者名簿	文部省教学局		昭和18年10月		印刷			1冊
270	戦時国民思想確立ニ関スル文教措置要綱	閣議決定		昭和18年12月10日		印刷		ステープラー留め	1綴
271	戦時国民思想確立ニ関スル基本方策要綱	閣議決定		〔昭和〕18年12月10日		印刷		ステープラー留め	1綴
272	日本諸学振興委員会昭和二十年度法学部事業運営要項	〔日本諸学振興委員会〕		〔昭和19年〕		印刷		書込み（ペン）あり、ステープラー留め	1綴
273	思想審議会第一回総会議事要旨	〔文部省〕		〔昭和19年〕3月29日		印刷		書込み（鉛筆）あり、ステープラー留め	1冊
274	〔意見書〕			〔昭和20年〕	学術研究会議第14部非常大権委員会関係書類カ	印刷		書込み（ペン）あり、綴はずれ、ステープラー留め	1綴
275	〔意見書〕			〔昭和20年〕	学術研究会議第14部非常大権委員会関係書類カ	印刷		綴はずれ	1綴
7. 企画院・日本法理研究会									
276	憲法第三十一条の非常大権について	第一部第一課 清水伸記		〔昭和10年代〕		印刷、ペン		「秘」印あり、ステープラー留め	1綴
277	憲法第三十一条の非常大権について	第一部第一課 清水伸記		〔昭和10年代〕		印刷		「極秘」印あり、ステープラー留め	1綴
278	証	〔日本法理研究会〕		〔昭和10年代〕	原稿料の領収証	印刷、ペン		封筒（表「大串殿 原稿料」・裏「東京市麹町区 法曹会館内 日本法理研究会」）あり	1枚
279	第八 皇国の神国たる特質			〔昭和10年代〕	部会資料カ	印刷		書込み（ペン）あり、ピン留め	1綴
280	第一部会報告十一（説明案） 皇国に於ける法の基本理念			〔昭和10年代〕		印刷		書込み（鉛筆）あり、ピン留め、破損あり	1綴
281	憲法第三十一条の非常大権について	第一部第一課 清水伸記		〔昭和10年代〕		印刷、鉛筆		「漢字未訂正」の書き込み、「秘」印あり、ステープラー留め	1綴
282	憲法第三十一条の非常大権について	第一部第一課 清水伸記		〔昭和10年代〕		印刷		「極秘」印あり、ステープラー留め	1綴
283	「大日本帝国憲法」逐条由来ノ研究	囑託 清水伸		〔昭和10年代〕		印刷、ペン			1綴
284	憲法第三十一条の非常大権について（中）	第一部第一課 清水伸記		〔昭和10年代〕		印刷		「極秘」印あり、ステープラー留め	1綴
285	国民運動ト行政ニ就テ	第一部第一課 囑託 清水伸		〔昭和15～20年〕		印刷		「秘」印あり、ステープラー留め	1綴
286	日本法理研究 刑事資料（一） 国民社会主義刑法綱領			昭和15年11月29日		印刷		ステープラー留め	1綴
287	第一部会資料 国体と政体			〔昭和17～18年〕		印刷		ピン留め	1綴
288	〔天皇統治の機構についての部会資料〕			〔昭和17～18年〕		印刷		ピン留め、前欠、書込み（ペン）あり	1枚

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
289	憲法研究問題案 (天野徳也氏提案 ノ第一次修正)	第一部会		昭和17年6月 22日		印刷、鉛筆		ステープラー留め	1綴
290	第一部会報告 二 (説明案)	林		昭和17年7月 31日		印刷		ステープラー留め、書込み(ペン)あり	1綴
291	第一部会報告 四 (修正分) 国家 生命と主権、領土 及び人民	林		昭和17年10月 28日		印刷		ステープラー留め、書込み(鉛筆・ペン)あり	1綴
292	第三部会資料 ド イツにおける犯罪 生物学的事務	(日沖)		昭和17年11月 28日		印刷		綴はずれ、破損甚大	1冊
293	第一部会報告六 (修正分) 国家 と祖先崇拜との日 本法理上の関係	林		昭和17年12月 12日		印刷		ピン留め、書込み(鉛筆)あり	1綴
294	国家学の基礎理念 に関する若干の考 察			昭和18年1月 11日		印刷		294～314は一括	1枚
295	第一部会 祭祀の 本義	西田		昭和18年2月1 日		印刷		書込み(ペン)あり。294～314は 一括	1組
296	第一部会 寛博士 の「国家と天皇」 に関する所説概観	天野		昭和18年2月 18日		印刷		クリップ留め、書込み(鉛筆)あ り。294～314は一括	1綴
297	第一部会報告 九 (説明案) 祭祀 と政治	林		昭和18年2月 18日		印刷		294～314は一括	1組
298	第一部会資料 皇 国及皇国体につい て(寛克彦博士 「皇国体につい て」日本諸学振興 委員会研究報告第 七編三〇七頁以 下)	林		昭和18年2月 22日		印刷		294～314は一括	1組
299	第一部会資料 稜 威と権威(大串兎 代夫氏「近代国家 の基本概念」神道 研究一巻二号一 頁以下)	林		昭和18年2月 22日		印刷		書込み(ペン)あり。294～314は 一括	1組
300	第一部会資料 国 体と華厳哲学(文 学博士林屋友次郎 氏「日本国体と日 本仏教」一四七頁 以下より抜萃)	林		昭和18年2月 22日		印刷		書込み(ペン・鉛筆)あり。294 ～314は一括	1組
301	第一部会報告(第 一次総合案) 国 家に関する基本理 念と日本法理	林		昭和18年3月1 日		印刷		裏面に書き込み(ペン)あり。 294～314は一括	1枚
302	第一部会報告 十(説明案) 天皇 と日本国家	林		昭和18年3月1 日		印刷		クリップ留め、書込み(鉛筆)あ り。294～314は一括	1綴
303	第一部会資料 国 家及統治権ト法 (上杉慎吉博士 「新稿憲法述義」 第八版四四頁以 下ノ本質ヨリ抜 萃)	林		昭和18年3月8 日		印刷		書込み(ペン)あり。294～314は 一括	1組
304	第一部会資料 法 の意義及び性質 (上杉慎吉博士著 新稿帝国憲法三二 九頁以下より抜 萃)	林		昭和18年3月8 日		印刷		書込み(ペン)あり。294～314は 一括	1組
305	第一部会資料 法 相、法体及び法位 の概念(里見岸雄 氏「帝国憲法概 論」一六五頁以 下)	林		昭和18年3月 15日		印刷		書込み(ペン)あり。294～314は 一括	1枚
306	第一部会資料 天 皇の完全概念(里 見岸雄氏帝国憲法 概論三一八頁以 下)	林		昭和18年3月 15日		印刷		クリップ留め、書込み(ペン)あ り。294～314は一括	1綴
307	第一部会資料 法 律の実質(体)、 形式(相)及び機 能(用)(小野清 一郎博士「法律の 機能的本質」一特 に上告理由として の「法令の違反」 に注意して一春木 先生還暦祝賀論文 集五一九頁以下よ り抜萃)	林		昭和18年3月 15日		印刷		書込み(ペン)あり。294～314は 一括	1組

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
308	第四部会資料 (二) 田村徳治 「国際法の将来と 日本精神」より (法律時報昭和十 七年十月号所載)			昭和18年6月 25日		印刷		294～314は一括	1枚
309	第四部会資料 大 東亜共栄圏の法学 的意義 (思想六月 号)	大串兎代夫		昭和18年6月 25日		印刷		ピン留め、書込み (ペン) あり。 294～314は一括	1綴
310	第四部会資料 (一) 三谷隆正 「ロマ法学と大東 亜法学」より (法 律時報昭和十七年 十月号所載)			昭和18年6月 25日		印刷		294～314は一括	1組
311	第四部会資料 (三) 矢部貞治 「ローマ帝国、英 帝国、大東亜共栄 圏」より (法律時 報昭和十八年三月 月号所載)			昭和18年7月 14日		印刷		294～314は一括	1枚
312	第四部会資料 (四) 施政方針 演説 (第一次東条 宣言) 昭和十七 年一月二十一日第 七十九回帝国議會 貴族院			昭和18年7月 14日		印刷		294～314は一括	1枚
313	第一部会資料 法 律意思・自然意思 ノ分化綜合ト国体 及憲法 (穂積八東 博士論文集「法 律意思及自然意 思」一後出一一 「法律意思自然意 思ノ分化綜合一後 二一ヨリ拔萃」)			[昭和18年]		印刷		書込み (ペン) あり。294～314は 一括	1組
314	[部会資料]			[昭和18年]	惟神の大道に即す る道義秩序こそ、 日本法の本領	印刷		前欠、書込み (ペン・鉛筆) あり。 294～314は一括	1組
315	第一部会 家族国 家の意義	大串		昭和18年1月 19日		印刷		クリップ留め、315～319は一括	1綴
316	第一部会 祭政一 致ノ本義 (案)	大谷		昭和18年1月 19日		印刷		315～319は一括	1組
317	第一部会 皇国の 神国たる所以 (案)	沢田		昭和18年1月 19日		印刷		315～319は一括	1組
318	第一部会報告七 (説明案) 国家 と家	林		昭和18年1月 23日		印刷		315～319は一括	1組
319	第一部会報告八 (説明案) 皇国 の神国たる特質	林		昭和18年2月1 日		印刷		315～319は一括	1組
320	日本身分法の基本 事項及びその手続 研究要綱 (綜合第 一次案)	林徹		昭和18年3月 23日		印刷		クリップ留め	1綴
321	第一部会 日本法 の本質	中村		昭和18年3月 24日		印刷		ピン留め、書込み (ペン) あり	1綴
322	第一部会資料 国 体ト政体	林		昭和18年4月2 日		印刷		ピン留め	1綴
323	第一部会報告十二 (説明案) 国体 ト政体	林		昭和18年5月3 日		印刷		ピン留め、書込み (ペン) あり	1綴
324	第一部会報告十二 (説明案) 国体 と政体	林		昭和18年5月3 日		印刷		ピン留め	1綴
325	第一部会報告十二 (説明案) 国体 と政体	林		昭和18年5月3 日		印刷		ピン留め、書込み (鉛筆・ペン) あり	2綴
326	第一部会資料 統 治ノ大権	天野		昭和18年5月 10日		印刷		書込み (鉛筆) あり	1枚
327	第一部会資料 統 治の大権	沢田		昭和18年5月 17日		印刷		書込み (鉛筆) あり	1枚
328	第一部会資料 統 治の大権 (改訂 案)	沢田		昭和18年5月 28日		印刷		書込み (ペン) あり	1枚
329	第一部会資料 統 治の大権 (改訂 案)	沢田		昭和18年5月 28日		印刷			1枚
330	第一部会報告 十 三 (説明案) 皇 国における統治権 の本質	林		昭和18年6月 24日		印刷		覚書き・書込み (ペン・鉛筆) あり、 ピン留め	1綴
331	第四部会資料 大 東亜共栄圏の法学 的意義	大串兎代夫		昭和18年6月 25日		印刷		ピン留め	1綴
332	[第四部会資料 大東亜共栄圏の法 学的意義]	[大串兎代夫]		[昭和18年6 月25日]		印刷		前欠、294～314・331参照、書込 み (ペン) あり	1組
333	第一部会資料 国 家法人説概評	天野徳也		昭和18年7月1 日		印刷		ピン留め	1綴

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
334	第四部会資料 在支治外法権撤廃に関する諸問題（小委員会案）			昭和18年7月1日		印刷、ペン		ピン留め	1綴
335	日本法理叢書 別冊六 新秩序建設と日本法理	日本法理研究会		昭和19年7月20日[発行]		印刷			2冊
336	日本法理研究会機関誌 法律新報 第七百十七号	法律新〔報〕社		昭和19年11月3日[発行]	大串兎代夫「国家の生命性」掲載	印刷			1綴
337	日本法理研究会機関誌 法律新報 第七百二十号	法律新報社		昭和19年12月18日[発行]		印刷			2綴
338	第一部会資料 民権夜話（宇喜田小十郎）より	林		昭和19年12月4日		印刷		書込み（ペン）あり、ピン留め、338～340は同折	1綴
339	第一部会資料 一 権利義務説 正七位桜井能口〔カスレ〕「十七題要録」（明治七年十月ヨリ）			[昭和10年代]		印刷		書込み（ペン）あり。338～340は同折	1枚
340	第一部会資料 二 権利義務 稲荷神社大宮司兼大講義安江静「十七題論」（明治七年九月ヨリ）			[昭和10年代]		印刷		書込み（ペン）あり。338～340は同折	1枚
341	日本法理研究会機関誌 法律新報 第七百二十一号	法律新報社		昭和20年1月3日[発行]	大串兎代夫「憲法第三十一条の時代的意義（一）」掲載	印刷			1綴
342	日本法理研究会機関誌 法律新報 第七百二十二号	法律新報社		昭和20年1月18日[発行]	大串兎代夫「憲法第三十一条の時代的意義（二）」掲載	印刷			7綴
343	欠番								
344	憲法第三十一条の法理の概要	林		昭和20年5月8日		印刷、ペン		表紙「昭和二十年五月 非常大権の法理」（墨書）、紐留め	1冊
345	憲法学 第一冊	大串兎代夫		昭和20年8月	法理研究会における講演のノートカ	墨書、ペン	学用ノート（「統制株式会社」製）		1冊
346	憲法学 第二冊	大串兎代夫		昭和20年8月	講義ノート	墨書、ペン	「松屋ノート」		1冊
347	憲法学 第三冊	大串兎代夫		昭和20年9月	講義ノート	墨書、ペン	学用ノート（「統制株式会社」製）		1冊
348	憲法学 第四冊	大串兎代夫		昭和20年10月	講義ノート	墨書、鉛筆、ペン	「NOTE BOOK」	冒頭に中国旅行の日記（昭和14年3月11日～3月21日）あり	1冊
8. 弁護士関係									
349	〔弁護士活動関係覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年代〕		ペン			1綴
350	〔仮執行についての覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和戦後期〕	1、意義 2、仮執行ノ宣言ヲ附スル場合 3、仮執行ノ宣言ノ申立ニ対スル債務者ノ防禦 4、仮執行宣言ノ手続	ペン			1組
351	不動産仮差押事件についての費用計算書	〔大串兎代夫〕		昭和25年		ペン		紙背使用	1枚
352	特別研究会ノート	東京弁護士会 大串兎代夫		昭和25年10月24日から		ペン	「Note Book」		1冊
353	弁論要旨	弁護士 松下正寿	最高裁判所	昭和27年7月14日	昭和27年（マ）第79号人身保護法による釈放請求事件に関する弁論	謄写版		ステープラー留め	1綴
354	〔亀井正男書簡〕	名古屋弁護士会 会長 亀井正男		昭和35年8月□日	「訴訟促進の基礎たるべき十時間延を可能とする裏づけ態勢」について	謄写版		354・355は封筒（表「市内昭和区大串兎代夫殿」・裏「名古屋市東区 名古屋弁護士会」）一括	1通
355	〔亀井正男書簡〕	名古屋弁護士会 会長 亀井正男		昭和35年8月□日	委員選任の報告	謄写版		354・355は封筒（表「市内昭和区大串兎代夫殿」・裏「名古屋市東区 名古屋弁護士会」）一括	1通
356	委員会開催の御案内	名古屋弁護士会 会長 亀井正男（公印）	法令調査委員会 委員各位	昭和35年8月17日		謄写版		封筒（表「市内昭和区 大串兎代夫殿」・裏「名古屋市東区 名古屋弁護士会」）あり	1通
357	陳情書	榎様太郎（印） 中 村庄太郎（印） 原田一三（印） 梅垣七右衛門（印） 浅田益男（印） 紀村直太朗（印） 中川 徳右衛門（印）	京都地方裁判所 鈴木裁判長	昭和36年5月日	藤巻伏見稲荷大社宮司らの退陣などに関する陳情	印刷、ペン		ステープラー留め。357～373・1438・1440・1442～1460は封筒（表「騒友」）一括	1綴

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
358	両丹新聞 第55号	両丹新聞社		昭和36年6月11日		印刷		357～373・1438・1440・1442～1460は封筒(表「騒友」)一括	1部
359	新中外 第94号	新中外新聞社		昭和34年6月21日	「伏見稲荷大社と氏子総代の紛糾」掲載	印刷		357～373・1438・1440・1442～1460は封筒(表「騒友」)一括	2部
360	新中外 第122号	新中外新聞社		昭和35年5月21日	「伏見稲荷大社還幸祭無事終る」掲載	印刷		357～373・1438・1440・1442～1460は封筒(表「騒友」)一括	2部
361	期日呼出状	京都地方裁判所第二民事部裁判所書記官安井元雄(公印)	被告代理人大串兎代夫	昭和36年11月14日	損害賠償等事件の準備手続期日は昭和36年12月19日午前11時と指定されたから該期日に当庁第二民事部に出頭せられたい	印刷、ペン、スタンプ		357～373・1438・1440・1442～1460は封筒(表「騒友」)一括	1枚
362	委任状	京都市伏見区伊藤恵介(印)		昭和36年6月14日	大串兎代夫殿に損害賠償事件の件の代理を委任します	印刷、ペン		357～373・1438・1440・1442～1460は封筒(表「騒友」)一括	1枚
363	夕刊京都 第4692号	夕刊京都新聞社		昭和34年4月17日	「稲荷大社の紛争を市民の良識で斬る」掲載	印刷		357～373・1438・1440・1442～1460は封筒(表「騒友」)一括	1部
364	稲荷新報 第6号	伏見稲荷大社社務所		昭和34年7月12日		印刷		357～373・1438・1440・1442～1460は封筒(表「騒友」)一括	1部
365	伏見稲荷大社氏子祭に就て氏子崇敬者の御協力を乞う	伏見稲荷大社氏子総代表 梅垣七右衛門 伏見稲荷浄化再建対策委員会 原田一三		昭和35年1月3日		印刷		裏面に覚書(鉛筆)あり。357～373・1438・1440・1442～1460は封筒(表「騒友」)一括	1枚
366	京都旬報 第28号	京都旬報社		昭和34年8月1日	「浄化運動に新局面 伏見稲荷大社事件」掲載	印刷		357～373・1438・1440・1442～1460は封筒(表「騒友」)一括	1部
367	新中外 第89号	新中外新聞社		昭和34年4月21日	「神輿はなぜ出なかったか 京都伏見の稲荷祭」掲載	印刷		357～373・1438・1440・1442～1460は封筒(表「騒友」)一括	1部
368	日本政経新聞 第116号	日本政経新聞社		昭和36年8月20日	「伏見稲荷大社(その2)」掲載	印刷		357～373・1438・1440・1442～1460は封筒(表「騒友」)一括。368～370は同折	2部
369	日本政経新聞 第105号	日本政経新聞社		昭和36年4月30日	「稲荷大社 紛争未解決の波紋」掲載	印刷		357～373・1438・1440・1442～1460は封筒(表「騒友」)一括。368～370は同折	2部
370	日本政経新聞 第113号	日本政経新聞社		昭和36年7月20日	「会計報告をなぜやらぬ 伏見稲荷大社奉賛会」掲載	印刷		357～373・1438・1440・1442～1460は封筒(表「騒友」)一括。368～370は同折	1部
371	日本政経新聞 第105号	日本政経新聞社		昭和36年4月30日	「稲荷大社 紛争未解決の波紋」掲載	印刷		357～373・1438・1440・1442～1460は封筒(表「騒友」)一括	1部
372	新中外 第94号	新中外新聞社		昭和34年6月21日	「伏見稲荷大社と氏子総代の紛糾」掲載	印刷		357～373・1438・1440・1442～1460は封筒(表「騒友」)一括	1部
373	真相はこうだ ミコシはなぜ出なかったか 伏見稲荷を浄化しよう	稲荷御旅所内三三俱樂部 伏見稲荷大社浄化再建対策委員会		昭和34年6月1日[発行]		印刷		357～373・1438・1440・1442～1460は封筒(表「騒友」)一括	1冊
374	会員名簿	日本弁護士連合会	大串様〔大串兎代夫〕	昭和38年7月1日現在		印刷、鉛筆		「名古屋弁護士会」の項に「大串兎代夫」の氏名・住所記載あり	1冊
375	準備書面	被控訴人代理人 弁護士 滝沢斎 同 大串兎代夫 同復〔ママ〕 代理人 弁護士 水野東太郎 同 荒井秀夫(印)	東京地方裁判所 民事第二部	昭和38年9月4日	被控訴人は従来の請求に附帯して地代相当の損害金を請求するため請求の趣旨及び原因を補正追加します	印刷、スタンプ、ペン		ステープラー留め。375・376は同折	1綴
376	土地価格指数			[昭和38年]	経済企画庁調査局「経済要覧」の抜粋筆写	ペン		ステープラー留め。375・376は同折	1綴
377	自由と正義 第十六巻第七号	日本弁護士連合会		昭和40年7月1日[発行]		印刷			1冊
378	会報 第12号(昭和40年度)	関東弁護士連合会		昭和41年6月18日[発行]		印刷			1冊
9. 大学(戦後)									
379	寄附申込書		東京大学学寮建設促進会長 南原繁	[昭和20年代]	東京大学学寮建設資金として寄付いたします	印刷			1枚
380	東京大学学寮建設促進会発起人氏名	[東京大学学寮建設促進会]		[昭和20年代]		印刷		379参照	1枚
381	国学院大学関係者名簿	[国学院大学]		昭和21年5月		謄写版		書込み(ペン、鉛筆)あり、381・382は同折	1枚
382	国学院大学教員名簿	[国学院大学]		昭和21年6月		謄写版		書込み(ペン、鉛筆)あり、381・382は同折	1枚
383	卒業論文 近世に於ける町人家族の研究	日本女子大歴史科三年 佐々木達子		昭和22年度		印刷、墨書			1冊
384	昭和二十七年古事記年報	古事記学会		昭和28年8月30日[発行]		印刷			1冊
385	国家学講義案 名城大学四学年 2	[大串兎代夫]		昭和29年度		ペン	「ツバメ」製「NOTEBOOK」		1冊

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
386	国家学、憲法学講義計画 名城大学1	[大串兎代夫]		昭和29年度		ペン	「ツバメ」製「NOTEBOOK」		1冊
387	国家学レポート 国家と個人 私の人生体験	第二、法四、小宮山佳委		昭和30年1月21日		墨書、ペン		「原稿用紙」を冊子体にまとめたもの。ハトメ留め	1冊
388	昭和二十八年度古事記年報(二)	古事記学会		昭和30年1月28日[発行]		印刷			1冊
389	大串先生 国家学 国家三要素説 国家主権と国民との優位	第二法商学部 法学科四年六十三番 服部孝一		昭和30年1月31日		墨書、ペン	書綴(「コクヨ」「マルエス」原稿用紙)	389・390はクリップ一括、ステープラー留め、破損あり	1綴
390	大串先生 国家学 私の人生体験	第二法商法学部 法科四年六十三番 服部孝一		昭和30年1月31日		墨書、ペン	書綴(「コクヨ」原稿用紙)	389・390はクリップ一括、ステープラー留め	1綴
391	国家学レポート 天皇をめぐる憲法問題と所感	第二法商学部 法学科四年六十五 原田静雄		昭和30年2月3日		ペン	書綴(「マルエス」原稿用紙)		1綴
392	[東海学会行書簡]		名古屋市中区 ホテル・マルエイ内 東海学会	昭和37年1月10日	東海学会新年家族会の出欠確認	印刷		70・392～395・805・819・1907・1948は封筒(表「名古屋市昭和区名城大学内 大串兎代夫先生」・裏「京都市右京区 小森義峯」)一括	1枚
393	[草葉隆円書簡]	草葉隆円	大串総長様 [大串兎代夫]	[昭和33年] 8月18日	この機会に理事の重責を退きたく存じ候	墨書		封筒(表「名古屋市昭和区 大串[名城大学]総長様」・裏「草葉隆円 東京都豊島区 名古屋市千種区」)あり。70・392～395・805・819・1907・1948は封筒(表「名古屋市昭和区 名城大学内 大串兎代夫先生」・裏「京都市右京区 小森義峯」)一括	1通
394	[私立学校教職員共済組合書簡]		名古屋市昭和区 名城大学内 大串兎代夫 [ママ] 夫	[昭和37年5月7日]	昭和37年度私立学校教職員共済組合の被扶養者の再審査が行われますから、貴職の被扶養者に関する書類を本部会計課にご送付ください	ペン、印刷	葉書	70・392～395・805・819・1907・1948は封筒(表「名古屋市昭和区名城大学内 大串兎代夫先生」・裏「京都市右京区 小森義峯」)一括	1枚
395	[日本生命保険相互会社 奉仕収納課書簡]	大阪市東区 日本生命保険相互会社 奉仕収納課 ([「巽」「小川」]印)	名古屋市昭和区 名城大学内 大串兎代夫	昭和32年7月26日	ご転居についてご通知をいただきましてありがとうございました。さっそく当方の原簿を訂正しておきましたからご安心ください	ペン、印刷	葉書	70・392～395・805・819・1907・1948は封筒(表「名古屋市昭和区名城大学内 大串兎代夫先生」・裏「京都市右京区 小森義峯」)一括	1枚
396	昭和三十二年度古事記年報	古事記学会		昭和32年6月20日[発行]		印刷			1冊
397	大学設置基準及びその解説(付) 大学設置認可申請書記載様式	文部省大学学術局庶務課 藤田豊		昭和32年7月		印刷、スタンプ、謄写版			1冊
398	昭和三十三年度古事記年報	古事記学会		昭和33年6月16日[発行]		印刷			1冊
399	国学院大学	国学院大学		昭和34年	大学案内	色刷			1枚
400	学生便覧	東京教育大学		昭和34年度		印刷			1冊
401	昭和三十四年度古事記年報	古事記学会		昭和34年10月10日[発行]		印刷			1冊
402	[文献覚書]	[大串兎代夫]		[1960年代]	文献書上げ	ペン	「PILOT ルーズリーフ・ノート」	金具留め。表紙に「亜細亜大学」(ペン)とあり。402～413・1960・1961は封筒(表「独逸 フライブルグ 大串兎代夫殿」・裏「Asia University Tokyo Japan」)一括	1冊
403	[文献覚書]	[大串兎代夫]		[1960年代]	文献書上げ	ペン、鉛筆		クリップ留め。402～413・1960・1961は封筒(表「独逸 フライブルグ 大串兎代夫殿」・裏「Asia University Tokyo Japan」)一括	1綴
404	[文献覚書]	[大串兎代夫]		[1960年代]	文献書上げ	鉛筆		402～413・1960・1961は封筒(表「独逸 フライブルグ 大串兎代夫殿」・裏「Asia University Tokyo Japan」)一括	1組
405	梧陰文庫所見外国人著作目録	[大串兎代夫]		昭和40年12月7日		ペン	「国学院大学」罫紙	「国学院大学」罫紙を冊子体にまとめたもの。ステープラー留め。402～413・1960・1961は封筒(表「独逸 フライブルグ 大串兎代夫殿」・裏「Asia University Tokyo Japan」)一括	1冊
406	法学部増設 主要文献目録 洋書第1号(購入済図書目録)	亜細亜大学図書館		[1960年代]		印刷		ステープラー留め。402～413・1960・1961は封筒(表「独逸 フライブルグ 大串兎代夫殿」・裏「Asia University Tokyo Japan」)一括	1冊

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
407	〔計算覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔1960年代〕	計算	鉛筆		402～413・1962・1963は封筒(表「独逸 フライブルグ 大串兎代夫殿」・裏「Asia University Tokyo Japan」)一括	1枚
408	〔EBERHARD ALBERT UNIVERSITÄ TSBUCHHANDLUNG 書簡〕	EBERHARD ALBERT UNIVERSITÄ TSBUCHHANDLUNG 〔不詳〕	Herrn Professor Toyowo Ohgushi 〔大串兎代夫〕	1966年7月8日	独語書簡	タイプ、ペン		402～413・1960・1961は封筒(表「独逸 フライブルグ 大串兎代夫殿」・裏「Asia University Tokyo Japan」)一括。408～410は「Eberhard Albert Universitä tsbuchhandlung」封筒(表「Herrn Professor Toyowo Ohgushi Karlruhe」 「EBERHARD Albert FREIBURG」)一括	1通
409	〔文献目録〕	Eberhard Albert Universitä ts-Buchhandlung		〔1966年〕		タイプ、ペン、スタンプ		ステープラー・クリップ留め。402～413・1962・1963は封筒(表「独逸 フライブルグ 大串兎代夫殿」・裏「Asia University Tokyo Japan」)一括。408～410は「Eberhard Albert Universitä tsbuchhandlung」封筒(表「Herrn Professor Toyowo Ohgushi Karlruhe」 「EBERHARD Albert FREIBURG」)一括	1組
410	〔EBERHARD ALBERT UNIVERSITÄ TSBUCHHANDLUNG 書簡〕	EBERHARD ALBERT UNIVERSITÄ TSBUCHHANDLUNG	Herrn Rektor Kozo Ohta 〔太田耕造〕	1966年7月11日	独語書簡	タイプ、スタンプ		402～413・1960・1961は封筒(表「独逸 フライブルグ 大串兎代夫殿」・裏「Asia University Tokyo Japan」)一括。408～410は「Eberhard Albert Universitä tsbuchhandlung」封筒(表「Herrn Professor Toyowo Ohgushi Karlruhe」 「EBERHARD Albert FREIBURG」)一括	1枚
411	〔太田耕造書簡〕	太田耕造	大串先生〔大串兎代夫〕	〔1966年〕4月15日	ドイツ語公法関係書籍、図書館に取り調べさせました。整理不十分ながとりあえず洋書一括して貴覧に付します	ペン	「亜細亜大学」用箋	「亜細亜大学」封筒(表「独逸 フライブルグ 大串兎代夫殿」)あり。402～413・1962・1963は封筒(表「独逸 フライブルグ 大串兎代夫殿」・裏「Asia University Tokyo Japan」)一括	1通
412	〔文献目録〕			〔1960年代〕		印刷、鉛筆		ピン留め。402～413・1960・1961は封筒(表「独逸 フライブルグ 大串兎代夫殿」・裏「Asia University Tokyo Japan」)一括	1綴
413	〔文献目録〕					タイプ、カーボン		402～413・1960・1961は封筒(表「独逸 フライブルグ 大串兎代夫殿」・裏「Asia University Tokyo Japan」)一括	1枚
414	昭和三十五年度古事記年報	古事記学会		昭和35年6月15日〔発行〕		印刷			1冊
415	お住居について	名城大学 学長 日比野信一(公印)	学内居住者各位	昭和35年8月13日		カーボン	「名城大学」罫紙	封筒(表「大串兎代夫殿」・裏「名城大学」)あり	1通
416	名城大学 再建のための意見書	名城大学前学長 法商学部教授 大串兎代夫 ほか名城大学教職員有志一同		昭和36年11月		印刷		ステープラー留め	7冊
417	〔瀧川政次郎書簡〕	瀧川政次郎	大串学兄〔大串兎代夫〕	〔昭和36年〕12月12日	その後の国大の状況をお知らせします	ペン		封筒(表「藤沢市 大串兎代夫様」・裏「東京都杉並区 瀧川政次郎」)あり	1通
418	〔不破直三書簡〕	不破直三	大串兎代夫	〔昭和36年〕12月22日	名城大学に対する特別時限立法について	ペン	「KOKUYO」便箋	封筒(表「神奈川県藤沢市 大串兎代夫様」・裏「大橋武夫 東京都千代田区霞ヶ関 衆議院第二議員会館二二八号」)あり	1通
419	〔名城大学同窓生有志書簡〕	名城大学同窓生有志		昭和36年12月28日	「名城大学事件」について	印刷			1通
420	〔図書貸出用紙〕		国学院大学図書館		館内閲覧用	印刷、ペン		420～422は封筒(表「京都市 上京区 北野天満宮内 月川皖水様」・裏「東京都渋谷区 国学院大学」)一括	1組
421	〔図書貸出用紙〕	大串兎代夫	国学院大学図書館	〔昭和38年～39年〕	館外貸出用-2	印刷、ペン、鉛筆、スタンプ		420～422は封筒(表「京都市 上京区 北野天満宮内 月川皖水様」・裏「東京都渋谷区 国学院大学」)一括	1組
422	〔「ゲルマニヤ」関連覚書〕	大串兎代夫			「-52 ガリヤ戦記 98 ゲルマニヤ」ほか	ペン、鉛筆		420～422は封筒(表「京都市 上京区 北野天満宮内 月川皖水様」・裏「東京都渋谷区 国学院大学」)一括	1枚
423	夏期休暇中の開館	図書館		昭和38年6月24日		墨書、青焼き		423～426・849・1327・1478・1609～1611・1633・1699・1700・1807・1808・1966・1967は封筒(表「藤沢市 大串兎代夫様」 「東京都新宿区 躍進社」)一括	1枚

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
424	〔国学院大学編集課書簡〕	国学院大学編集課			初校をお届けいたします	印刷		423～426・849・1327・1478・1609～1611・1633・1699・1700・1807・1808・1966・1967は封筒（表「藤沢市 大串兎代夫様」 「東京都新宿区 躍進社」）一括	1枚
425	故藤田徳太郎旧蔵国学院高等学校現蔵 歌謡資料展示目録	白田甚五郎		昭和38年11月29日		謄写版		ステープラー留め。423～426・849・1327・1478・1609～1611・1633・1699・1700・1807・1808・1966・1967は封筒（表「藤沢市 大串兎代夫様」 「東京都新宿区 躍進社」）一括	1綴
426	〔歌詞〕				図書館職員をもじった数え唄カ	印刷、カーボン		423～426・849・1327・1478・1609～1611・1633・1699・1700・1807・1808・1966・1967は封筒（表「藤沢市 大串兎代夫様」 「東京都新宿区 躍進社」）一括	1枚
427	国学院大学新聞第275号	国学院大学新聞学会		昭和38年12月10日		印刷			1部
428	国学院大学新聞第279号	国学院大学新聞学会		昭和39年5月10日		印刷			1部
429	国学院雑誌 第六十五巻第五号	国学院大学		昭和39年5月15日〔発行〕		印刷			1冊
430	国学院大学日本文化研究所報 Vol. 1. No. 6.	〔国学院大学日本文化研究所〕		昭和39年12月25日		印刷			1綴
431	講義案（法学）亜細亜大学	〔大串兎代夫〕		〔昭和40～42年〕		ペン、鉛筆	「NOTE BOOK」		1冊
432	雍南大学設立趣意書	設立代表者 草鹿龍之介 京都市上京区 雍南大学設立準備事務所		〔昭和40年〕		印刷、電子式複写			1冊
433	日韓会談；反対斗争は如何に進んでいるか？	〔国学院大学〕日韓反対斗争委員会		〔昭和40年〕		謄写版			1枚
434	亜細亜大学学則	〔亜細亜大学〕		昭和40年□月□日施行		印刷			1冊
435	職務調書	大串兎代夫	亜細亜大学 学長 太田耕造	昭和40年□月□日		印刷、ペン		氏名以外未記入	2枚
436	国学院事報 第24号	国学院大学事務局		昭和40年6月30日		印刷			1綴
437	国学院大学新聞第291号	国学院大学新聞学会		昭和40年7月10日		印刷			1部
438	国学院事報 第25号	国学院大学事務局		昭和40年7月31日		印刷			1綴
439	国学院事報 第26号	国学院大学事務局		昭和40年8月31日		印刷			1綴
440	国学院大学学報第86号	国学院大学広報部		昭和40年9月1日		印刷			1綴
441	国学院事報 第27号	国学院大学事務局		昭和40年9月30日		印刷			1綴
442	国学院大学学報第87号	国学院大学広報部		昭和40年10月1日		印刷			1綴
443	国学院大学学報第88号	国学院大学広報部		昭和40年11月1日		印刷			1綴
444	国学院雑誌 第六十六巻第十一号	国学院大学		昭和40年11月15日〔発行〕		印刷			1冊
445	国学院大学日本文化研究所報 vol. 2. No. 6.	〔国学院大学日本文化研究所〕		昭和40年12月25日		印刷			1綴
446	国学院事報 第31号	国学院大学事務局		昭和41年1月31日		印刷			1綴
447	国学院大学日本文化研究所報 vol. 3. No. 1.	〔国学院大学日本文化研究所〕		昭和41年2月25日		印刷			2綴
448	国学院大学日本文化研究所紀要 第十八輯	国学院大学日本文化研究所		昭和41年3月31日〔発行〕		印刷			1冊
449	国学院大学日本文化研究所報 Vol. 3. No. 3.	〔国学院大学日本文化研究所〕		昭和41年6月25日		印刷		448に挿入	1綴
450	法学部名簿	〔亜細亜大学法学部〕		昭和41年4月1日現在		印刷		ステープラー留め、450・451は同折	1綴
451	法学部教員名簿	〔亜細亜大学法学部〕		昭和41年4月現在	「行政学・法学（法博）大串兎代夫教授」と記載あり	印刷		破損あり。450・451は同折	1枚
452	昭和四十一年度第一回専任教員会議議事録	〔亜細亜大学〕		昭和41年4月30日		印刷		452～454はステープラー留め、封筒（表「大串兎代夫殿」・裏「東京都武蔵野市 亜細亜大学 日本経済短期大学」）一括	1綴
453	昭和四十一年度第二回専任教員会議議事録	〔亜細亜大学〕		昭和41年8月30日		印刷		ステープラー留め。452～454はステープラー留め、封筒（表「大串兎代夫殿」・裏「東京都武蔵野市 亜細亜大学 日本経済短期大学」）一括	1綴
454	昭和四十一年度法学部第六回教授会	〔亜細亜大学法学部〕		〔昭和41年〕11月2日		印刷		書込み（鉛筆）あり。452～454はステープラー留め、封筒（表「大串兎代夫殿」・裏「東京都武蔵野市 亜細亜大学 日本経済短期大学」）一括	1組

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
455	〔EBERHARD ALBERT UNIVERSITÄ TSBUCHHANDLUNG 書簡〕	EBERHARD ALBERT UNIVERSITÄ TSBUCHHANDLUNG	Magnifizenz Herrn Rektor Kozo Ohta Asia University 〔太田耕造〕	1966年7月11日	独語書簡	タイプ、ペン	「albert」用箋	クリップあり、455～462は封筒（「亜細亜大学 日本経済短期大学」封筒・「HITACHI」封筒）一括。また「亜細亜大学」封筒の表に「独乙図書注文関係（大串先生）」（ペン）とあり	1通
456	〔EBERHARD ALBERT 書店書簡〕	〔EBERHARD ALBERT 書店〕	太田学長殿 〔太田耕造〕	1966年7月11日	大串教授のお勧めにより当方は貴下に法学部新図書館の設立のため大串教授からご注文のあった法律学文献目録（取引目録）をご送付いたします	ペン	書綴（「コクヨ」原稿用紙）	455の和訳カ、ステープラー留め。455～462は封筒（「亜細亜大学 日本経済短期大学」封筒・「HITACHI」封筒）一括	1綴
457	大串先生よりの注文書	〔EBERHARD ALBERT 書店〕		〔1966年〕		タイプ、鉛筆、スタンプ、印刷、ペン		ステープラー留め。455～462は封筒（「亜細亜大学 日本経済短期大学」封筒・「HITACHI」封筒）一括	1綴
458	〔計算覚書〕			〔1966年〕	図書注文に関する試算カ	ペン、鉛筆	「亜細亜大学 日本経済短期大学」罫紙	455～462は封筒（「亜細亜大学 日本経済短期大学」封筒・「HITACHI」封筒）一括	2枚
459	AUFSTELLUNG	〔EBERHARD ALBERT 書店〕		1966年7月1日		タイプ、鉛筆、ペン、スタンプ	書綴（「albert」用箋・「亜細亜大学 日本経済短期大学」罫紙）	クリップ・ステープラー留め。455～462は封筒（「亜細亜大学 日本経済短期大学」封筒・「HITACHI」封筒）一括	1綴
460	Eberhard Albert			〔1966年〕	図書注文に関する覚書	ペン、鉛筆	「亜細亜大学 日本経済短期大学」罫紙	455～462は封筒（「亜細亜大学 日本経済短期大学」封筒・「HITACHI」封筒）一括	1枚
461	〔計算覚書〕			〔1966年〕	図書注文に関する試算カ	ペン、鉛筆	「亜細亜大学 日本経済短期大学」罫紙	455～462は封筒（「亜細亜大学 日本経済短期大学」封筒・「HITACHI」封筒）一括	1枚
462	Eberhard Albert 書店 独乙書 大串先生の注文書			〔1966年〕	図書注文に関する覚書	ペン、鉛筆	「亜細亜大学 日本経済短期大学」罫紙	455～462は封筒（「亜細亜大学 日本経済短期大学」封筒・「HITACHI」封筒）一括	1枚
463	古事記年報（十一）	古事記学会		昭和41年9月30日〔発行〕		印刷			1冊
464	事務局通信	東京都小金井市 東京学芸大学国語国文学研究室内 古事記学会	大串兎代夫	昭和41年9月		印刷、ペン		463に挿入	1枚
465	払込票 払込通知	古事記学会		〔昭和41年〕		印刷、ペン		463に挿入	1枚
466	領収証	東京都渋谷区 国学院大学内 神道宗教学会（公印）	大串兎代夫	昭和41年12月4日	昭和41年度分普通会費	印刷、ペン、スタンプ			1枚
467	昭和41年度学年末試験時間割案送付について	亜細亜大学 日本経済短期大学 教務部長 稲葉昌幸	関係先生各位	昭和41年12月23日		印刷			1枚
468	〔亜細亜大学 日本経済短期大学 教務部長 稲葉昌幸書簡〕	亜細亜大学 日本経済短期大学 教務部長 稲葉昌幸	先生各位	昭和41年12月24日	昭和42年度授業時間割原案を別紙のとおり作成いたしました	印刷、ペン		468～471は封筒（表「藤沢市 大串兎代夫殿」・裏「東京都武蔵野市 亜細亜大学 日本経済短期大学 教務部」）一括	1通
469	昭和42年度授業時間割表（案）	〔亜細亜大学 教務部〕		〔昭和41年〕		謄写版		ステープラー留め。468～471は封筒（表「藤沢市 大串兎代夫殿」・裏「東京都武蔵野市 亜細亜大学 日本経済短期大学 教務部」）一括	1組
470	昭和42年度授業時間割原案中下記のとおり変更を希望する	氏名		昭和〇年〇月〇日		印刷		468～471は封筒（表「藤沢市 大串兎代夫殿」・裏「東京都武蔵野市 亜細亜大学 日本経済短期大学 教務部」）一括	1枚
471	〔亜細亜大学教務部 小山了右行封筒〕		東京都武蔵野市 亜細亜大学教務部 小山了右	〔昭和41年〕		スタンプ、印刷		468～471は封筒（表「藤沢市 大串兎代夫殿」・裏「東京都武蔵野市 亜細亜大学 日本経済短期大学 教務部」）一括	1枚
472	国学院大学学報 第274号	国学院大学広報課		昭和57年7月10日		印刷		472～474は同折	1綴
473	院友会報	国学院大学院友会		昭和57年5月15日		印刷		472～474は同折	1綴
474	創立100周年 記念事業行事概要	国学院大学		〔昭和57年〕		色刷		472～474は同折	1枚
475	亜細亜大学誠法会規約	〔亜細亜大学 誠法会〕				謄写版		ステープラー留め	1冊
10. 教育（戦後）									
476	朝日ジャーナル 第六巻第二十六号	朝日新聞社		昭和39年6月28日〔発行〕		印刷		書込み（ペン）あり、476～480・1924は紐・包紙（表「Mr. ODO HOLZER c/o Kiyoko Ogushi」・裏「Abs. Robert Kao」）一括	1冊
477	〔漢字覚書〕			〔昭和39年〕	「東京」など。文字練習カ	ペン		477に挿入。476～480・1924は紐・包紙（表「Mr. ODO HOLZER c/o Kiyoko Ogushi」・裏「Abs. Robert Kao」）一括	1枚

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
478	ELEMENTARY JAPANESE FOR COLLEGE STUDENTS PART I	COMPILED BY SERGE ELISSE' EFF EDWIN O. REISCHAUER AND TAKEHIKO YOSHIHASHI PUBLISHED FOR THE HARVARD-YENCHING INSTITUTE HARVARD UNIVERSITY PRESS · CAMBRIDGE · MASSACHUSETTS		1961年		印刷		表紙に「オドーホルツァー」などの書込み(ペン・鉛筆)あり。476~480・1924は紐・包紙(表「Mr. ODO HOLZER c/o Kiyoko Ogushi」・裏「Abs. Robert Kao」)一括	1冊
479	ELEMENTARY JAPANESE FOR COLLEGE STUDENTS PART II	COMPILED BY SERGE ELISSE' EFF EDWIN O. REISCHAUER AND TAKEHIKO YOSHIHASHI PUBLISHED FOR THE HARVARD-YENCHING INSTITUTE HARVARD UNIVERSITY PRESS · CAMBRIDGE · MASSACHUSETTS		1961年		印刷		表紙に「オドーホルツァー」などの書込み(ペン・鉛筆)あり。476~480・1926は紐・包紙(表「Mr. ODO HOLZER c/o Kiyoko Ogushi」・裏「Abs. Robert Kao」)一括	1冊
480	ELEMENTARY JAPANESE FOR COLLEGE STUDENTS PART III	COMPILED BY SERGE ELISSE' EFF EDWIN O. REISCHAUER AND TAKEHIKO YOSHIHASHI PUBLISHED FOR THE HARVARD-YENCHING INSTITUTE HARVARD UNIVERSITY PRESS · CAMBRIDGE · MASSACHUSETTS		1961年		印刷		表紙に「オドーホルツァー」などの書込み(ペン・鉛筆)あり。476~480・1926は紐・包紙(表「Mr. ODO HOLZER c/o Kiyoko Ogushi」・裏「Abs. Robert Kao」)一括	1冊
481	教科書検定と憲法一家永教授の提訴とその見解を中心に	大串 兎代夫		[昭和40年]		印刷		ステープラー留め	1綴
482	新聞切抜	大臣官房広報主任官室		昭和40年5月4日〔・〕5日(火水)	教科書検定関係ほか	印刷、鉛筆、スタンプ		ステープラー留め。482~486は封筒(表「家永事件」)一括されていた	1冊
483	答弁書	被告指定代理人 小林定人 片山邦宏 山本彰 佐藤薫 吉久勝美	東京地方裁判所民事部第三部	昭和40年9月18日	家永教科書検定裁判における被告(国)側の答弁書	謄写版		ステープラー留め。482~486は封筒(表「家永事件」)一括	1綴
484	教科書検定訴訟支援会発起人名簿			9月20日現在		印刷		書込み(ペン)あり。482~486は封筒(表「家永事件」)一括	1枚
485	副本 訴状	原告訴訟代理人 森川金寿ほか9名	東京地方裁判所	昭和40年6月12日	家永教科書検定裁判の訴状	印刷		ステープラー留め。482~486は封筒(表「家永事件」)一括	1綴
486	〔東京教育懇話会幹事 宇野精一書簡〕	東京教育懇話会幹事 宇野精一	大串先生〔大串 兎代夫〕	[昭和40年] 11月3日	昨今教科書検定に関し家永訴訟の提起あり、事の重大性に鑑み本会の有志が集まって対策を協議いたすことになりました、ついでには先生のご参加をいただき最も適切な緒論を得ることができればこれに越す幸いはございません	墨書	「無私」便箋	封筒(表「藤沢市 大串 兎代夫 様」・裏「東京都渋谷区 宇野精一」)あり。482~486は封筒(表「家永事件」)一括	1通
487	教科書問題協議会の趣旨と活動	教科書問題協議会		昭和41年6月		印刷			1冊
11. 憲法学会・憲法関連									
488	日本国憲法研究会草案	〔貴族院憲法改正特別委員会関係者有志〕		[昭和29年以降]		印刷		ステープラー留め	1冊
489	金剛余滴 No. 78 独自「憲法学体系化」号	小寺幸正		昭和36年9月30日		謄写版		書込み(鉛筆)あり	1冊

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
490	内閣憲法調査会第九十九回総会（昭和三八、二、二七）に於ける「天皇制に関する発言」速記録	内閣憲法調査会委員 富田健治[述]		[昭和38年]		印刷		覚書（ペン）あり、ステープラー留め	1冊
491	憲法研究 第二号	憲法学会		昭和38年10月15日[発行]		印刷			1冊
492	ポツダム宣言受諾の意義と所謂『民主主義革命』 祭祀大権の本質及びその統治大権との関係について 緊急事態戒厳令	憲法大成合同会		[1964～65年]	憲法大成合同会副会長三瀧信吾氏の所論の上梓	印刷			1冊
493	〔憲法の会世話人一同書簡〕	憲法の会世話人一同	大串兎代夫	[昭和39年] 8月27日	明治神宮参集殿において本会の結成を完了いたしました	印刷、墨書		493～495は封筒（表「藤沢市 大串兎代夫様」・裏「東京都中野区憲法の会世話人一同」）一括	1通
494	第一回世話人会開催	憲法の会 世話人有志		[昭和39年] 8月27日	なにとぞご来会のほどお願い申し上げます	印刷		493～495は封筒（表「藤沢市 大串兎代夫様」・裏「東京都中野区憲法の会世話人一同」）一括	1枚
495	〔憲法の会世話人有志行書簡〕		中野区 憲法の会世話人有志	[昭和39年]	9月9日に開催される世話人会の出欠連絡	謄写版	葉書	493～495は封筒（表「藤沢市 大串兎代夫様」・裏「東京都中野区憲法の会世話人一同」）一括	1枚
496	憲法の会案内	憲法の会世話人		昭和39年9月9日	世話人に「大串兎代夫」の名前あり	印刷、スタンプ、ペン			18枚
497	「日本国憲法」の不当性項目（案）	〔憲法の会〕		昭和39年9月25日		謄写版		書込み（ペン）あり	1枚
498	憲法研究 第三号	憲法学会		昭和39年10月30日[発行]		印刷		498・499は「憲法研究」封筒（表「東京都中野区憲法学会事務連絡書」）一括	1冊
499	憲法研究 第四号	憲法学会		昭和40年10月13日[発行]	大串兎代夫「憲法の効力」掲載	印刷		498・499は「憲法研究」封筒（表「東京都中野区憲法学会事務連絡書」）一括	1冊
500	「日本国憲法」の不当性	憲法の会		昭和39年11月		印刷			1枚
501	参考資料「絶対平和論と日本国憲法」			昭和39年11月30日		ペン、鉛筆、青焼き		ステープラー留め	1綴
502	第三十回公法学会報告要旨	〔公法学会〕		[昭和40年代]		印刷		破損あり	1冊
503	憲法の会規約			[昭和40年代]		ペン		ステープラー留め	1綴
504	日本国憲法とキリスト教 憲法問題決定版〔Ⅲ〕	法学博士 大串兎代夫[著] 憲法の会		昭和40年5月1日[発行]		印刷			1冊
505	憲法調査建議会懇談会出席者			昭和40年7月14日		謄写版		「於弘済会館」とあり、「国家権威と非常大権」（ペン）とあり	1枚
506	憲法問題決定版 四 忘れ得ぬこと	元侍従次長 木下道雄著 憲法の会[発行]		昭和40年8月10日[発行]		印刷			1冊
507	憲法学会機関誌「憲法研究」第四号抜刷 憲法の効力	大串兎代夫		昭和40年10月13日[発行]		印刷			4冊
508	〔憲法の会浜松地方協議会 西村暢夫書簡〕	憲法の会浜松地方協議会 西村暢夫	大串兎代夫	[昭和40年] 11月10日	講演会当日の日程について	墨書		508～511・611は封筒（表「東京都中野区 憲法の会付 大串兎代夫先生」・裏「憲法の会浜松地方協議会 明治維新史明徴神祭委員会 浜松市 西村暢夫」）一括	1通
509	憲法の会講演会	講師 前名城大学長法学博士 大串兎代夫 主催 憲法の会浜松地方協議会 国鎮御魂大神鎮祭委員会		[昭和40年]	講演会の案内	印刷		508～511・611は封筒（表「東京都中野区 憲法の会付 大串兎代夫先生」・裏「憲法の会浜松地方協議会 明治維新史明徴神祭委員会 浜松市 西村暢夫」）一括	1枚
510	「国しづめ御魂鎮座祭」「第六回浜松憲法の会」御案内	憲法の会浜松地方協議会 国鎮御魂大神鎮祭委員会		昭和40年11月		印刷		書込み（ペン）あり。508～511・611は封筒（表「東京都中野区 憲法の会付 大串兎代夫先生」・裏「憲法の会浜松地方協議会 明治維新史明徴神祭委員会 浜松市 西村暢夫」）一括	1枚
511	〔転送願覚書〕	〔憲法の会浜松地方協議会〕		[昭和40年]	大串兎代夫先生宛御転送下さい	ペン		508～511封入の封筒に貼付。508～511・611は封筒（表「東京都中野区 憲法の会付 大串兎代夫先生」・裏「憲法の会浜松地方協議会 明治維新史明徴神祭委員会 浜松市 西村暢夫」）一括	1枚
512	国防と憲法	憲法大成合同会 三瀧信吾		[昭和41年]		印刷			2冊
513	日本憲法研究会試案資料	日本憲法研究会		昭和41年4月		印刷			1冊

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
514	明治の国是	憲法の会調査研究部〔編〕 憲法の会〔発行〕		昭和41年7月30日〔発行〕		印刷		うち1冊の裏表紙に「沢井和雄」の住所の書込み（鉛筆）あり	2冊
515	憲法の会人事	〔憲法の会〕		昭和41年10月	会長・副会長・理事長・理事・監事・顧問・評議員の一覧	印刷			1枚
516	〔憲法学会第16回総会レジュメ〕	〔大串兎代夫・永田一郎〕		昭和41年10月18日	大串兎代夫「最近におけるドイツの公法学界」、永田一郎「選挙区制」	謄写版			1枚
517	憲学第九号 建国記念日二月十一日に関する要望書	憲法学会理事長 沢田竹治郎	建国記念日審議会会長 菅原通済	昭和41年11月4日		謄写版		「写」印あり	1枚
518	一月例会のご通知	東京都杉並区稲留勝彦気付憲法大成合同会事務局	藤沢市 大串兎代夫	昭和42年元旦		墨書、スタンプ、謄写版	葉書		1枚
12. 海外長期滞在 昭和40～41年									
519	〔住所覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和40～41年〕	Münchenの住所と電話番号	ペン			1枚
520	MEET THE UNITARIANS & UNIVERSALISTS by Jack Mendelsohn	Unitarian Universalist Association		1965年12月		印刷			1冊
521	BAGGAGE CLAIM TAG	NORTHEAST AIRLINES, INC.	〔大串兎代夫〕	〔1965年〕		印刷、ペン		ステープラー留め、封筒あり	1綴
522	BUSINESS REPLY MAIL	THE Diners' CLUB, INC.		〔1965年〕		印刷		未使用	1枚
523	THIS WEEK	the Aires Publishing Co.		1965年12月26日		印刷			1冊
524	〔切符〕			1966年1月14日		印刷		「Heidelberg Hbf」ー「Karlsruhe Hbf」間カ	1枚
525	BAGGAGE TAG	DEUTSCHE RUFTHANSA		〔昭和40年〕		印刷、スタンプ、ペン			1枚
526	日本国旅券	大串兎代夫		1965年11月24日		印刷、ペン、スタンプ		526・527はケース一括	1冊
527	〔切手〕			〔昭和40年〕		印刷、スタンプ		526・527はケース一括	1枚
528	日本国旅券	大串孝子		1965年11月24日		印刷、ペン、スタンプ		528～543はケース一括	1冊
529	〔写真〕	〔大串孝子〕		〔昭和40年〕		写真		528～543はケース一括	1組
530	携帯品別送品申告書	Toyowo Ohgushi〔大串兎代夫〕	〔横浜税関〕	〔昭和41年〕		印刷、タイプ、ペン、スタンプ		528～543はケース一括	1枚
531	〔領収証〕	REISEBÜRO HELMEL O. H. G.	Professor Ogushi〔大串兎代夫〕	1966年9月8日		印刷、カーボン、ペン、スタンプ		528～543はケース一括	1組
532	Behelfsvisum	REGIERUNG DER DEUTSCHEN DEMOKRATISCH EN REPUBLIK	Ogushi, Toyowo〔大串兎代夫〕	1966年9月8日	一時滞在査証	印刷、タイプ、ペン、スタンプ		528～543はケース一括。532・533は同折	1枚
533	Behelfsvisum	REGIERUNG DER DEUTSCHEN DEMOKRATISCH EN REPUBLIK	Ogushi, Takako〔大串孝子〕	1966年9月8日	一時滞在査証	印刷、タイプ、ペン、スタンプ		528～543はケース一括。532・533は同折	1枚
534	LIEFERSCHEIN/RECHNUNG	Verlag Buch und Wissen		1965年11月29日	「DIE BIBEL DER KINDER」の納品・勘定書	印刷、タイプ		紙背に覚書（ペン）あり。528～543はケース一括。534～536は同折	1枚
535	〔名刺〕	REISEBÜRO HELMEL		〔昭和41年〕		印刷、ペン		528～543はケース一括。534～536は同折	1枚
536	〔住所覚書〕			〔昭和40～41年〕	ベルリンの住所と電話番号	ペン		528～543はケース一括。534～536は同折	1枚
537	ソ連行のビザの取得の手續	〔大串兎代夫〕		〔昭和40～41年〕		ペン	「JAPANISCHE BOTSCHAFT」用紙	528～543はケース一括	1枚
538	〔日程覚書〕			1966年2月	旅行の日程表カ	ペン		「Anmeldung」の紙背使用。528～543はケース一括	1枚
539	Quittung und Auftragsbestätigung	Glock WOHNUNGSNACHWEIS	Frau〔不詳〕	1966年8月	領収書・注文書	印刷、ペン		528～543はケース一括	1枚
540	SICHTKARTE			1966年5月	定期乗車券	印刷、ペン、スタンプ		大串兎代夫の写真貼付。528～543はケース一括	1枚

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
541	海外渡航のための外国へ向けた支払承認許可申請書	大串兎代夫	株式会社三菱銀行本店	1965年11月18日	亜細亜大学の渡航推薦状・支払証人許可申請書・旅客運賃見積書・旅行計画表が一綴り	印刷、ペン、スタンプ、タイプ		ステープラー留め。528～543はケース一括	1綴
542	Bagage straptag	INTERFLUG		[昭和41年]		印刷、スタンプ、鉛筆		528～543はケース一括	1枚
543	[航空機関係覚書]			[昭和40～41年]	「Air terminal」の住所、時間の覚書	ペン、鉛筆	「B・O・A・C」用紙	528～543はケース一括	1枚
544	INTERNATIONAL CERTIFICATES OF VACCINATION	CHIYODA CLINIC	Toyoo Ogushi [大串兎代夫]	[昭和40年12月]		印刷、ペン		ステープラー留め。大串兎代夫の「海外渡航者予防接種証明書」のステープラー留めあり	1冊
545	祝	中村武彦謹上		[昭和40年] 9月15日	欧迎宴即詠	ペン		「御手も登 魚国」の紙背使用	1枚
546	[住所録]	[大串兎代夫]		[昭和40～41年]	建入黎子のハンブルグの住所ほか	ペン、鉛筆			1冊
547	Visitors GUIDEPOST Vol. I, No. 15			1965年12月25日		印刷		ステープラー留め	1冊
548	Mitteilung	Org. Büro des Komitees	Herrn Professor Ogushi [大串兎代夫]	[1966年]	エルフルトからの出発について	タイプ、ペン		548～550は同折	1枚
549	[Freundschaftskomitee Deutsche Demokratische Republik - Japan 書簡]	Freundschaftskomitee Deutsche Demokratische Republik - Japan		[1966年]	「der Freundschaft mit dem japanischen Volk in der Deutschen Demokratischen Republik vom 13. - 19. September 1966 in Weimar」の招待状	印刷		548～550は同折	1通
550	TAGE DER FREUNDSCHAFT MIT DEM JAPANISCHEN VOLK in der Deutschen Demokratischen Republik	Organisationsbüro: Pavillon der Weimar-Information		1966年9月13日 - 16日		印刷		「vom 13. -16. September 1966 in Weimar」とあり。548～550は同折	2枚
551	BERIOZKA			[1966年]	VISIT THE "BERIOZKA" SHOPS !	色刷			1枚
552	Sorten-/Devisenankauf	DEUTSCHE NOTENBANK	Toyowo Ohgushi [大串兎代夫]	1966年9月3日		印刷、ペン、スタンプ		551に挿入	1枚
553	Sorten-/Devisenankauf	DEUTSCHE NOTENBANK	T. Ohgushi [大串兎代夫]	1966年9月12日		印刷、ペン、スタンプ		551に挿入	1枚
554	Annahme-Bescheinigung	HOTEL INTERNATIONALE JENA	Ohgushi, Takako [大串孝子]	[1966年]		印刷、ペン、スタンプ		551に挿入	1枚
555	CLIPPER MAGAZINE VOLUME 6 NO.1	Pan American World Airways Inc		[1966年1月～2月]		印刷		ステープラー留め	1冊
556	[不明書簡]	[不詳]	Prof. T. Ohgushi [大串兎代夫]	1966年1月31日	独語書簡	タイプ、ペン	「GESELLSCHAFT FÜR AKADEMISCHE STUDIENREISE N E. V. HEIDELBERG」用箋	556～559は「GESELLSCHAFT FÜR AKADEMISCHE STUDIENREISEN E. V. 69 HEIDELBERG」封筒（表「Herrn Prof. T. Ohgushi c/o Frau Bergemann Freiburg」）一括	1通
557	“GRIECHENLAND-ISTANBUL-KLEINASIEN”			[1966年]		印刷	「GESELLSCHAFT FÜR AKADEMISCHE STUDIENREISE N E. V. HEIDELBERG」用箋	556～559は「GESELLSCHAFT FÜR AKADEMISCHE STUDIENREISEN E. V. 69 HEIDELBERG」封筒（表「Herrn Prof. T. Ohgushi c/o Frau Bergemann Freiburg」）一括	1枚
558	[旅行案内]			[1960年代]		タイプ		ステープラー留め。556～559は「GESELLSCHAFT FÜR AKADEMISCHE STUDIENREISEN E. V. 69 HEIDELBERG」封筒（表「Herrn Prof. T. Ohgushi c/o Frau Bergemann Freiburg」）一括	1綴
559	Fruhjahrskreuzfahrten 1966 Nordafrika Griechenland Kleinasien	Gesellschaft für Akademische Studienreisen e. V. Heidelberg		[1965年]		印刷		556～559は「GESELLSCHAFT FÜR AKADEMISCHE STUDIENREISEN E. V. 69 HEIDELBERG」封筒（表「Herrn Prof. T. Ohgushi c/o Frau Bergemann Freiburg」）一括	2冊
560	Die Universitätsbuchhandlung EBERHARD Albert	[Albert]		1966年4月1日	書店の案内・領収証	印刷			1枚
561	Rechnung	Universitätsbuchhandlung Eberhard albert	Herrn Prof. Ohgushi [大串兎代夫]	[19] 66年5月3日	「J. H. Kaiser Planung I」の領収証	印刷、タイプ、ペン			1枚

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
562	〔大串孝子書簡〕	Frau Takako Ohgushi	建入 黎子	〔昭和41年〕 9月5日	ハンブルクへおいでになるよし、お目にかかれるのを楽しみにしております。ハンブルクはホテルがこみますので早めに予約されるのがよろしいかと思ひます	ペン、鉛筆			1枚
563	〔注文票〕	〔大串兎代夫〕		1966年9月13日	「Volksbuchhandlung」に対する図書の注文票	印刷、カーボン			1枚
564	〔Otto Koellreutterほか書簡〕	Ihr Otto Koellreutter Ihr 〔不詳〕	Liebe Frau Ogushi ! 〔大串孝子〕	1967年2月12日	独語書簡	タイプ、ペン		封筒 (表「Frau Ogushi Fujisawa-shi」・裏「Abs. Professor Koellreutter Freiburg」) あり	1通
565	〔G. LEIBHOLZ書簡〕	〔PROF. DR. G. LEIBHOLZ〕	Dear Mrs. Ogushi 〔大串孝子〕	1969年2月11日	独語書簡	ペン	〔PROF. DR. G. LEIBHOLZ〕用箋	封筒 (表「Mrs. T. Ohgushi, Fujisawa-shi」 「日本神奈川県藤沢市 大串教授令夫人殿」・裏「独乙カールスルーエ聯邦憲法裁判所 ライプホルツ教授出」 「東京早大政経学部教授 松本馨出」) あり	1通
566	〔J. H. 書簡〕			1966年12月	独語書簡	色刷、ペン		封筒 (表「Herrn Prof. Toyowo Ohgushi 神奈川県藤沢市」・裏「Dr. jur. J. H. Su Freiburg」) あり	1通
567	〔Otto Koellreutter書簡〕	Ihr sehr ergebener Eberhard Koellreutter	Lieber Herr Ohgushi ! 〔大串兎代夫〕	1966年8月21日	独語書簡	タイプ、ペン		封筒 (表「Herrn Prof. T. Ohgushi Karlsruhe」・裏「Prof. O. Koellreutter München」) あり	1通
568	〔G. LEIBHOLZ書簡〕	Ihr sehr ergebener G. Leibholz	Herrn Professor Dr. Toyowo Ohgushi 〔大串兎代夫〕	1966年11月25日	独語書簡	タイプ、ペン	〔PROFESSOR G. LEIBHOLZ〕用箋	568・569はクリップ留め。568～570は封筒 (表「Professor Dr. Toyowo Ohgushi Fujisawa-shi」 「G. Leibholz Bundesverfassungsgericht Karlsruhe」) 一括	1通
569	〔G. LEIBHOLZ書簡〕	Ihr Ihnen stets getreulich verbundener G. Leibholz	〔大串兎代夫〕	1966年12月12日	独語書簡	タイプ、ペン	〔BUNDESVERFASSUNGSGERICHT〕用箋	568・569はクリップ留め。568～570は封筒 (表「Professor Dr. Toyowo Ohgushi Fujisawa-shi」 「G. Leibholz Bundesverfassungsgericht Karlsruhe」) 一括	1通
570	〔クリスマスカード〕	G. Leibholz	〔大串兎代夫〕	〔1966年〕		色刷、ペン		568～570は封筒 (表「Professor Dr. Toyowo Ohgushi Fujisawa-shi」 「G. Leibholz Bundesverfassungsgericht Karlsruhe」) 一括	1枚
571	〔W. Geiger封筒〕	Bundesverfassungsgericht Professor Dr. W. Geiger Karlsruhe	Professor Toyowo Ohgushi Nagoya, showa-ku, Meijo-Daigaku 〔大串兎代夫〕	〔1965年6月3日〕		タイプ		付箋 (「左記へ御廻送下さい 名城大学駒方校舎」・「神奈川県藤沢市 大串兎代夫殿」) あり、未開封	1枚
572	〔KURT LINDNER書簡〕	Dein alter, treuer Freund Kurt	Mein Lieber, guter Toyowo ! 〔大串兎代夫〕	1966年12月13日	独語書簡	タイプ、ペン	〔DR. KURT LINDNER〕用箋	封筒 (表「Herrn Professor Dr. Toyowo Ohgushi Fujisawa-shi」・裏「DR. KURT LINDNER BAMBERG」) あり	1通
573	〔Otto Koellreutter書簡〕	Ihrem alter Otto Koellreutter	Lieber Herr Ohgushi ! 〔大串兎代夫〕	1966年12月19日	独語書簡	タイプ、ペン		封筒 (表「Herrn Prof. T. Ohgushi Fujisawa-shi」・裏「Prof. Koellreutter Freiburg」) あり	1通
574	〔Carl Schmitt書簡〕	Carl Schmitt	Ogushi 〔大串兎代夫〕	〔1966年〕	独語書簡	ペン		574・575は封筒 (「Herrn Professor T. Ogushi und Frau Freiburg」) 一括	1通
575	〔名刺〕	Professor Carl Schmitt		1966年1月23日	Professor Carl Schmitt	印刷、ペン		574・575は封筒 (「Herrn Professor T. Ogushi und Frau Freiburg」) 一括	1枚
576	〔封筒〕				「Telegramm」用封筒	印刷			1枚
577	〔不明書簡〕	〔不詳〕	Professor Ohgushi 〔大串兎代夫〕	〔1966年9月1日〕	独語書簡	ペン	〔HOTEL GOLDENER HIRSCH〕用箋	「HOTEL GOLDENER HIRSCH」封筒 (表「Herrn Professor Ohgushi Karlsruhe」) あり	1通
578	〔Carl Schmitt書簡〕	Carl Schmitt	Toyowo Ohgushi 〔大串兎代夫〕	1966年1月15日	独語書簡	ペン		封筒 (表「Herrn Professor Toyowo Ohgushi Freiburg」) あり	1通
579	〔葉〕	Eberhard Albert Universitäts-				印刷			1枚
580	〔G. LEIBHOLZ書簡〕	Prof. Dr. Dr. Leibholz Richter am Bundesverfassungsgericht	Professor Toyowo Ohgushi Fujisawa-Shi 〔大串兎代夫〕	1966年10月11日	独語書簡	タイプ、ペン			1通
581	Telegramm	Deutsche Bundespost	PROF. DR. TOYORO 〔ママ〕 OHGUSHI KARLSRUHE 〔大串兎代夫〕	1966年9月6日	独語電報	印刷、タイプ、スタンプ、ペン			1通

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
582	〔Otto Koellreutter書簡〕	Koellreutter Freiburg	Herrn Prof. Ohgushi Freiburg [大串兎代夫]	1966年4月29日	独語書簡	ペン	葉書		1枚
583	〔G. LEIBHOLZ封筒〕	Prof. Dr. Dr. Leibholz, Richter am Bundesverfassungsgesicht, Karlsruhe	Professor Toyowo Ohgushi Fujisawa-Shi [大串兎代夫]	[1966年10月12日]		印刷、タイプ			1枚
584	〔舟木繁信書簡〕	舟木繁信	大串兎代夫	1966年〔ママ〕6月30日	私は貴兄の渡独のことにに関してHerr Dr. Bettinに手紙を書きますから貴兄も手紙をお出しになるとよいと思います	ペン	「航空郵便」用紙	用紙の差出欄に「Shigenobu Funaki Tokio-To Musashino-shi」、宛名欄に「Herrn Dr. Toyoo Ohgushi Karlsruhe」とあり	1通
585	VERFASSUNGSRECHT UND POLITISCHE WIRKLICHKEIT	Professor Dr. Dr. Gerhard Leibholz Richter des Bundesverfassungsgesichts		[1965年]		印刷		ステーブラー留め	1冊
586	〔不明書簡〕	〔不詳〕	Herrn Prof. T. Ohgushi [大串兎代夫]	1966年8月11日	独語書簡	印刷、タイプ、ペン	「独日友好委員会」用紙	「独日友好委員会」封筒(表「Herrn Prof. T. Ohgushi Karlsruhe」)あり	1通
587	〔住所等覚書〕	〔大串兎代夫〕		[1966]	独日友好委員会の住所など	鉛筆	「一誠堂特製」原稿用紙		1組
588	〔H. Bleier書簡〕	Ergebnste Grusse H. Bleier (Dr. H. Bleier, wiss. Assistentin)	Herrn Professor Toyowo Ohgushi bei Frau Sauter [大串兎代夫]	1966年8月25日	独語書簡	タイプ、ペン	「INSTITUT FÜR ÖFFENTLICHES RECHT DER UNIVERSITÄT FREIBURG」用紙	封筒(表「Herrn Professor Toyowo Ohgushi c/o Frau Sauter Karlsruhe」 「Institut f. öffentl. Recht」)あり	1通
589	〔Helene May書簡〕	Helene May	Professor Ohgushi [大串兎代夫]	1966年8月25日	独語書簡	タイプ、ペン		封筒(表「Herrn Professor Dr. T. Ohgushi Karlsruhe」・裏「Dr. Helene May」)あり	1通
590	〔Mr. & Mrs. J. H. 封筒〕	Mr. & Mrs. J. H. Su Freiburg	Herrn Prof. Dr. Ohgushi Karlsruhe	[1966年8月5日]		ペン		未開封	1枚
591	〔KURT LINDNER書簡〕	immer Dein Kurt	Mein lieber, guter Toyowo [大串兎代夫]	1966年10月5日	独語書簡	タイプ、ペン	「DR. KURT LINDNER」用紙	封筒(表「Herrn Prof. Dr. Toyowo Ohgushi Fujisawa-shi」・裏「DR. KURT LINDNER BAMBERG」)あり	1通
592	〔Mr. & Mrs. J. H. 書簡〕	Ihre [不詳]	Lieber Herr Professor und liebe Frau Ohgushi [大串兎代夫・孝子]	1966年7月27日	独語書簡	タイプ、ペン、鉛筆		封筒(表「Herrn Prof. T. Ohgushi c/o Prof. G. Leibholz Karlsruhe」・裏「Mr. & Mrs. J. H. Su Freiburg」)あり	1通
593	Ergänzung der Freimachung von Briefsendungen nach dem Ausland	Hochachtungsvoll Ihr Postamt	Prof. T. Ohgushi Karlsruhe [大串兎代夫]	1966年8月2日		印刷、ペン、スタンプ、鉛筆			1枚
594	〔MRS S M Dodd書簡〕	MRS S M Dodd Sussex	Professor Toyowo Ohgushi West Germany [大串兎代夫]	[1966年] 6月30日	私たち家族はあなたをホテルのロビーでお待ちしたいと思います	ペン	「AIR MAIL」用箋		1通
595	〔不明書簡〕	Ale [不詳]	Prof. Ohgushi [大串兎代夫]	1966年6月20日	あなたに会えることを楽しみにしています	ペン		595・596は封筒(表「Herrn Prof. T. Ohgushi」 「Ale [不詳]」・裏「Pamplone」)一括	1通
596	ESTADO versus FAMILIA	〔Ale [不詳]〕		1962年		印刷、ペン		595・596は封筒(表「Herrn Prof. T. Ohgushi」 「Ale [不詳]」・裏「Pamplone」)一括	1枚
597	〔大串孝子封筒〕	Takako Ohgushi Freiburg [大串孝子]	Frau T. Kanematsu [兼松]	[1966年] 8月28日		ペン、スタンプ			1枚
598	〔住所等覚書〕			[1965~1966年]	「石部雅亮」の住所・肩書ほか	ペン			1枚
599	〔兼松書簡〕	兼松 [内]	大串様	[1966年] 6月26日	スペインの手続きのこと、確かに承知いたしました	ペン		封筒(表「Frau Takako Ohgushi Freiburg」・裏「T. Kanematsu」)あり	1通
600	〔EBERHARD ALBERT UNIVERSITÄTSBUCHHANDLUNG書簡〕	EBERHARD ALBERT UNIVERSITÄTSBUCHHANDLUNG	Herrn Professor Toyowo Ohgushi [大串兎代夫]	1966年8月15日	独語書簡	タイプ、ペン	「Albert」用箋	600~602は封筒(表「Herrn Professor Toyowo Ohgushi Karlsruhe」 「Eberhard albert Universitätsbuchhandlung Freiburg」)一括	1通
601	〔EBERHARD ALBERT UNIVERSITÄTSBUCHHANDLUNG書簡〕	EBERHARD ALBERT UNIVERSITÄTSBUCHHANDLUNG	Herrn Rektor Kozo Ohta Asia University [太田耕造]	1966年8月15日	独語書簡	タイプ、ペン	「Albert」用箋	600~602は封筒(表「Herrn Professor Toyowo Ohgushi Karlsruhe」 「Eberhard albert Universitätsbuchhandlung Freiburg」)一括。601・602は同折	1通

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
602	Angebot	[EBERHARD ALBERT UNIVERSITÄTSBUCHHANDLUNG]		1966年8月8日		タイプ		600～602は封筒(表「Herrn Professor Toyowo Ohgushi Karlsruhe」「Eberhard albert Universitätsbuchhandlung Freiburg」)一括。601・602は同折	1枚
603	[荒井秀夫書簡]	東京都北区 荒井秀夫	Herrn Prof. Toyowo Ohgushi [大串兎代夫]	[1966年4月18日]	遠藤さんの件、杉浦氏の件	ペン	葉書		1枚
604	[不明書簡]		Lieber Herr Ogushi! [大串兎代夫]	1966年6月30日	独語書簡	タイプ		封筒(表「Herrn Professor Ogushi Freiburg」・裏「Freiburg」)あり	1通
605	[Kurt Lindner封筒]	Dr. Kurt Lindner Bamberg	Herrn Prof. Dr. Toyowo Ohgushi Fujisawa-shi [大串兎代夫]	[1966年10月7日]		タイプ、スタンプ、印刷			1枚
606	TRANSIT DURCH DIE UdSSR	Intourist			ソ連経由の航行ルート	色刷			1枚
607	[名刺]				Prof. Dr. jur. Hans Thieme	印刷		607～609は「CARL HERTEL」封筒一括	1枚
608	[鉄道乗換表]	DEUTSCHE BUNDESBahn				印刷、ペン		607～609は「CARL HERTEL」封筒一括	1枚
609	[人名等覚書]			[1966年7～8月]	人名・日付・金額	ペン		607～609は「CARL HERTEL」封筒一括	1枚
610	[領収証]	Elke M. Klueks	Prof. Ohgushi [大串兎代夫]		Hotel billの領収証	ペン	「PAN AMERICA」用紙		1枚
13. 大串兎代夫葬儀・追悼関係									
611	神拝詞	神社本庁蔵版		[昭和42年]		印刷		書込み(墨書)あり。508～511・611は封筒(表「東京都中野区 憲法の会付 大串兎代夫先生」・裏「憲法の会浜松地方協議会 明治維新史明徴神祭委員会 浜松市 西村暢夫」)一括	1枚
612	献詠	寛二		[昭和42年]		墨書			1枚
613	献詠	影山正治		昭和42年1月6日		墨書		包紙(表「献詠 影山」)あり	1枚
614	弔辞	憲法学会理事長 沢田竹治郎		昭和42年1月6日		墨書		包紙(表「弔辞 憲法学会」)あり	1枚
615	弔辞	国学院大学長 佐佐木行忠		昭和42年1月6日		墨書		包紙(表「弔辞 国学院大学」)あり、615～618は包紙(表「弔詞」)・紐一括	1枚
616	弔辞	長崎県立大村高等学校 同窓会会長 柳原敏一		昭和42年1月6日		墨書		包紙(表「弔辞」)あり。615～618は包紙(表「弔詞」)・紐一括	1枚
617	弔詞	横浜弁護士会 会長 田口正英		昭和42年1月6日		墨書		包紙(表「弔詞」)あり。615～618は包紙(表「弔詞」)・紐一括	1枚
618	弔詞	日本弁護士連合会 会長 中松潤之助		昭和42年1月6日		墨書		包紙(表「弔詞」)あり。615～618は包紙(表「弔詞」)・紐一括	1枚
619	[写真]	東京都中央区 安居四郎兵衛	[大串兎代夫]	[昭和42年1月24日]	「同人会 於町村会館 御講話 東西ドイツ之底流に流れるもの 法〔学〕博士 大串兎代夫先生 昭和四十一年十一月廿六日夕」ほか	写真、ペン、スタンプ		封筒(表「藤沢市 大串兎代夫様 御内 大串兎代夫先生御霊前に捧げる」・裏「東京都中央区 安居四郎兵衛」)あり	1組
620	[憲法の会事務局 川西秀一書簡]	憲法の会事務局 川西秀一	大串孝子	昭和42年1月25日	去る1月6日の故大串兎代夫先生のご葬儀当日の弔詞の写をご参考のためとりあえずお届けいたします	印刷		620・621は封筒(表「神奈川県藤沢市 大串孝子様」・裏「中野区 憲法の会事務局 川西秀一」)一括	1通
621	弔詞	憲法の会理事長 三須武男		昭和42年1月6日		印刷		620・621は封筒(表「神奈川県藤沢市 大串孝子様」・裏「中野区 憲法の会事務局 川西秀一」)一括	1枚
622	国学院大学学報 第100号	国学院大学広報部		昭和42年2月1日	「大串博士の急逝 悼む」・松尾三郎「故大串博士と「梧陰文庫」」掲載	印刷		封筒(表「藤沢市 大串兎代夫様」・裏「東京都渋谷区 国学院大学広報部」)あり	5綴
623	極東情報 第一五三三号	極東情報社		昭和42年2月1日	「七生社上杉慎吉博士の思想を受継いで来た大串兎代夫博士急逝」掲載	印刷		ステーブラー留め、封筒(表「藤沢市 故大串兎代夫先生御家族様」「救国七生連 極東情報社」)あり	1冊
624	国学院大学学報 第100号	国学院大学広報部		昭和42年2月1日	「大串博士の急逝 悼む」・松尾三郎「故大串博士と「梧陰文庫」」掲載	印刷		封筒(表「藤沢市 大串兎代夫様」「東京都渋谷区 国学院大学広報部」)あり	3綴

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
625	神道研究の相互理解 神道における政治と国体	第二回神道研究国際会議「持続と変化」		昭和42年6月1日～4日	三瀨信吾「憲法論に於ける国体論と統治—故大串博士の御霊前に捧ぐ—」掲載	印刷		625・626は一括	1冊
626	Mutual Understanding for Shinto Studies POLITICS AND KOKUTAI	The Second International Conference for Shinto Studies “CONTINUITY AND CHANGE”		1967年6月1-4日		印刷		625・626は一括	1冊
627	THE SECOND INTERNATIONAL CONFERENCE FOR SHINTO STUDIES	KOKUGAKUIN UNIVERSITY INSTITUTE FOR JAPANESE CULTURE AND CLASSICS		1967年6月1-4日	第二回神道研究国際会議のプログラム(英語版)	印刷・タイプ		626に挿入	1枚
628	西浜だより 第五号	川崎市 藤田豊		昭和44年11月23日	「今年の口霊祭」ほか	印刷		ステープラー留め	1綴
629	大東塾関係者同志遺詠集 つるぎと歌	大東塾出版部		昭和44年12月15日発行	大串兎代夫の遺詠と略歴を収録	印刷			1冊
630	〔大東塾々長 影山正治書簡〕	大東塾々長 影山正治		〔昭和44年〕	『つるぎと歌』を贈呈申し上げます	印刷		629に挿入	1通
631	〔根本勝書簡〕	根本勝	大串兎代夫	〔平成4年〕	ご尊父様は憲兵学校にはもったいない教官とっております、『東憲』280号に尉官学生による先生の追憶記事が載りましたのでその記事をコピーしてお送り申し上げます	ペン	「コクヨ」便箋	ステープラー留め、631・632は封筒一括。631～633は封筒(表「藤沢市 大串兎代夫様」・裏「神奈川県横須賀市 根本勝」)一括	1通
632	追憶の断片(3)	練馬区 溝口敏夫		平成4年10月1日記	『東憲』第280号の掲載記事	電子式複写、ペン		631・632は封筒一括。631～633は封筒(表「藤沢市 大串兎代夫様」・裏「神奈川県横須賀市 根本勝」)一括	1枚
633	比島憲兵隊史	比島憲友会		平成4年10月		印刷		631～633は封筒(表「藤沢市 大串兎代夫様」・裏「神奈川県横須賀市 根本勝」)一括	1冊
634	西浜だより 第六号	藤田豊		昭和45年11月30日		印刷			3枚
635	〔前夜祭・告別式についての覚書〕				前夜祭・告別式について	ペン、鉛筆	「神道宗教学会」原稿用紙		1組
14. 大串兎代夫個人資料									
636	第七次復航 芳名録	日本郵船株式会社 靖国丸		〔昭和8年〕	「大串兎代夫殿 文部省在外研究員」記載あり	謄写版		ステープラー留め。「Schachtler-Juvalta Handlung BERGÜN」封筒(裏面に「スイス貨幣」との鉛筆書きあり)封入	1冊
637	大串兎代夫交友録	〔荻〕興子〔編〕		〔昭和10年代〕		墨書、ペン		住所録	1冊
638	出版契約書	著作者 神奈川県片瀬町 大串兎代夫(印) 発行者 東京市神田区 大同印書館 村上正雄(公印)		昭和16年8月12日		印刷、墨書			1枚
639	人名簿	〔荻興子〕		昭和18年作製		印刷、墨書、ペン	「名刺型キング三号人名簿」		1冊
640	人名簿	〔荻興子〕		〔昭和〕18年1月迄		印刷、墨書、ペン	「キング」製人名簿	「新聞界」「出版界」「外国人」「翼賛会」「放送局」「軍及軍関係」「司〔法界〕」「警察方面」	1冊
641	〔辞令〕	社団法人大日本言論報国会 会長徳富猪一郎(公印)	大串兎代夫	昭和18年1月25日	本会理事ニ任ス	墨書、印刷			1枚
642	〔辞令〕	大日本興亜同盟 総裁 林銑十郎(公印)	大串兎代夫	昭和18年2月1日	興亜文芸委員会委員を委嘱す	墨書			1枚
643	〔住所録〕	〔荻興子〕		〔昭和20年代〕		ペン	「文部省撰定教育ノート大学高専用」		1冊
644	〔名刺〕	平和印刷		〔昭和30年代〕	「弁護士 大串兎代夫」、弁護士会・自宅ともに名古屋市	印刷			1枚
645	〔名刺〕	名城大学総長 大串兎代夫		〔昭和30～33年〕	名城大学総長 大串兎代夫	印刷		箱あり	1組
646	履歴書	大串兎代夫		〔昭和30～33年〕		印刷、ペン		封筒あり	1綴
647	〔名刺〕	名城大学総長 大串兎代夫		〔昭和30～33年〕	名城大学総長 大串兎代夫	印刷			4枚
648	委嘱状	護王神社宮司 酒井利行(公印)	大串兎代夫	昭和32年11月3日	護王神社顧問を委嘱いたします	印刷、墨書			1枚

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
649	身分証明書	内閣総理大臣 岸信介（公印）		昭和33年10月 21日	学術文化交流のため 南西諸島へ渡航する ものであることを証明 する	印刷、ペン、 スタンプ、タイ プ			1冊
650	〔名刺〕	弁護士 大串 兎代夫		〔昭和37～42 年〕	弁護士 法学博士 大串兎代夫	印刷			1枚
651	辞任届	名城大学教授 大串兎代夫（印）	学校法人名城 大学仮理事会	昭和38年8月 22日		墨書		「不二歌道会」封筒（表「辞 表」）あり	1組
652	工事請負請書	山梨県富士吉 田市 富士急 行開発株式会 社 取締役社 長 大森直光 （公印）	注文者 大串 兎代夫	昭和40年7月 16日		印刷、ペン、 青焼き		東区1丁目24の15番地の柵垣及び 下草刈について。ステーブラー留 め、封筒（表「神奈川県藤沢市 大串兎代夫様」「富士急行開発株 式会社」）あり	1綴
653	〔垂細垂大学 日 本経済短期大学書 簡〕			〔昭和42年〕	大串先生の給料及 び退職金につつま して	ペン	「垂細垂大学 日本経済短期 大学」罫紙	653～655は一括	1通
654	1月分俸給支給額内 訳表	経理部	大串兎代夫	〔昭和42年〕		印刷、スタン プ、ペン		653～655は一括	1枚
655	〔辞令〕	学校法人 垂 細垂学園	垂細垂大学教 授 大串兎代 夫	昭和42年1月4 日	死亡によりその職 を解く	印刷、墨書、 スタンプ		653～655は一括	1枚
656	招魂のみ祭に参列 して 大串兎代夫	JOAK SHOCHIKU RECORD SEISAKU			レコード			包紙あり	1組（3 枚）
15. 日記・手帳									
657	人のうた 自分の 歌 大正十三年八 月四日	〔大串兎代 夫〕		〔大正13～昭 和2年〕	詩の創作・日記	墨書、ペン	「NOTEBOOK. 」		1冊
658	夢を追ふ男の私記 雲影の四	〔大串兎代 夫〕		〔大正9年〕 11月17日～ 〔大正10年〕 8月22日	日記	ペン	「Matsuya.」 製「NOTE- BOOK」		1冊
659	〔日記〕	〔大串兎代 夫〕		〔大正11年〕 9月2日～〔大 正13年〕5月 22日	日記	ペン	〔ノートブッ ク〕	裏表紙はずれ	1冊
660	〔手帳〕	〔大串兎代 夫〕		〔昭和3年以 降〕	読書の記録カ	ペン、鉛筆		独語多	1冊
661	渡欧日誌	〔大串兎代 夫〕		昭和3年3月2 日～6月11日	日記	ペン	「ITOYA.」製 「NOTEBOOK」		1冊
662	〔日記〕	〔大串兎代 夫〕		昭和3年10月8 日～昭和4年9 月16日、昭和 4年9月20日～ 〔昭和5年〕9 月16日	日記	ペン			2冊 （合 綴）
663	〔日記〕	〔大串兎代 夫〕		昭和5年9月24 日～昭和7年5 月19日	日記	ペン			1冊
664	〔日記〕	〔大串兎代 夫〕		昭和8年11月 17日～昭和16 年8月21日	日記	ペン	「NOTE BOOK」	欠多し	1冊
665	〔手帳〕	〔大串兎代 夫〕		〔昭和10年 代〕	住所録ほか	ペン、鉛筆			1冊
666	日記帳	東京都千代田 区 法律新報 社内 思想教 育研究会〔大 串兎代夫〕		〔昭和20年 代〕	思想教育研究会の 図書販売記録	墨書、スタン プ、ペン、鉛 筆			1冊
667	〔日記〕	〔大串兎代 夫〕		昭和20年8月1 日	昭和20年8月1日の 日記	ペン	「東京文房堂 製」原稿用紙		1枚
668	孤独自性記			昭和21年7月7 日～昭和22年 3月9日	日記	墨書、ペン			1冊
669	行くすえ 昭和二 十二年春			昭和22年3月 10日～10月10 日	日記	ペン、墨書			1冊
670	雲影 昭和二十五 年九月三日から	〔大串兎代 夫〕		〔1950年〕9 月3日～9月19 日	日記	ペン、鉛筆、 墨書	学用ノート （「統制株式 会社」製）	表紙「高等師範部 憲法 大串」	1冊
671	〔手帳〕	〔大串兎代 夫〕		〔昭和30年 代〕	弁護士関係書類ほ か各種覚書	ペン、鉛筆	「沖電気工業 株式会社」手 帳		1冊
672	〔手帳〕	〔大串兎代 夫〕		〔昭和30年 代〕	各種覚書	ペン、鉛筆		綴はずれ、箱・ビニール袋一括	1組
673	〔手帳〕	〔大串兎代 夫〕		〔昭和30年代 後半〕	書籍名ほか各種覚 書	ペン、鉛筆	〔「BUNEIDO 」〕手帳		1冊
674	〔手帳〕	〔大串兎代 夫〕		〔昭和30年代 後半〕	各種覚書	ペン、鉛筆			1冊
675	〔手帳〕	〔大串兎代 夫〕		1964年	日記・各種覚書	ペン、鉛筆	「富士銀行」 手帳	カレンダー一頁にその日会った人物 など記した短い日記あり	1冊
676	〔手帳〕	〔大串兎代 夫〕		1965年	日記・各種覚書	ペン、鉛筆	「沖電気工業 株式会社」手 帳	カレンダー一頁にその日会った人物 など記した短い日記あり	1冊
677	〔手帳〕	〔大串兎代 夫〕		〔昭和40年〕	「神道」に関する覚 書ほか	ペン、鉛筆	「KING」 POCKET BINDER	綴はずれ	1冊
678	〔手帳〕	〔大串兎代 夫〕		1966年	日記・各種覚書	ペン、鉛筆	「日本勧業銀 行」手帳	カレンダー一頁にその日会った人物 など記した短い日記あり。独語多 い	1冊

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
679	〔手帳〕	〔大串兎代夫〕		1967年	日記	ペン、鉛筆	「東京海上火災保険株式会社」手帳	1/11・12・26 2/9・20・28 3/14に一行ほど書込みあるのみ	1冊
680	海外旅行手帳	株式会社 チャーター ド・エクスプレ ス			海外旅行の心得書	印刷			1冊
16. 覚書									
681	議事録			明治25年	小泉村村会議員選挙取消訴訟に関する議事録の筆写カ	墨書	「法学博士岡村輝彦用紙」	破損あり	1組
682	〔「家族制度ニツイテ」ほか覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和戦前期〕	「家族制度ニツイテ」ほか	ペン、鉛筆			1綴
683	正誤表	〔大串兎代夫〕		〔昭和戦前期〕	著書の正誤表カ	ペン			1綴
684	〔「権威の相対性」「国家法人説との関係」ほか覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和戦前期〕	「権威の相対性」「国家法人説との関係」ほか	鉛筆			1枚
685	〔箇条書き覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和戦前期〕	「参加会」ほか箇条書き	ペン	書綴（「国民精神文化研究所」原稿用紙）		1綴
686	〔一文字覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和戦前期〕	「靡」	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1枚
687	〔トローリーのスパークを防止する方法ほか覚書〕	〔大村安代〕		〔昭和戦前期〕	「トローリーのスパークを防止する方法 大阪製鎖造機株式会社設計課 大村安代 2601. 7. 31」ほか	鉛筆、ペン			1綴
688	非常大権関係資料	大串兎代夫 〔編〕		〔昭和10年代〕	憲法第三十一條ほか法令覚書	墨書、ペン	書冊（「松屋製」原稿用紙）		1冊
689	〔一行覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	政治と国民文化 大串兎代夫	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1枚
690	〔一行覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	「神道とハ現人神を信行〔仰〕するの道なり」	鉛筆	「教学局」原稿用紙		1枚
691	〔図表覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	威令と統治の概念図	ペン	「賢文館」用箋		1枚
692	〔一行覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	「(二) 教化隊」(説明なし)	ペン	「日本法理研究会」原稿用紙		1枚
693	〔国家論覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	「国家論」の目次カ		「国民精神文化研究所」原稿用紙		1枚
694	〔一行覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	1枚目「係ニ於テ、統帥」、2枚目以下記述なし	ペン	「支那派遣軍報道部原稿用紙」		1組
695	〔抜書覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	市村光恵「帝国憲法論」中、非常大権に関する部分の抜粋筆写	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1組
696	〔抜書覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	清水澄「帝国憲法大意」の抜粋筆写	ペン	「教育研究会原稿用紙」		1組
697	〔抜書覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	穂積八束「憲法提要(下)」ほか中、非常大権に関する部分の抜粋筆写	ペン			1枚
698	〔抜書覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	金森徳次郎「帝国憲法要論」ほか中、非常大権に関する部分の抜粋筆写	ペン			1組
699	〔抜書覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	清水澄「帝国憲法大意」ほか中、非常大権に関する部分の抜粋筆写	ペン			1組
700	〔抜書覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	穂積八束「憲法提要(下)」中、大権に関する部分の抜粋筆写	ペン	「教育研究会原稿用紙」		1組
701	〔箇条書き覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	非常大権に関する論点の箇条書き	ペン			1組
702	〔独語覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	Des Staat ist die Wirklichkeit des sittlichen Idee	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1枚
703	四、非常大権の研究の基本たるべき法学的立場	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	執筆のための覚書カ	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1枚
704	〔一行覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	五、片瀬町ノ食糧配給事情ハ決シテ良好ニアラズ。	ペン	「日本法理研究会」原稿用紙		1枚
705	〔家の国覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	「家の国」執筆のための覚書カ	ペン	「国民精神文化研究所原稿用紙」		1枚
706	〔鎌倉時代の国体思想ほか覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	「七月十二日 伏見君 鎌倉時代の国体思想」ほか	ペン、鉛筆		独語多	1綴

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
707	〔一行覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	「第百十四条 人身ノ自由ハ侵サルルコトナシ、公ノ権力ニ依リ」	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	27頁	1枚
708	〔文献覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	「道徳」関係の文献書上げ	ペン			1枚
709	日本国家観	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	執筆のための覚書カ	ペン	「東京文房堂製」原稿用紙		1組
710	〔図表覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	天皇と三権などの概念図	ペン	「昭和維新」原稿用紙		1枚
711	〔一文字覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	一字のみ	ペン	「興亜教学研究会用箋」		1枚
712	〔章立て覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	憲法第31条を主題とする論文の章立てカ	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	712～722は同折	1枚
713	〔御親政関連覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	天皇親政を主題とする論文を執筆するための覚書カ	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	712～722は同折	1枚
714	憲法第三十一条の時代的意義（三）	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	712～722は同折	1組
715	憲法第三十一条の時代的意義（四）	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	712～722は同折	1枚
716	〔憲法第31条と戒厳草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	憲法第31条と戒厳	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	4～8頁。712～722は同折	1組
717	〔戦時又ハ国家事変草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	憲法第31条の「戦時又ハ国家事変」について	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	712～722は同折	1組
718	〔法治主義の弊草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	「法治主義の弊」について	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	712～722は同折	1組
719	〔国民生活の基準としての憲法草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	国民生活の基準としての憲法について	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	712～722は同折	1枚
720	〔国家のとりべき方策草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	今日の危機に際して国家がとりべき方策について	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	712～722は同折	1枚
721	〔一行草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	「（一）第三十一条の大権には二種の異なる要件が存してゐる」	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	712～722は同折	1枚
722	勝ち抜く心	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年1月〕	執筆のための覚書カ	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	712～722は同折	1枚
723	〔各種覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	地図、「個性」「政令」などについて	鉛筆			1枚
724	〔抜書覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	松本重敏「憲法原論」ほか中、非常大権に関する部分の抜粋筆写	ペン	「教育研究会原稿用紙」		1組
725	〔一行覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	「意味の無い存在である。」	ペン	「国民精神文化研究所原稿用紙」		1枚
726	〔法律学会覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	法律学会の「二綱領」「三設立の趣旨」	ペン	原稿用紙		1組
727	〔翼賛関連覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	臣民の翼賛について	ペン			1枚
728	〔政党・結社関連覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	政党・結社について	ペン			1枚
729	〔皇室関連覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	皇室について	ペン			1枚
730	〔国家学覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	国家学について	ペン			1枚
731	〔目次覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	「町人家族」論の目次	ペン	「財団法人記念東京度量衡会館」用紙		1枚
732	〔裁判所関連覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	普通裁判所と行政裁判所について	鉛筆		独語多	1枚
733	〔経済圏関連覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	「東洋経済（文化、政治）圏」の建設について	ペン			1枚
734	菜園調べ	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	第六組に対する課題の覚書カ	ペン			1枚
735	〔独語覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	Eigenart der	ペン	「東京文房堂製」原稿用紙		1枚
736	〔抜書覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	「デュルケム 宗教生活の原初形態 古野清人訳」「勝鬘経義疏」ほかの抜粋筆写	ペン	「東京文房堂製」原稿用紙		1組
737	〔抜書覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	「日本書紀」ほかの抜粋筆写	ペン、鉛筆	「東京文房堂製」原稿用紙		1組
738	〔抜書覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	穂積八束「憲法大意」ほか中、大権に関する部分の抜粋筆写	ペン	「教育研究会原稿用紙」	738・739は同折	1組
739	〔抜書覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	穂積八束「憲法大意」ほか中、統治権に関する部分の抜粋筆写	ペン	「教育研究会原稿用紙」	738・739は同折	1組
740	〔文献覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	憲法関係の文献書上げ	ペン			1枚

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
741	〔独語覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	「Haitland Primitive Society 1921」ほか	ペン			1枚
742	原稿十二頁四行目に以下を挿入すること	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	校正のための覚書カ	ペン、鉛筆		クリップ留め	1綴
743	カール・シュミットの国家学	大串兎代夫		〔昭和10年代〕	執筆のための覚書カ	ペン	「実業之日本社出版部」原稿用紙		1組
744	〔一行覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	「国歩艱難」	ペン	「朝倉書店用紙」	切り取りあり	1枚
745	〔金額表覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	品物と金額の書上げ	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	紙背使用	1枚
746	〔語呂合わせ覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	√2などの覚え方	ペン、鉛筆		「大串蔵書」印あり	1枚
747	〔抜書覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	「上掲書」中、非常大権に関する部分の抜粋筆写	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1枚
748	〔国体学覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	「国体学」執筆のための覚書カ	ペン・鉛筆	「実業之日本社出版部」原稿用紙		1枚
749	〔校正覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	校正のための覚書カ	ペン	「朝倉書店用紙」	6頁	1枚
750	〔大学関連覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	大学における教育・研究・事務などについて	ペン	「東京文房堂製」原稿用紙		1組
751	〔自然法ほか覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	原稿執筆のための覚書カ、「一、真の自然法は「神ながら」の道」「一、法は神意実現のための規律」「結語」など	ペン	「国民精神文化研究所原稿用紙」		1組
752	〔ナチス・ドイツ関連覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	ナチス・ドイツの組織図	ペン	「国民精神文化研究所原稿用紙」		1枚
753	〔憲法・国家覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	原稿執筆のための覚書カ、「一、日本憲法の諸問題」「二、日本の国家観念」「三、個人主義的国家観の批判」	ペン、鉛筆	「国民精神文化研究所原稿用紙」		1組
754	機関説の誤謬	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	原稿執筆のための覚書カ	ペン	「松屋製」原稿用紙		1組
755	国家学講義案 於国民精神文化研究	大串兎代夫		昭和14年	表紙見返しの覚書のみ	ペン	書冊（「NOTE BOOK」）		1冊
756	〔講義覚書〕	大串兎代夫		〔昭和18～20年〕	「十月一日 於厚生科学研究所 民族と国家」「田代指導官 錬成の意義」「第二回中学教員錬成要項」「四月二十日 憲兵学校乙種講義案」	墨書、ペン、鉛筆	書冊（「学用ノート統制株式会社製」）		1冊
757	〔世界情勢覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和18年〕	バドリオ政権の発足をめぐって	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1組
758	〔世界情勢覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和18年〕	日独伊三国同盟について	ペン			1組
759	世界の曙	〔大串兎代夫〕		〔昭和19年〕	原稿執筆のための覚書カ	ペン			1組
760	〔非常大権覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年〕	非常大権の発動について	ペン	「朝倉書店用紙」		1組
761	〔親政府覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年〕	「親政府」と国家・社会などの関	ペン			1枚
762	皇国護持（梗概）	大串兎代夫		〔昭和20年3月〕	執筆のための覚書カ	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1組（2枚）
763	〔各種覚書〕			〔昭和戦後期〕	ドイツで書いた原稿手紙の一部、名刺覚え書、かきつけなど	鉛筆		「モンブラン」表彰状の紙背使用。763～766は一括	1枚
764	〔各種覚書〕			〔昭和戦後期〕	ドイツで書いた原稿、もらった手紙の一部、覚え書その他「はじめお離れにあつてあと二階六じょうにおいてあつたもの」	鉛筆		「モンブラン」表彰状の紙背使用。763～766は一括	1枚
765	表彰状	株式会社モンブラン 社長 迫田千万億	殿	昭和□年□月□日		印刷		763～766は一括	1枚
766	表彰状	株式会社モンブラン 社長 迫田千万億	西村佐智子	昭和42年2月8日		印刷、墨書		763～766は一括	1枚
767	〔新日本研究覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年代〕	新日本維新叢書、新日本生活科学研究会の開催について	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1組

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
768	〔政治科学研究公社覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年代〕	「政治科学研究公社」の役員、総裁佐々木行忠、理事大串兎代夫ほか	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1枚
769	〔会社関連覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年代〕	会社・社員の状況	ペン	「日本赤十字社」原稿用紙		1組
770	家族目録	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年代〕	「単元一、友だち」など、講義のための覚書カ	ペン			1組
771	雑誌「政治科学」ノ発行（「将来ノ日本」）	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年代〕	覚書、「政治科学研究公社ノ設立」「研究公社ノメン	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1枚
772	新誌「生活科学」ノ発行	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年代〕	覚書、「生活科学研究公社ノ設立」「生活科学研究公社ノメンバー」	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1枚
773	新日本生活科学叢書出版計画	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年（戦後期）〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1組
774	〔憲法改正覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和20～21年〕	憲法改正案の章立てカ	ペン	「日本法理研究会用紙」		1枚
775	〔覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和20～21年〕	「弁護士会案」「鈴木案」などの憲法草案について	ペン	「教育研究会原稿用紙」		1組
776	〔図表覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和20～21年〕	天皇・政府・議会・国民などの関係図	ペン	「昭和維新原稿用紙」		1枚
777	〔憲法改正覚書〕			〔昭和21年11月以降〕	帝国憲法の改正手続きについて	印刷			1枚
778	改正憲法の特質	国務大臣 金森徳次郎		〔昭和21～22年〕		ペン	「国民精神文化研究所原稿用紙」	筆写	1枚
779	〔憲法草案覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和21年〕	自由党・進歩党憲法草案の要点	ペン	「教育研究会」原稿用紙		1枚
780	自作農創設特別措置法第三条第一項	〔大串兎代夫〕		〔昭和23年〕	農地委員会の動向	ペン	「法律新報社」罫紙		1枚
781	〔権威についての覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔1950年代〕	権威について	ペン		英文	1組
782	再軍備と憲法	〔大串兎代夫〕		〔昭和29～38年〕	原稿執筆のための覚書カ	ペン	「名城大学」罫紙	破損あり	1組
783	〔文献ほか覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和30年代〕	独語文献など	鉛筆、ペン			1冊
784	〔外国語文献覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和30～40年代〕		鉛筆、ペン		表紙に「2nd」と書込み。独語	1冊
785	Weitere verständliche Literatur	〔大串兎代夫〕		〔1960年代〕	原子爆弾関連文献	タイプ、鉛筆、ペン			1組
786	〔核兵器についての覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔1960年代〕	核兵器について	鉛筆		独語	1枚
787	〔章立てほか覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔1960年代〕	論文の章立てカ、ほか	鉛筆		独語	1組
788	文献覚え書き	〔大串兎代夫〕		〔昭和30年〕		ペン	「NOTE BOOK」	日記（昭和30年5月22日～昭和30年5月25日）あり	1冊
789	〔請願・告訴関連覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和31年〕	請願と告訴に関する覚書	ペン			1枚
790	〔講義覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和35年〕	講義・研究会の覚書カ	ペン、鉛筆	「KING CLIP NOTE BOOK」		1冊
791	勉強扣 その一	〔大串兎代夫〕		昭和39年1月	憲法関連ほか各種覚書	ペン、鉛筆	「スパルタ」製「NOTE BOOK」		1冊
792	勉強扣 その二	〔大串兎代夫〕		昭和39年2月10日	帝国憲法・教育勅語関連ほか各種覚書	ペン	「Superior Note Book」		1冊
793	勉強扣 その三	藤沢市 大串兎代夫		昭和39年春3月28日から	文献抜書ほか各種覚書	ペン、鉛筆	「NOTE BOOK」		1冊
794	勉強扣 その四	〔大串兎代夫〕		昭和39年5月28日	文献抜書ほか各種覚書	ペン、鉛筆	「NOTE BOOK」		1冊
795	勉強扣 五	〔大串兎代夫〕		昭和39年8月21日	文献要約・抜書ほか各種覚書	ペン、鉛筆	「NOTE BOOK」		1冊
796	勉強扣 その六	〔大串兎代夫〕		昭和40年4月	「日本国憲法制定経過」ほか各種覚書	ペン、鉛筆	「SUPERIOR NOTE BOOK」		1冊
797	〔国土計画・開発関係覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和40年代〕	国土計画・開発関係	ペン、鉛筆	「PILOT」製「NOTE BOOK」		1冊
798	〔連絡先覚書〕			〔昭和40年代〕	「仁成社」「鎌倉霊園」の連絡先など	ペン、鉛筆			1枚
799	〔外国語文献覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔1966年〕	独語文献覚書	鉛筆、ペン			1冊
800	〔外国語文献覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔1966年〕	独語文献覚書	鉛筆、ペン		「in Freiburg」とあり	1冊
801	〔外国語文献覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔1966年〕	独語文献覚書	鉛筆、ペン		「in Freiburg」とあり	1冊
802	〔外国語文献覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔1966年〕	独語文献覚書	鉛筆、ペン		「in Freiburg」とあり	1冊
803	〔外国語文献覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔1966年〕	独語文献覚書	鉛筆、ペン	「wind rose」ノートブック		1冊

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
804	ドイツ語	〔大串兎代夫〕		昭和41年5月4日		鉛筆、ペン		「Freiburg」とあり	1冊
805	〔住所覚書〕			〔昭和46年9月28日〕	吉村の住所	鉛筆		70・392～395・805・819・1907・1948は封筒（表「名古屋市昭和区名城大学内 大串兎代夫先生」・裏「京都市右京区 小森義峯」）一括	1枚
806	〔外国語・外国語文献覚書〕				外国語・外国語文献	ペン			1冊
807	〔覚書〕				外国語	鉛筆、ペン			1冊
808	〔覚書〕	〔大串兎代夫〕			「真壁昭」の名前と住所	鉛筆		「国民精神文化研究所」原稿用紙	1枚
809	〔覚書〕	〔大串兎代夫〕			電報文案（「オオグシ アスゴ ゴツク」）	ペン		「松屋製」原稿用紙	1枚
810	〔覚書〕				「一〇行ツメル事」「四五三行」	ペン			1枚
811	〔覚書〕	〔大串兎代夫〕			積荷保険・海上保険について	ペン		4・6頁	1組
812	〔覚書〕	〔大串兎代夫〕			数学の問題	鉛筆			1枚
813	〔覚書〕	〔大串兎代夫〕			計算	ペン		紙背使用	1枚
814	〔覚書〕	〔大串兎代夫〕			「ウ」「ノ裁判」、計算など	ペン		原稿用紙・「東京文房堂製」原稿用紙	1組
815	〔独語ほか覚書〕	〔大串兎代夫〕			独語ほか	鉛筆、ペン			1冊
816	〔人名ほか覚書〕	〔大串兎代夫〕			「Hiroshi Ozaki」ほか	鉛筆		「読売新聞社」原稿用紙	1枚
817	〔独語覚書〕	〔大串兎代夫〕				鉛筆			1枚
818	〔連絡先ほか覚書〕	〔大串兎代夫〕			人名、住所、電話番号など	ペン、鉛筆			1組
819	〔独語覚書〕	〔大串兎代夫〕			独語の人名・住所・単語	鉛筆、ペン		70・392～395・805・819・1907・1948は封筒（表「名古屋市昭和区名城大学内 大串兎代夫先生」・裏「京都市右京区 小森義峯」）一括	1枚
820	ドイツ語	〔大串兎代夫〕			アルファベット・単語・基本会話文	ペン			1冊
821	〔覚書〕	〔大串兎代夫〕			「正当性」「人格に対する自己支配」など	ペン			1枚
822	〔江戸幕府組織図〕					ペン		822～831は一括	1枚
823	〔宮内省組織図〕					ペン、鉛筆		822～831は一括	1枚
824	〔室町幕府組織図〕					ペン		822～831は一括	1枚
825	〔江戸幕府組織図〕					ペン		822～831は一括	1枚
826	〔司法省組織図〕					ペン		822～831は一括	1枚
827	〔太政官組織図〕					ペン、鉛筆		822～831は一括	1枚
828	〔鎌倉幕府組織図〕					ペン		822～831は一括	1枚
829	〔江戸幕府組織図〕					ペン		822～831は一括	1枚
830	〔太政官組織図〕					ペン		822～831は一括	1枚
831	〔「対象」「構象」系統図〕					ペン		822～831は一括	1枚
832	内閣の二				組織図	ペン		832～844は一括	1枚
833	〔宮内省組織図〕					ペン		832～844は一括	1枚
834	内務省ノ三 委員会、調査会				組織図	ペン		832～844は一括	1枚
835	〔宮内省組織図〕					ペン		832～844は一括	1枚
836	内務省				組織図	ペン		832～844は一括	1枚
837	内務省ノ二				組織図	ペン		832～844は一括	1枚
838	外務省				組織図	ペン		832～844は一括	1枚
839	外務省の二				組織図	ペン		832～844は一括	1枚
840	〔枢密院組織図〕					ペン		832～844は一括	1枚
841	内閣の三				組織図	ペン		832～844は一括	1枚
842	内閣の四				組織図	ペン		832～844は一括	1枚
843	内閣その一				組織図	ペン		832～844は一括	1枚
844	内閣の四				組織図	ペン		832～844は一括	1枚
845	〔「基本人権」ほか覚書〕	〔大串兎代夫〕			「基本人権」ほか	ペン		原稿用紙の紙背使用	1組
846	〔抜書覚書〕	〔大串兎代夫〕			英語文献の抜粋筆写カ	ペン		破損あり	1枚
847	〔独語覚書〕	〔大串兎代夫〕				タイプ、ペン、鉛筆		独語多。日本語書きつけ	1枚
848	小野祖教メモ				神道に関する諸学者への疑問	鉛筆、ペン		ステープラー留め。848・1841～1847は封筒（裏「東京都港区 中外調査会」）一括	1綴
849	〔訴訟委任状関連覚書〕				「訴訟委任状」ほか	ペン		「国学院大学」用箋 423～426・849・1327・1478・1609～1611・1633・1699・1700・1807・1808・1966・1967は封筒（表「藤沢市 大串兎代夫様」「東京都新宿区 躍進社」）一括	1枚
850	〔日本神話覚書〕	〔大串兎代夫〕			日本神話の神について	鉛筆	「大串用箋」	353・374頁	1組

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
851	〔計算覚書〕	〔大串兎代夫〕		昭和□年□月□日	畑に関する計算	ペン	「法律新報社」罫紙		1枚
17. 原稿・草稿									
852	一般学生・生徒の見た現代の教育 学生・生徒の見たる現代の家庭教育・家庭生活 左傾学生・生徒・知識階級 の思想内容			〔昭和6～9年〕		ペン		破損あり	1綴
853	〔憲法改正についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10～20年代〕	憲法の改正について	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1組
854	民主主義的「平等」について	大串兎代夫		〔昭和10～20年代〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	表題のみ。854～858は一括	1枚
855	民主主義の条理	〔大串兎代夫〕		〔昭和10～20年代〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	覚書のみ。854～858は一括	1枚
856	国家観の現勢	〔大串兎代夫〕		〔昭和10～20年代〕				書出しのみ。854～858は一括	
857	法の世界性	大串兎代夫		〔昭和10～20年代〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	表題のみ。854～858は一括	1枚
858	動的國家観	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	854～858は一括	1組
859	〔家の問題についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10～20年代〕	家の問題の解決について	ペン			1組
860	〔民衆心理についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10～20年代〕	民衆の心理について	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	7・8頁	1組
861	憲法第三十一条の時代的意義（三）	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1組
862	世界國家の理念	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1組
863	〔政治の原理的究明についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	「政治は具体的な決定である」という見方について	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1組
864	〔國家學関連草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	國家學關係	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	83～97頁	1組
865	非常大權の本義	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕		ペン	「賢文館」用箋		1組
866	〔草稿断片〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	「戰時的態勢」について	ペン			1枚
867	〔「人材」についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	「人材」について	ペン	「松屋製」原稿用紙		1枚
868	〔非常大權関連草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	非常大權の発動による資材の國家確保	ペン	「賢文館」用箋	7頁	1枚
869	〔非常大權関連草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	「地方協議會長」「國民義勇隊」について	ペン	「賢文館」用箋		1組
870	〔草稿断片〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	「總理大臣ノ行政的無力、各省ノ対立ノ弊ヲ清掃スルモノナリ」	ペン			1枚
871	〔草稿断片〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	「行シ、常ニ機ニ応ジテ」	ペン			1枚
872	〔草稿断片〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	「この方向が全然誤つたものであつたとは思はないのである」	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1枚
873	非常大權と戒嚴	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1枚
874	動的國家観	大串兎代夫		〔昭和10年代〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1組
875	経慶院義疏			〔昭和10年代〕		ペン	「東京文房堂製」原稿用紙		1組
876	〔統帥權関連草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	統帥權の獨立について	ペン	「朝倉書店」用紙	3・4頁	1組
877	〔憲法関連草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	憲法の欽定について	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	12頁	1枚
878	〔憲法関連草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	國家の統一法としての憲法について	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1枚
879	〔草稿断片〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	「事柄の性質は百尺竿頭に歩を進めることをしきりに要求してゐるのである」	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1枚
880	〔草稿断片〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	國家は多數の人間から成る団体である	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1枚
881	〔國體神道関連草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	國體神道の思想的特徴	ペン		21頁、破損あり	1枚
882	〔日本書紀関連草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	「日本書紀に於ける共計」について	墨書	「国学院大学論文用紙」		1枚

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
883	〔エルンスト・アベ（ツァイス工場）関連草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	「一、革命によらない社会進歩」 「二、社会正義」	ペン	「図書出版白鷗社」原稿用紙	小説カ、1～54・58～64・66～73・79・80頁	1組
884	〔社会思想関連草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	社会思想について	ペン	「北鷗社」原稿用紙	10・17頁	1組
885	II 社会史 1. ヨーロッパ社会史の構造	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕		ペン		22～24・28頁	1組
886	生命と法	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	書き出しのみ	1組
887	〔議会制度関連草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	「二、議会制度の原則」	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	70～75・81・82・98～102・104～110頁	1組
888	第三章 マルキシズム思想に於ける独裁	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	111～112・114・117～120・122・124・125・128～135・139頁	1組
889	〔世界秩序についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	世界秩序について	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1組
890	〔日本の国土と人民についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	日本の国土と人民について	ペン	書綴（「横浜市教育研究会撰定」原稿用紙）	紙背に大串兎代夫氏の習字の練習跡あり	1綴
891	〔法律関係草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	法の遵守と国家戦力の増強の背反について	ペン			1枚
892	一、憲法第三十一条の大意	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1組
893	〔「国家事変」についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	「国家事変」について	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	5・6頁	1組
894	〔国家緊急権についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	国家緊急権について	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	28頁	1枚
895	〔非常大権関連草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	一、非常大権の問題 二、大権制限説の根拠とする所 三、大権積極説の内容 四、非常大権究明について基礎たるべき憲法学の立場 五、憲法義解による非常大権の大意 六、憲法義解の思想的立場 七、シュタインの日本観 九、〔ママ〕、憲法義解の「大権」観 十、「大権」と「特権」	ペン	書綴（「国民精神文化研究所」原稿用紙）	1～136頁	1綴
896	二、非常大権の思想的根拠と「大権」の意義	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	表題のみ、895と関連カ	1枚
897	四、非常大権研究の概観	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	895と関連カ、23～26・28頁	1組
898	五、学説争点の具体的整理	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	895と関連カ、39～44頁	1組
899	〔憲法関連草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	「十一、憲法義解の理論的価値」 「十二、憲法学説の「大権」観」 「十二〔ママ〕、憲法学説と憲法義解」	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	895と関連カ、137～176頁	1組
900	十、憲法学説と「大権」の説明	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	895と関連カ、152～157頁	1組
901	十、非常大権規定の起草事情	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	895と関連カ、152～161頁	1組
902	〔非常大権関連草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	従来の非常大権解釈とその問題点について	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	895と関連カ、2～4頁	1組
903	〔非常大権関連草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	日本法の精神、憲法学の使命について	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	895と関連カ、32・38頁	1組
904	〔非常大権関連草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	ドイツ国権思想、大権の制限について	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	895と関連カ、68～71頁	1組
905	〔章立て覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	「一〇、非常大権の制定事情」以降の章立て	ペン		895と関連カ	1枚
906	〔草稿断片〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	天皇大権の真義について	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1枚
907	註二、「国体の本義」	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	3～10頁	1組
908	〔草稿断片〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	国家生命体説について	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	152頁	1枚

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
909	〔草稿断片〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	「の状況からも気楽であると思ひます。勿論御病」	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1枚
910	〔ナチス・ドイツ関連草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	ドイツ民族の性質について	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	17頁	1枚
911	〔国家生活と社会生活についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	国家生活と社会生活について	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	26・27頁	1組
912	〔草稿断片〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	積極消極の両説について	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	27頁	1組
913	〔憲法関連草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	「憲法義解に認められるドイツ国権思想の残滓」について	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	44頁	1枚
914	その六 憲法義解の立場とドイツ国法学の異同	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	67頁	1枚
915	〔憲法関連草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	国務大臣の輔弼責任について	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1組
916	〔社会思想関連草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	東洋人の心の根について	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1枚
917	〔社会思想関連草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	「四、社会」「五、人の問題」	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙「世界修理固成会原稿用紙」	26～40・42・44頁	1組
918	〔皇祖皇宗の肇国の大業についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	皇祖皇宗の肇国の大業について	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1組
919	五、イデオロギー主義の清算	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	26～28頁	1組
920	〔人種の平等についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	人種の平等について	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1枚
921	〔草稿断片〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	非常大権に関する学説の貧困について	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1枚
922	〔草稿断片〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	「るやうになつて来てゐるのである。何人も今日の状勢が」	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1枚
923	〔憲法関連草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	「政府」の意義について	ペン	「法律新報」原稿用紙		1組
924	二、非常大権の問題	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	1・2頁。153・924～928は同折	1組
925	〔憲法関連草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	帝国議会と憲法改正について	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	153・924～928は同折	1枚
926	〔草稿断片〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	「にわたるものであることがわかる。」	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	25頁。153・924～928は同折	1枚
927	三、非常大権に関する学説	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	26～28・29・33頁、28頁は29頁以下に続くものと、頁番号不明の用紙1頁に続くものの2つあり。29頁と33頁の間に頁番号不明の用紙1頁が入る。153・924～928は同折	1組
928	〔草稿断片〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	天皇における立法権・行政権・統帥権の掌握と行使について	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	153・924～928は同折	1枚
929	我が憲法に於ける「大権」の概念	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	929～935は同折	1枚
930	〔「国の総力の統一的發揮」についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	「国の総力の統一的發揮」について	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	9頁。929～935は同折	1枚
931	非常大権と各国の非常権	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	929～935は同折	1枚
932	国民義勇兵役令(案)	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	929～935は同折	1組
933	〔憲法関連草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	憲法と法律について	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	9～10頁。929～935は同折	1組
934	〔法律関連草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	「戦時的国民力の發揮」について	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	929～935は同折	1枚
935	〔非常大権草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	非常大権起草の事情	ペン	「朝倉書店用紙」「国民精神文化研究所」原稿用紙	16・21・22頁。929～935は同折	1組
936	第一篇 国体法 第一節 權威 第一章 日本人	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1組
937	新東亜の政治理想	大串兎代夫		〔昭和10年代〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1組

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
938	強権政治の要望	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕		ペン	「実業之日本社出版部」原稿用紙	表題と氏名のみ	1枚
939	国体の本義と国運の隆昌	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕		ペン	「国民精神文化研究所原稿用紙」	1頁	1枚
940	〔国体論草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	真の国体論について	ペン	「国民精神文化研究所原稿用紙」		1枚
941	〔草稿断片〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	「教育勅語の尊厳」について	ペン	「国民精神文化研究所原稿用紙」	8頁	1枚
942	〔思想関連草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	ユダヤ人のエホバ信仰について	ペン	「国学院大学論文用紙（服部書店特製）」		1枚
943	〔草稿断片〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	法における道の表現	ペン	「国民精神文化研究所原稿用紙」	18頁	1枚
944	〔草稿断片〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	憲法施行の責任について	ペン	「国民精神文化研究所原稿用紙」		1枚
945	〔憲法関連草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	欽定憲法としてのわが国の憲法について	ペン	「国民精神文化研究所原稿用紙」	5頁	1枚
946	〔生命体としての工場についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	生命体としての工場について	ペン	「国民精神文化研究所原稿用紙」	4・5・7頁	1組
947	〔閣取引に対する批判の草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	閣取引に対する批判	ペン	「松屋製」原稿用紙	4・5・11頁	1組
948	〔草稿断片〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	「国家」の語を使わなかった理由について	ペン	「国民精神文化研究所原稿用紙」		1枚
949	〔憲法関連草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	国権の観念について	ペン	「国民精神文化研究所原稿用紙」	70・71頁	1組
950	〔非常大権関連草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	「天皇御親政、非常大権の発動」について	ペン	「国民精神文化研究所原稿用紙」	45～52頁	1組
951	〔非常大権関連草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	非常大権の根本の趣旨について	ペン	「松屋製」原稿用紙	2頁	1枚
952	〔日本国民の生活態度についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	日本国民の生活態度について	ペン	「国民精神文化研究所原稿用紙」	12頁	1枚
953	国憲講話 大日本雄弁会講談社出版局学術課秘蔵	大串兎代夫先生述		〔昭和10年代〕		ペン	書綴（「大日本雄弁会講談社原稿用紙」）	綴はずれ、1/5～5/5までの5分割で封筒に封入	1組
954	日本儒教の精神	小糸夏次郎		〔昭和10年代〕		ペン	書綴（国際文化振興会原稿用紙）		1綴
955	日本世界観	大串兎代夫		〔昭和10年代〕		ペン	「国民精神文化研究所原稿用紙」		1組
956	第二編 世界観 民族の世界性	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕		ペン、鉛筆	「鉄錐」原稿用紙		1組
957	肇国の意義	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕		ペン	「国民精神文化研究所原稿用紙」		1枚
958	〔戦力増強の根基についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	戦力増強の根基について	ペン	「国民精神文化研究所原稿用紙」		1枚
959	〔「ロバート・オーエン」草稿〕	〔山口巖〕		〔昭和10年代〕	「ロバート・オーエン」草稿カ	ペン		5・5・6頁	1組
960	ロバート・オーエン	山口巖		〔昭和10年代〕		ペン			1組
961	ロバート、オーエン（三） 産業革命（三）	〔山口巖〕		〔昭和10年代〕		ペン		1頁	1枚
962	ロバート、オーエン（四六）	〔山口巖〕		〔昭和10年代〕		ペン		1～5頁	1組
963	ロバート・オーエン（四八） 新社会（三）	〔山口巖〕		〔昭和10年代〕		ペン			1組
964	ロバート・オーエン（四九） 新社会（四）	〔山口巖〕		〔昭和10年代〕		ペン		1・2・6頁、破損あり	1組
965	ロバート、オーエン（五〇） 新社会（五）	〔山口巖〕		〔昭和10年代〕		ペン		1～6頁	1組
966	ロバート・オーエン（八三） 幸福（二）	〔山口巖〕		〔昭和10年代〕		ペン		書き出しのみ	1枚
967	ロバート・オーエン（八四） 幸福（三）	〔山口巖〕		〔昭和10年代〕		ペン		1頁のみ、破損あり	1枚
968	ロバート、オーエン（八五）	〔山口巖〕		〔昭和10年代〕		ペン		1・6・83・174・175頁	1組
969	ロバート・オーエン	〔山口巖〕		〔昭和10年代〕	（八四）（八五）の一部	ペン			1組
970	ロバート、オーエン	〔山口巖〕		〔昭和10年代〕	（八九）（九一）の一部	ペン			1組
971	〔「クニ」の語についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	「クニ」の語について	ペン	「朝倉書店用紙」	2～16頁	1組
972	〔思想関連草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	思想について	ペン	「北鷗社」原稿用紙		1組

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
973	〔随筆草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	アンデルセンらゆかりの家を訪ねた思い出	ペン	「図書出版北嶋社」原稿用紙	81頁	1枚
974	法の戦力	大串兎代夫		〔昭和10年代〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	1・2頁	1組
975	我が国体と法治主義の弊	大串兎代夫		〔昭和10年代〕	「一、はしがき」	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	975～979は同折	1組
976	国体と非常事態と法	大串兎代夫		〔昭和19～20年〕	尾高朝雄「国家緊急権の問題」に対する反論、「一、はしがき」	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	975～979は同折	1枚
977	国体と法と緊急事態と	大串兎代夫		〔昭和10年代〕	「はしがき」	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	975～979は同折	1組
978	国体と危機と法	大串兎代夫		〔昭和10年代〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	975～979は同折	1組
979	〔「国家事変」の意味についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	「国家事変」の意味について	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	7頁。975～979は同折	1枚
980	〔草稿断片〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	「法治国の体制は、文明国の必ず有すべき」	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1枚
981	〔日本とヨーロッパの国境観念についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	日本とヨーロッパの国境観念について	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1枚
982	〔「自由的思想の精神的核」についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	「自由的思想の精神的核」について	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	77頁	1枚
983	〔機械と人間についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	機械と人間について	ペン		3～6頁、小説カ	1組
984	〔反国体と共産主義に対する処置についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	反国体と共産主義に対する処置について	ペン	「国民精神文化研究所原稿用紙」	29・30頁	1組
985	〔国運隆盛についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	「国運隆昌の時」に際して	ペン	「国民精神文化研究所原稿用紙」		1枚
986	契約法と身位法			〔昭和10年代〕		ペン	「国民精神文化研究所原稿用紙」		1組
987	〔戦時生活と法についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	戦時生活と法について	ペン	「国民精神文化研究所原稿用紙」	3・4頁	1組
988	〔思想関連草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	国体神道について	ペン		17～20頁	1組
989	〔領土保全・門戸開放・機会均等の三原則についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	領土保全・門戸開放・機会均等の三原則について	ペン	「国民精神文化研究所原稿用紙」		1組
990	〔内鮮両民族の同化融合についての原稿〕			〔昭和10年代〕	内鮮両民族の同化融合について	ペン	書綴（「東京文房堂製」原稿用紙）	金具留め。表紙に大串兎代夫氏の習字練習跡あり	1綴
991	〔国家的生産と工場についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕		ペン	「国民精神文化研究所原稿用紙」	3・8～16頁	1組
992	〔生産の増強と国民の法生活についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	生産の増強と国民の法生活について	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1枚
993	〔憲法関連草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	「二、憲法認識の重要性」「三、憲法を重んずるとは何を意味するか」	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	6・7～9頁	1組
994	〔「我が国に於ける法治主義の問題」についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	「我が国に於ける法治主義の問題」について	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1枚
995	〔議会関連原稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	「序言」「一、民主主義と議会主義」「二、議会主義の原則」「三、マルクシズム的思想に於ける独裁」「四、議会主義の敵としての直接的権力使用に関する反理智主義的理論」	ペン	書綴（「国民精神文化研究所」原稿用紙）	「内容通覧」あり	1綴
996	日本憲法論 歴史篇	大串兎代夫		〔昭和10年代〕		ペン	書綴（「大日本雄弁会講談社原稿用紙」）	綴はずれ	1綴
997	〔今次大戦の歴史的諸条件についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	3頁	1枚
998	政治と国民文化	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	表題のみ	1枚
999	〔草稿断片〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	「民心ノ機微ヲ察シテ之ヲ為スベキコト言フヲ俟タズ。」	ペン	「賢文館用箋」		1枚
1000	〔戦争の現実に対する国民の知識についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	戦争の現実に対する国民の知識	ペン	「国民精神文化研究所原稿用紙」		1枚

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
1001	〔思想関連草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	個人主義について	ペン	「国民精神文化研究所原稿用紙」	7頁	1組
1002	〔非常大権関連草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	「御親政の本義」について	ペン	「法律新報」原稿用紙	2～5・8～10頁	1組
1003	〔憲法関連草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	統治権と各大権について	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	153～155頁	1組
1004	〔家族国家についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	家族国家について	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	33～41頁	1組
1005	改訂の序	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	『国家権威の研究』カ	1枚
1006	〔国家の承認についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	国家の承認について	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	105・106頁	1組
1007	〔抜書草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	穂積八束「憲法提要」中、民族に関する部分の抜粋	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	41・43頁	1組
1008	新東亜の政治理想	大串兎代夫		〔昭和10年代〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1組
1009	〔軍需品及び主要食糧の生産についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕		ペン	「東京教育研究会」原稿用紙		1枚
1010	〔抜書草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	「新真公法論」の抜粋、グロチウス以来の西洋の国際法	ペン	「国民精神文化研究所原稿用紙」		1枚
1011	〔経済の問題の解決についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕		ペン	「国民精神文化研究所原稿用紙」		1枚
1012	個人法のドグマ	大串兎代夫		〔昭和10年代〕		ペン	「国民精神文化研究所原稿用紙」	表題のみ	1枚
1013	〔国際法と国家主権についての原稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕		ペン	「国民精神文化研究所原稿用紙」	101～206頁	1組
1014	〔肇国の精神についての原稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕		ペン	「国民精神文化研究所原稿用紙」		1組
1015	非常大権の大要	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕		ペン	「国民精神文化研究所原稿用紙」		1枚
1016	〔非常大権と法律についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕		ペン	「国民精神文化研究所原稿用紙」		1枚
1017	〔政治の手段化についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕		ペン	「国民精神文化研究所原稿用紙」		1枚
1018	〔草稿断片〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	「問題は結局「[ママ]人の問」	ペン	「松屋製」原稿用紙		1枚
1019	〔国民運動についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕		ペン	「松屋製」原稿用紙	16頁	1枚
1020	〔「統一的世界性」についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕		ペン	「国民精神文化研究所原稿用紙」		1枚
1021	〔草稿断片〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	九国条約に違反せずとの、消極的弁解のみ止るものであつてはならないのである。	ペン	「国民精神文化研究所原稿用紙」		1枚
1022	〔歴史的文化的存在としての国家についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕		ペン	「国民精神文化研究所原稿用紙」		1枚
1023	非常大権関係資料	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	憲法第31条と「本章二掲ケタル条規」の筆写	ペン		1023～1027は同折	1枚
1024	〔非常大権と憲法第2章以外の規定の関係についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕		ペン	「朝倉書店用紙」	5頁。1023～1027は同折	1枚
1025	〔「意見書」に関する説明の草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和19～20年代〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	9・11・20～23頁。1023～1027は同折	1組
1026	非常大権に関する資料的結論	〔清水伸〕		〔昭和10年代〕	清水伸「憲法第三十一条の非常大権について(中)」の99・100頁	印刷		57参照。1023～1027は同折	1枚
1027	〔「国民精神文化研究所」原稿用紙〕	国民精神文化研究所		〔昭和10年代〕		印刷		1023～1027は同折	1枚
1028	〔日本憲法とプロシア憲法についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1組
1029	〔「支那の国家主権」についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1枚
1030	〔抜書草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	ハインリヒ・トリーペル『ヘゲモニー』中、「満州国に対する日本の地位」に関する記述の紹介	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1枚

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
1031	〔英米と国際法理念ほか草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	「英米と国際法理念」「我が学界の態度」「独逸国際法学者の見解」「新事態と国際法理念」	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1組
1032	〔人間と他の生物・無生物の関係についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1組
1033	〔国家有機体説における生命の考え方についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1組
1034	〔戒厳の要件としての「国家事変」についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1組
1035	〔第一次大戦後の世界観の相違についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1組
1036	我が国体と自然法	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕		ペン	「松屋製」原稿用紙		1組
1037	〔第一次大戦後の政治理念の対立についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1枚
1038	〔家族制度についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1組
1039	国権思想の歴史的基礎	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	1039～1041は同折	1枚
1040	プロシアと日本の共通点	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	1039～1041は同折	1枚
1041	〔草稿断片〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕	「大権」は権力の分立を意味しない	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	1039～1041は同折	1枚
1042	イギリス、フランス、ドイツの勝因	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年〕	第一次大戦に関する議論	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1枚
1043	日本国家学	〔大串兎代夫〕		〔昭和11年〕	校正刷・原稿	印刷、ペン、鉛筆、スタンプ		ステープラー留め	1綴
1044	〔議会政治と国家総動員法についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和13～20年〕		ペン	「国民精神文化研究所原稿用紙」	10頁	1枚
1045	総動員法ハ法治主義ノ範疇	〔大串兎代夫〕		〔昭和13～20年〕	国家総動員法の問題点の箇条書き	ペン	「朝倉書店用紙」		1枚
1046	文芸復興以降に於ける重要思想家表（全体主義と教育附表）			〔昭和13年〕		ペン			1枚
1047	〔帝国憲法と臣民の翼賛〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和13年〕		ペン	「国民精神文化研究所原稿用紙」		1組
1048	新東亜の政治理念	大串兎代夫		〔昭和13年〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1枚
1049	ナチス党の組織的構成	〔ドイツ〕国内務省参事官・党中央局長・国会議員 ハンス・フアブリチウス 国民精神文化研究所々員 大串兎代夫訳		〔昭和14～15年〕		ペン、鉛筆、スタンプ	書綴（「国民精神文化研究所」原稿用紙）	綴はずれ	1綴
1050	国体と経済	〔大串兎代夫〕		〔昭和15～20年〕		ペン	「東京教育研究会」原稿用紙・「国民精神文化研究所原稿用紙」		1組
1051	〔草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和15年10月〕	紀元二千六百年の式典について	ペン	「国民精神文化研究所原稿用紙」		1組
1052	法と国家倫理	大串兎代夫		昭和15年12月		ペン、鉛筆	書綴（「帝人タイムス」原稿用紙）	ピン留め	1綴
1053	葦	夏木幹		〔昭和16年以降〕	小説カ	ペン	「佐川用箋」	破損あり。「佐川用箋」を冊子体にまとめたもの	1冊
1054	〔大政翼賛会の再改組についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和16～20年〕		ペン	「国民精神文化研究所原稿用紙」		1枚
1055	はしがき	〔大串兎代夫〕		〔昭和16年〕	『現代国家学説』「はしがき」原稿	ペン、鉛筆	書綴（「国民精神文化研究所」原稿用紙）	クリップ留め	1綴
1056	〔『国家権威の研究』原稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和16年〕	『国家権威の研究』原稿カ	ペン、鉛筆	書綴（「国民精神文化研究所」原稿用紙）		1組
1057	日本精神の世界性	〔大串兎代夫〕		〔昭和16年〕		ペン	「国民精神文化研究所原稿用紙」	1・2・7頁	1組
1058	〔『臣民の道』についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和16年〕		ペン	「国民精神文化研究所原稿用紙」	3～5頁	1組

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
1059	〔「大東亜に於ける法秩序」についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和17～20年〕		ペン	「東京教育研究会」原稿用紙	2～7・9～11頁	1組
1060	大東亜法政策(二)	〔大串兎代夫〕		〔昭和17～20年〕		ペン	「教学局」原稿用紙・「国民精神文化研究所原稿用紙」	1～6・12～15頁	1組
1061	〔イタリアの分裂をめぐっての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和18年〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	21頁	1枚
1062	〔イタリアの休戦申し出についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和18年〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	5～6頁	1組(3枚)
1063	「血と鉄」と戦力増強	〔大串兎代夫〕		〔昭和18年〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	18頁	1枚
1064	〔日独両国の関係についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和18年〕		ペン	「国民精神文化研究所原稿用紙」	3頁	1枚
1065	憲法(其一)	〔大串兎代夫〕		昭和18年2月11日		鉛筆		原稿用紙を冊子体にまとめたもの	1冊
1066	憲法(二)	〔大串兎代夫〕		昭和18年2月21日		鉛筆		原稿用紙を冊子体にまとめたもの	1冊
1067	憲法(其三)	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕		鉛筆		原稿用紙を冊子体にまとめたもの	1冊
1068	憲法 其四	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕		鉛筆		原稿用紙を冊子体にまとめたもの	1冊
1069	憲法 其五	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕		鉛筆		原稿用紙を冊子体にまとめたもの	1冊
1070	憲法(六)	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕		鉛筆		原稿用紙を冊子体にまとめたもの	1冊
1071	祭祀要解	〔葦津珍彦〕	〔大串兎代夫〕	〔昭和18年9月20日〕		ペン		ステープラー留め、封筒(表「渋谷区常盤松 国学院大学 大串兎代夫様」、裏「東京市麹町区永田町 葦津珍彦」)あり、「評稿用紙」同封	1冊
1072	憲法第三十一条の法理一尾高教授の批判に答ふ一	大串兎代夫		〔昭和19～20年〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1組
1073	憲法第三十一条の問題一尾高教授の所論に答ふ一	大串兎代夫		〔昭和19～20年〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	1頁、1073～1087は同折	1枚
1074	憲法第三十一条の本質一尾高教授の批判に答ふ一	大串兎代夫		〔昭和19～20年〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	1073～1087は同折	1枚
1075	憲法第三十一条の究明	大串兎代夫		〔昭和19～20年〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	1073～1087は同折	1枚
1076	憲法第三十一条の効果について	大串兎〔代夫〕		〔昭和19～20年〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	表題のみ。1073～1087は同折	1枚
1077	〔尾高論文に対する反論の草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和19～20年〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	1～6頁。1073～1087は同折	1組
1078	〔尾高論文に対する反論の草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和19～20年〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	9～13頁。1073～1087は同折	1組
1079	〔尾高論文に対する反論の草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和19～20年〕		ペン		10～15頁。1073～1087は同折	1組
1080	〔尾高論文に対する反論の草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和19～20年〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	11頁。1073～1087は同折	1枚
1081	〔尾高論文に対する反論の草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和19～20年〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	13頁。1073～1087は同折	1枚
1082	〔尾高論文に対する反論の草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和19～20年〕		ペン		14頁。1073～1087は同折	1枚
1083	〔尾高論文に対する反論の草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和19～20年〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	15頁。1073～1087は同折	1枚
1084	〔尾高論文に対する反論の草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和19～20年〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	16・17頁。1073～1087は同折	1組
1085	〔尾高論文に対する反論の草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和19～20年〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	23頁、切取りあり。1073～1087は同折	1枚
1086	〔尾高論文に対する反論の草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和19～20年〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	1073～1087は同折	1組
1087	日本造船社は解説	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕		ペン、墨書	「国民精神文化研究所」原稿用紙	1073～1087は同折	1組
1088	〔尾高論文に対する反論の草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和19～20年〕		ペン		9～13頁	1組
1089	憲法第三十一条の時代的意義(一)	教学錬成所錬成官 大串兎代夫		〔昭和19年〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1組

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
1090	上申書	神奈川県鎌倉郡片瀬町 地曳組合代表 山本万太郎 神奈川県鎌倉郡片瀬町 漁業 浜野伝三郎	神奈川県知事 近藤壤太郎	昭和19年5月4日	江ノ島漁業協同組合より貸借せる漁業権の件	鉛筆		草稿	1枚
1091	〔問答体についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年代〕		ペン			1組
1092	ペルリは日本人をどう見たかー日本開国史の一断面ー	中川洋一		〔昭和20年代〕		ペン			1枚
1093	〔自然についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年代〕		ペン	「TKOAI」原稿用紙	2・4頁	1組
1094	〔社会思想を理解する秘訣についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年代〕		ペン		55頁	1枚
1095	立法及び法律学に対する現代の使命	ドクトル、フリードリヒ、カール、フォン サヴィニー〔大串兎代夫訳〕		〔昭和20年代〕		ペン	「教育研究会原稿用紙」		1組
1096	〔自由主義思想についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年代〕		ペン		3・7・8・10～12頁	1組
1097	〔「非常大権具体案」ほか草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年〕	「非常大権具体案」「非常大権案」「非常大権発動案」	ペン	「世界修理固成会」原稿用紙		1組
1098	〔非常大権と全権委任法についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年〕		ペン	「教育研究会」原稿用紙		1組
1099	国務大臣ノ輔弼ト行政トノ関聯ニツキ憲法上ノ意見ー非常大権（憲法第三十一条）	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年〕	目次のみ	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1枚
1100	〔非常大権と全権委任法についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年〕		ペン	「松屋製」原稿用紙		1枚
1101	〔草稿断片〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年〕	「官制事項」について	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1枚
1102	〔草稿断片〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年〕	「企画立案」について	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1枚
1103	〔非常大権関係草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年〕	「七、非常大権ハ天皇ノ国家統治大権ノソノママノ顕現ナルガ故ニ、」	ペン	「日本法理研究会」原稿用紙	6頁	1枚
1104	〔非常大権関係草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年〕	「第四、非常大権発動ノ具体策」「大政府〔組織図〕」	ペン		29頁	1枚
1105	〔「統帥国務一体」のための4方法についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年〕		ペン			1組
1106	第四、非常大権ニヨル政治ノ基調	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年〕		ペン			1枚
1107	第四、非常大権政治ノ基調	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年〕		ペン		29、30頁	1組（2枚）
1108	非常大権案	大串兎代夫提出		〔昭和20年〕	表紙と目次のみ	ペン			1組
1109	非常大権案	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年〕	表紙のみ	ペン			1枚
1110	〔「統帥ト国務ノ融合」についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年〕		ペン			1枚
1111	別紙 非常大権ノ輔翼機関ノ構成概ネ左ノ如シ	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年〕	「大政府」の構成	ペン	「日本法理研究会」原稿用紙		1組
1112	非常大権ニ関スル意見書	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年〕	書出しのみ	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1組
1113	非常大権発動ノ場合ノタメノ意見書	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年〕	題目のみ	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1枚
1114	〔非常大権と選挙法の改変についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1枚
1115	非常大権ノ発動ニ関スル意見書	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年〕	書出しのみ	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1枚
1116	非常大権ニ関スル意見書	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1組
1117	非常大権ニ関スル建議	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年〕		ペン	「朝倉書店」用紙		1枚
1118	建議	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年〕	非常大権について	ペン	「朝倉書店」用紙		1枚
1119	〔草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年〕	「非常大権ノ施行ノ形式」について	ペン	「朝倉書店」用紙		1枚
1120	〔草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年〕	「詔命」としての非常大権について	ペン	「朝倉書店」用紙	4頁	1枚

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
1121	超非常時憲法要綱	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年〕	「一、超非常時（国土戦場化ノ場合）ニ於テハ」のみ	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	1121・1122は同折	1枚
1122	一、問題の展望	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年〕	危局下の国民の気分の弛緩について	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	1121・1122は同折	1組
1123	建議	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年〕	天皇大権の発動・親政府（仮称）の設置建議、統帥権の独立について	ペン	「朝倉書店用紙」		1組
1124	非常大権ニ関スル意見要綱	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年〕		ペン	書綴（「国民精神文化研究所」原稿用紙）		1綴
1125	憲法第三十一条の時代的意義（承前）	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	1～8頁	1組
1126	非常大権御発動案	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1組
1127	〔「究極ノ政体」の決定についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1組
1128	〔「大政府」についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年〕		ペン			1組
1129	〔非常大権の発動についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年〕		ペン	「日本法理研究会」原稿用紙	3～5・7～10頁	1組
1130	第四、非常大権政治ノ基調	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年〕		ペン	「日本法理研究会」原稿用紙		1組
1131	〔非常大権の発動、最高府と大本営についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年〕		ペン		23頁	1組
1132	国体論の肅正	小沢章		〔昭和20年〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1組
1133	〔非常大権と戦時緊急措置法の区別についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1枚
1134	〔非常大権と全権委任法についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年〕		ペン	「教育研究会原稿用紙」		1枚
1135	〔憲法第31条についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年〕		ペン			1枚
1136	一新五則	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年〕	非常大権発動の具体的プラン	墨書、ペン		紐留め	1冊
1137	〔非常大権の発動についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	紙背使用	1組
1138	非常大権の問題	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年〕 4月27日	於教学錬成所	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1組
1139	非常大権建議及意見書ノ説明	〔大串兎代夫〕		昭和20年5月4日	於首相官邸	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1枚
1140	非常大権の説明	〔大串兎代夫〕		昭和20年5月12日	於陸軍省	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1組
1141	毎日新聞談話			（昭和20年5月22日）	非常大権について	ペン		箇条書き。「約四十五分」とあり	1組
1142	片発第二七六号町定例会開催ノ件	片瀬町長 林吉次郎（公印）	町常会構成員 大串兎代夫	昭和20年5月23日		謄写版、ペン、スタンプ		1141に挿入	1枚
1143	これからの憲法問題	大串兎代夫		〔昭和戦後期〕		ペン	書綴（「コクヨ」製原稿用紙）	クリップ留め	1綴
1144	西洋的国家観と東洋的国家観	大串兎代夫		〔昭和戦後期〕		ペン	書綴（「大串用箋」・「国学院大学編集課」原稿用紙）	ステープラー留め	1組（5綴）
1145	社会思想読本	〔大串兎代夫〕		〔昭和戦後期〕		ペン			1枚
1146	皇室と国民を語る	〔大串兎代夫〕		〔昭和戦後期〕		ペン	「法律新報社」罫紙		1枚
1147	〔民主主義における道義と良識についての草稿〕	森真一郎		〔昭和戦後期〕		ペン			1枚
1148	〔信義と国際・国内政治についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和戦後期〕		ペン	「教育研究会」原稿用紙		1枚
1149	〔国家神道についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和戦後期〕		ペン	「大串用箋」	3～12頁	1組
1150	社会思想読本	〔大串兎代夫〕		〔昭和戦後期〕		ペン		1・15・29頁	1組
1151	御巡幸の話	〔大串兎代夫〕		〔昭和戦後期〕		ペン			1組
1152	キツスの話	〔大串兎代夫〕		〔昭和戦後期〕		ペン			1組
1153	〔恋愛と結婚についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和戦後期〕		ペン		8頁	1枚

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
1154	Die neue jap. Verfassung u. ihre Entwicklung bis zur Gegenwart	Toyowo Ohgushi [大串兎代夫]		[昭和戦後期]		ペン			1組
1155	『南方(琉球)地域の国際法上の地位』(一)	西俣昭雄		[昭和戦後期]		ペン	「国華原稿用紙」	「国華原稿用紙」を冊子体にまとめたもの	1冊
1156	「ヘーゲルの弁証法についての草稿」	[大串兎代夫]		[昭和20年代]				最後2枚が「法律新報 民衆大学 世界少年 月刊法令 月刊判例」原稿用紙	1組
1157	「違憲立法審査権についての草稿」	[大串兎代夫]		[昭和20年代]		ペン	「法律新報 民衆大学」	「時言 二月号」掲載カ	1枚
1158	「『国体民主主義』についての草稿」	[大串兎代夫]		[昭和20年代]		ペン	「東京文房堂」原稿用紙		1枚
1159	天皇制の理論的根拠は何か	[大串兎代夫]		[昭和20年代]		ペン		1159～1161は同折	1組
1160	共産主義はドコがまちがってゐるか	[大串兎代夫]		[昭和20年代]		ペン		1159～1161は同折	1組
1161	天皇制はどういふ意味で正しいか	[大串兎代夫]		[昭和20年代]		ペン		1159～1161は同折	1組
1162	憲法改正について	[大串兎代夫]		[昭和20年代]		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1組
1163	「論文の批評の草稿」	中川		[昭和20年代]		ペン	原稿用紙	6頁	1枚
1164	「憲法改正の意味についての草稿」	[大串兎代夫]		[昭和20年代]		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1枚
1165	人の一生	[大串兎代夫]		[昭和20年代]		ペン		1～19頁。154・1165～1167は同折	1組
1166	世界は一つ	[大串兎代夫]		[昭和20年代]		ペン		154・1165～1167は同折	1組
1167	「独語覚書」	[大串兎代夫]			「Die Vertragsurkunde über das Kauf und Verkauf der Grundstücke und Gebäude」ほか	ペン、鉛筆		154・1165～1167は同折	1組
1168	「国際・国内政治の根本道義としての信義についての草稿」	[大串兎代夫]		[昭和20年代]		ペン	「教育研究会 原稿用紙」		1枚
1169	真の民主主義とは何か	[大串兎代夫]		[昭和20年代]		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	2・3頁	1組
1170	「国民生活とその組織についての草稿」	[大串兎代夫]		[昭和20年代]		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	5頁	1枚
1171	「『第二節 基本的人権』ほか草稿」	[大串兎代夫]		[昭和20年代]	「第二節 基本的人権」「上告趣意書提出遅延の理由書 被告人 飯田親夫」ほか	ペン、鉛筆		紐一括	1綴
1172	憲法改正ニツイテノ意見	[大串兎代夫]		[昭和20～21年]		ペン			1綴
1173	第三 憲法改正案 日本帝国憲法 基本精神	[大串兎代夫]		[昭和20～21年]		ペン	「昭和維新原稿用紙」		1枚
1174	政府憲法草案要綱の解説	中川洋一		[昭和20～21年]		ペン	「教育研究会 原稿用紙」	1・12～15頁	1組
1175	「新憲法の制定方法についての草稿」	[大串兎代夫]		[昭和20～21年]		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1組
1176	憲法の問題についての意見	[大串兎代夫]		[昭和20～21年]	表題のみ	ペン	「日本急進党 原稿用紙」	1176～1178は同折	1枚
1177	文学芸術と憲法問題	[大串兎代夫]		[昭和20～21年]		ペン	「日本急進党 原稿用紙」	1176～1178は同折	1枚
1178	「国体問題の決定についての草稿」	[大串兎代夫]		[昭和20～21年]		ペン	「日本急進党 原稿用紙」	12頁。1176～1178は同折	1枚
1179	憲法改正ノ問題	[大串兎代夫]		[昭和20～21年]		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	1・2頁	1組
1180	終戦後の政治思想動向	[大串兎代夫]		[昭和20～21年]		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	1頁	1組
1181	日本帝国憲法	[大串兎代夫]		[昭和20～21年]		ペン	「昭和維新原稿用紙」	1～7頁	1組
1182	崩壊革命の段階	大村中 [大串兎代夫]		[昭和20～21年]		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	1～5頁	1組
1183	憲法改正要綱	[大串兎代夫]		[昭和20～21年]		ペン	「大日本帝国政府」罫紙	紙背に覚書(ペン)あり	1枚
1184	憲法改正要綱	[大串兎代夫]		[昭和20～21年]		ペン	「大日本帝国政府」罫紙		1組
1185	憲法改正案	[大串兎代夫]		[昭和20～21年]		ペン	「大日本帝国政府」罫紙	1・2・4～10頁	1組
1186	「憲法改正についての草稿」	[大串兎代夫]		[昭和20～21年]		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	15頁	1枚
1187	「憲法改正と『我が憲法ノ中心概念』についての草稿」	[大串兎代夫]		[昭和20～21年]		ペン			1枚

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
1188	憲法問題意見書	〔大串兎代夫〕		〔昭和20～21年〕		ペン	「日本急進党原稿用紙」	1～11頁	1組
1189	憲法改正案	〔大串兎代夫〕		〔昭和20～21年〕	「第一章 天皇」 「第二章 人民」	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1枚
1190	役員公選ノ件	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年〕	町内会新役員の公選について	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	1190～1192は同折	1枚
1191	〔町内会新役員の公選についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年〕		ペン	「国民精神文化研究所」用紙	1190～1192は同折	1枚
1192	〔職名覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年〕	町内会役員カの職名の書上げ	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	1190～1192は同折	1枚
1193	憲法改正ニツイテイノ意見	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年〕	「第一、憲法改正ノ可否ニツイテハ、憲法改正ノ必要アリト思惟ス」 「第二、憲法改正ノ御発議ニ」	ペン	「邦人社原稿用紙」		1枚
1194	憲法改正ニ関スル意見書	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1組
1195	日本に於けるデモクラシー	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	紙背使用	1組
1196	日本憲法とポツダム宣言	〔大串兎代夫〕		〔昭和20年〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙	1～5頁、紙背使用	1組
1197	米国と世界政策	〔大串兎代夫〕		〔昭和21年〕		ペン、鉛筆	書綴（「教育研究会原稿用紙」）	クリップ留め、『法律新報』昭和21年11・12月合併号掲載記事の原稿カ	1綴
1198	憲法改正要綱	〔大串兎代夫〕		〔昭和21年〕		ペン	書綴（「大日本帝国政府」野紙）	クリップ留め	1綴
1199	イズムの話	〔大串兎代夫〕		〔昭和22～23年〕		ペン			1組
1200	〔「イズムの話」草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和22～23年〕		鉛筆	「国民精神文化研究所原稿用紙」	18～20頁	1組
1201	イズムの話	中川洋一		〔昭和22～23年〕		ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙・原稿用紙		1組
1202	〔改正憲法についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和22年〕		ペン、鉛筆	「国民精神文化研究所原稿用紙」	2～16頁	1組
1203	日米はどうして結ばれたかー日米国交の始を回顧するー	大村仲		〔昭和22年〕		ペン	「法律新報社」原稿用紙		1組
1204	日本の発見	〔大串兎代夫〕		〔昭和24～25年〕	講演原稿	ペン、鉛筆		クリップ留め	1綴
1205	〔核戦争についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔1950～60年代〕		タイプ、ペン		10・11・13頁、独語論文	1組
1206	〔「court」についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和26～27年〕	英語草稿	ペン	「築地運送株式会社」野紙	野紙の紙背使用	1枚
1207	Autorität in der japanischen Aufbau planung	Toyowo Ohgushi〔大串兎代夫〕		〔昭和30年代〕		鉛筆	〔ノートブック〕	1頁～	1冊
1208	〔独語論文草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和30年代〕		鉛筆	〔ノートブック〕	24頁～	1冊
1209	〔独語論文草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和30年代〕		鉛筆	〔ノートブック〕	86頁～	1冊
1210	新版 第一冊 1-71頁	〔大串兎代夫〕		〔昭和30年代〕	独語論文	ペン、鉛筆	「wind rose」ノートブック		1冊
1211	新版 第二冊 72-124頁	〔大串兎代夫〕		〔昭和30年代〕	独語論文	ペン、鉛筆	「wind rose」ノートブック		1冊
1212	新版 第三冊 128-	〔大串兎代夫〕		〔昭和30年代〕	独語論文	ペン、鉛筆	「wind rose」ノートブック		1冊
1213	神道と憲法	大串兎代夫		〔昭和30年代〕		ペン	「大串用箋」	ステープラー留め、「神社新報社」封筒（表「藤沢市 大串兎代夫様」）あり	1綴
1214	Artikel 1			〔1960年代〕		タイプ			1枚
1215	〔核戦争についての草稿〕			〔1960年代〕	独語草稿	タイプ		13頁	1枚
1216	Die nuklearen Waffen und die Aufgabe der Staatsrechtslehre	Toyowo Ohgushi Asia-University, Tokio〔大串兎代夫〕		〔1960年代〕		タイプ、鉛筆			1組
1217	Planungskompetenzen in Japan			〔1960年代〕		タイプ、鉛筆		クリップ留め、「Stolzenberg」ファイルあり	1綴
1218	〔独語草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔1960年代〕	核兵器・原子爆弾に関する独語論文の草稿カ	タイプ、ペン、鉛筆		一部クリップ留めあり	1組
1219	国家権威の研究	大串兎代夫		昭和35年8月	表紙と「はしがき」	ペン、鉛筆	「大串用箋」		1綴
1220	国家権威の研究 目次	〔大串兎代夫〕		〔昭和35年〕		ペン、鉛筆	「大串用箋」	ステープラー留め	1綴

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
1221	国家権威の研究 第一章 国家学における権威の問題	〔大串兎代夫〕		〔昭和35年〕		ペン、鉛筆	「大串用箋」		1綴
1222	第十二章 日本国憲法と国家権威	〔大串兎代夫〕		〔昭和35年〕		ペン、鉛筆	「大串用箋」		1綴
1223	第二章 権威の種類	〔大串兎代夫〕		〔昭和35年〕		ペン、鉛筆	「大串用箋」		1綴
1224	第三章 言葉としての権威	〔大串兎代夫〕		〔昭和35年〕		ペン、鉛筆	「大串用箋」		1綴
1225	第四章 権威の概念	〔大串兎代夫〕		〔昭和35年〕		ペン、鉛筆	「大串用箋」		1綴
1226	第五章 国家本質の問題	〔大串兎代夫〕		〔昭和35年〕		ペン、鉛筆	「大串用箋」		1綴
1227	第六章 国家の本質と国家権威	〔大串兎代夫〕		〔昭和35年〕		ペン、鉛筆	「大串用箋」		1綴
1228	第七章 社会存在と社会認識	〔大串兎代夫〕		〔昭和35年〕		ペン、鉛筆	「大串用箋」		1綴
1229	第八章 国民	〔大串兎代夫〕		〔昭和35年〕		ペン、鉛筆	「大串用箋」		1綴
1230	第九章 権威と国民精神および表現の問題	〔大串兎代夫〕		〔昭和35年〕		ペン、鉛筆	「大串用箋」		1綴
1231	第十章 法と基本権	〔大串兎代夫〕		〔昭和35年〕		ペン、鉛筆	「大串用箋」	綴はずれあり	1綴
1232	第十一章 国際法における国家権威と主権	〔大串兎代夫〕		〔昭和35年〕		ペン、鉛筆	「大串用箋」		1綴
1233	〔井上梧陰についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和37年以降〕		ペン	「大串用箋」	ステープラー留め、1～44頁、1233・1234は「石堂書店」封筒一括	1綴
1234	〔井上梧陰についての草稿〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和37年以降〕		鉛筆	「大串用箋」	1～30頁。1233・1234は「石堂書店」封筒一括	1組
1235	主論文「国家権威の研究」梗概	〔大串兎代夫〕		〔昭和37年〕		ペン	「大串用箋」	「文化財保護委員会」封筒（表「文化財 田崎様」）あり	1綴
1236	神道の概念—神道文化学—の思惟方法	〔大串兎代夫〕		〔昭和39年〕		ペン	「大串用箋」「神道宗教学会」原稿用紙	1～4・6・14・20・30・31・33・39～42・44・48頁	1組
1237	デュルクハイム著「はら」	〔大串兎代夫〕		〔昭和39年〕	デ伯と禅療法について	ペン	「大串用箋」	訳者はしがきの草稿カ	1組
1238	Das Eigentum an Haus und Grund in Japan	Tyowo Ohgushi 〔大串兎代夫〕		〔昭和戦後期〕		鉛筆	〔ノートブック〕		1冊
1239	Atombombe und Staatsauffassung	von Toyowo Ohgushi Asia-University, Tokio 〔大串兎代夫〕		〔昭和40～42年〕		タイプ、ペン、鉛筆			1冊
1240	Deutsche Staatswissenschaft und japanische Verfassung	Toyowo Ohgushi 〔大串兎代夫〕		〔昭和40～42年〕		鉛筆	〔ノートブック〕		1冊
1241	Die Planung in Japan und die Frage der Autorität	Toyowo Ohgushi Asia University zu Tokio 〔大串兎代夫〕		〔昭和40～42年〕		タイプ、鉛筆		クリアファイルあり	1組
1242	行政法講義草稿	〔大串兎代夫〕		〔昭和40年〕	日本行政法 第一章 行政法の研究方法 ほか	ペン	「大串用箋」	1242・1243は「本と文房具のおおき」封筒（表「行政法規」・裏「行政法講義草稿」）一括	1組
1243	東山御文庫分五箇条御誓文	憲法の会謹写		昭和40年3月10日		印刷		1242・1243は「本と文房具のおおき」封筒（表「行政法規」・裏「行政法講義草稿」）一括	1枚
1244	Atombombe und staatslehre	Toyowo Ohgushi 〔大串兎代夫〕		〔1966年〕	独語草稿	鉛筆、ペン	〔ノートブック〕		1冊
1245	Atombombe und Staatsauffung	Toyowo Ohgushi 〔大串兎代夫〕		〔1966年〕	独語草稿	鉛筆、ペン	〔ノートブック〕	84頁まで、「in Freiburg」とあり	1冊
1246	〔Atombombe und Staatsauffung〕	〔Toyowo Ohgushi 〔大串兎代夫〕〕		〔1966年〕	独語草稿	鉛筆、ペン	〔ノートブック〕	85～179頁	1冊
1247	〔Atombombe und Staatsauffung〕	〔Toyowo Ohgushi 〔大串兎代夫〕〕		〔1966年〕	独語草稿	鉛筆、ペン	〔ノートブック〕	Iの180頁～IVの72頁	1冊
1248	〔Atombombe und Staatsauffung〕	〔Toyowo Ohgushi 〔大串兎代夫〕〕		〔1966年〕	独語草稿	鉛筆、ペン	〔ノートブック〕	73頁から、「Freiburg」とあり	1冊
1249	〔独語覚書〕	〔大串兎代夫〕		〔1966年〕	独語覚書	鉛筆		85～90頁、斜線あり、783・785と関連カ	1組
1250	Atombombe und Staatsauffassung	Toyowo Ohgushi 〔大串兎代夫〕		〔1966年〕	独語草稿	タイプ、鉛筆		「第二回原稿 66, 3, 31」と記載あり。一部クリップ留め・包紙一括、「HERMA」封筒あり	1組
1251	〔独語草稿〕	〔大串兎代夫〕			独語草稿	タイプ、ペン		1250の一部カ	1枚
1252	Die nuklearen Waffen und die Aufgabe der Staatsrechtslehre	Toyowo Ohgushi Asia-University, Tokio 〔大串兎代夫〕		〔1966年〕	独語草稿	タイプ、カーボン、ペン	「LEITZ」ファイル	表紙に「第三回原稿」（ペン）とあり	1冊

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
1253	〔草稿断片〕	〔大串兎代夫〕			文の産物ではないのである。	ペン	「帝国書院」原稿用紙		1枚
1254	大宝令太政官制調査ニ関スル注意事項	〔大串兎代夫〕			一、奈良期ノ太政大臣ト平安期ノソレトノ質的相違ほか	ペン		1254～1256は同折	1枚
1255	太政官機構	〔大串兎代夫〕			太政官機構図	ペン		1254～1256は同折	1組
1256	特ニ注意スベキ時代ト人物	〔大串兎代夫〕			一、神武御東征(道臣命) ほか	ペン		1254～1256は同折	1枚
1257	〔社会思想についての草稿〕	〔大串兎代夫〕			社会思想について	ペン		21～24・31・32・34頁	1組
1258	〔草稿断片〕	〔大串兎代夫〕			かうして孤独であり、忘れられて	ペン			1枚
1259	Geschichts-Manuskripte	Dr. Toyowo Ohgushi〔大串兎代夫〕			独語草稿	タイプ、ペン、鉛筆		史料を包むフォルダ「Geschichts-Manuskripte」あり、破損大。封入史料クリップ留め、一部破損あり	1冊
1260	〔日本の国家成立についての草稿〕	〔大串兎代夫〕			日本の国家成立について	ペン	「大串用箋」		1枚
18. 論文									
18-1. 大串作成論文									
1261	国家本質と国家権威	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕		印刷、スタンプ、ペン、鉛筆		校正刷、綴はずれ、52(159)頁	1綴
1262	国家の本質と国家権威	〔大串兎代夫〕		〔昭和10年代〕		印刷、ペン、鉛筆		校正刷	1綴
1263	帝国憲法と臣民の翼賛	〔大串兎代夫〕		〔昭和13年〕		印刷、鉛筆、スタンプ		クリップ・金具留め	1冊
1264	〔天皇の御稜威についての校正刷〕	〔大串兎代夫〕		〔昭和15～20年〕	天皇の御稜威について	印刷、ペン		綴はずれ、3～6頁と頁無記載1枚	1綴
1265	近代国家の基本概念	〔大串兎代夫〕		昭和15年3月25日		印刷、ペン、鉛筆		校正刷、ステーブラー留め	1綴
1266	ナチスへの理解	大串兎代夫		〔昭和〕16年3月10日		印刷、ペン、鉛筆		校正刷、ピン留め	1綴
1267	大東亜共栄圏の意義	大串兎代夫		昭和18年4月10日		印刷、スタンプ、ペン、鉛		校正刷、『理想』昭和18年6月号掲載カ	1綴
1268	Die japanische Verfassung vom 3. November 1946	TOYOWO OHGUSHI Professor an der Universität Meijo in Nagoya〔大串兎代夫〕		〔1956年〕		印刷		ステーブラー留め。1268～1270は「Bundesverfassungsgericht」封筒(表「Professor T. Ohgushi」)一括	1綴
1269	〔書簡〕	Otto Koellreutter	Mein Lieber Ohgushi〔大串兎代夫〕	1957年12月18日	独語書簡	タイプ、ペン		1268～1270は「Bundesverfassungsgericht」封筒(表「Professor T. Ohgushi」)一括	1通
1270	〔人名・文献名など覚書〕	〔大串兎代夫〕			人名・文献名など	ペン、鉛筆		1268～1270は「Bundesverfassungsgericht」封筒(表「Professor T. Ohgushi」)一括	1枚
1271	西洋的国家観と東洋的国家観	〔国学院大学〕嘱託・法学博士 大串兎代夫		〔昭和39年〕		印刷		『国体論纂』所収	1冊
1272	神道宗教学会「神道宗教」第四十号 抜刷 論壇時評	大串兎代夫		〔昭和40年〕		印刷			1冊
1273	神道宗教学会「神道宗教」第三十七号 抜刷 神道の概念—神道文化の思惟方法—	大串兎代夫		〔昭和40年〕		印刷			6冊
1274	神道宗教学会「神道宗教」第三十九号 抜刷 論壇時評	大串兎代夫		〔昭和40年〕		印刷			6冊
1275	神道宗教学会「神道宗教」第四十号 抜刷 論壇時評	大串兎代夫		〔昭和40年〕		印刷			1冊
1276	Aspekte der Planung in Japan	von Toyowo Ohgushi Professor an der Asia University Tokio〔大串兎代夫〕		〔1966年〕		印刷			1冊
1277	EINE ZEN-KARRIERE	TOYOWO OHGUSHI〔大串兎代夫〕		〔1966年〕		印刷			2冊
1278	DIE NUKLEAREN WAFFEN UND DIE AUFGABE DER STAATSRICHTSLEHRE	TOYOWO OHGUSHI〔大串兎代夫〕		1966年		印刷			1冊
18-2. 大串訳論文									
1279	法学協会雑誌第五七巻第一号 抜刷 国民社会主義的法治国家	ミュンヘン大学教授 オットー・ケールロイター 法学士 大串兎代夫訳		〔昭和14年〕		印刷			4冊

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
1280	「新独逸国家大系」別刷 ナチス党の組織的構成	国内務省参事官・党中央局長・国会議員ハンス・ファブリチウス 国民精神文化研究所所員 大串兎代夫訳		[昭和14～15年]		印刷			2冊
1281	「新独逸国家大系」別刷 ナチス法治国	ミュンヘン大学教授 オットー・ケールロイター、国民精神文化研究所所員 大串兎代夫訳		[昭和14～15年]		印刷			5冊
1282	法政研究 第十巻第一号抜刷 ナチ独逸に於ける文化・宗教・教育及学問の法的地位	オットー・ケールロイター 大串兎代夫訳		[昭和15年]		印刷			5冊
1283	名城法学第6巻第3・4合併号 抜刷ボン基本法における民主法治国の憲法裁判権 (4完)	ゲルハルト・ライプホルツ 大串兎代夫訳		[昭和32年]		印刷			1冊
18-3. その他論文									
1284	「文芸春秋」第二十巻第四・五・六号別刷 日独盟約の哲学的基礎 (原題 日独友好関係の形而上的基礎)	グラーフ・フォン・デュルクハイム 訳者 橋本文夫		[昭和17年]		印刷			1冊
1285	The cultural history of Northwest Pakistan	KARL JETTMAR, Vienna University	Herrn Prof. Ohgushi [大串兎代夫]	1958年		印刷、ペン		ステープラー留め。「Grant No. 2448」掲載	1冊
1286	Die Fürstengräber der Skythen im Altai	Von Prof. Dr. Karl Jettmar, Universität Mainz		1961年		印刷		「DIE UMSCHAU IN WISSENSCHAFT UND TECHNIK」, Heft 12/1961」抜刷。864-1・2は一括	1綴
1287	Woher kamen die Hunnen?	Von Prof. Dr. Karl Jettmar, Universität Mainz		1961年		印刷		「DIE UMSCHAU 61. Jahrgang Heft 16」抜刷。864-1・2は一括	1綴
1288	Power from the Top—Power from the Bottom	H. Herrfahrtdt Professor of Political Science Marburg		[1960年代]		印刷		表紙に覚書(ペン)あり、1288～1293はファイル一括	1冊
1289	Regierung und Parteien in Deutschland	Prof. H. Herrfahrtdt, Marburg				タイプ、カーボン、ペン		1288～1293はファイル一括	1枚
1290	Die Bedeutung der Monarchie für die Gegenwart	Prof. H. Herrfahrtdt, Marburg		[1959年]		印刷、ペン、鉛筆		ステープラー留め。1288～1293はファイル一括	1綴
1291	Entwicklung von Familie und Staat in Europa und Ostasien	Prof. H. Herrfahrtdt, Marburg				印刷		1288～1293はファイル一括	1枚
1292	Vorgeschichtliche Grundlagen der deutschen Staatsordnung	Prof. H. Herrfahrtdt, Marburg				印刷		1288～1293はファイル一括	1枚
1293	PROBLEME UND THEMEN des FORSCHUNGSKREISES FÜR SYMBOLIK e. V.					印刷		「大串教授 指正 葉師龍敬贈」(ペン)とあり。1288～1293はファイル一括	1綴
1294	公法研究 第二七号抜刷 憲法の保障	相原良一		[昭和40年]		印刷			1冊
1295	帝国憲法時代の神社と宗教	葦津珍彦		[昭和戦後期]		印刷			1冊
1296	宗教をめぐる現行法律制度	荒木陽太郎 (京都大学法学修士)		昭和36年7月		印刷		1296・1297は封筒(表「東京都渋谷区 国学院大学図書館御内 大串兎代夫先生 日本文化研究所御内 鎌田純一先生」・裏「大阪市北区 福井屋内 荒木陽太郎」一括	1冊
1297	[書簡]	荒木陽太郎	大串兎代夫 鎌田純一	昭和39年2月7日	名城大学をお辞めになったため、先生のご住所を調べるよすががなく、拙稿をお送りできないままになっていたような次第であります。	ペン	「KOKUYO」便箋	1296に挿入。1296・1297は封筒(表「東京都渋谷区 国学院大学図書館御内 大串兎代夫先生 日本文化研究所御内 鎌田純一先生」・裏「大阪市北区 福井屋内 荒木陽太郎」一括	1通
1298	新刑事証拠法の基礎理論	江家義男				謄写版		ステープラー留め	1綴

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
1299	憲法改正ニ伴ヒ行政裁判ヲ司法裁判所ノ管轄ニ属セシムルコトノ当否ニ就テ	行政裁判所長官 遠藤源六		昭和21年2月15日稿		印刷			1冊
1300	法律論叢第三一卷第二号別刷 国際法上の権利義務の主体論	遠藤源六		[昭和32年]		印刷			4冊
1301	対外援助論ノート抄 大阪成蹊女子高等学校研究紀要第2号別刷	大村丈夫		昭和44年3月		印刷		表紙に書込み「今は亡き兎代夫の霊前に捧ぐ 兄」(ペン)あり	1冊
1302	論叢 玉川大学文学部紀要 第五号 第一分冊 抜刷 「社会科歴史」批判—その反歴史主義の由来と対策—	小林健三		[1965年]		印刷		53・119・1302・1310・1563・1725・1799・1818~1821・1927・1933は封筒(表「神奈川県藤沢市大串兎代夫様」・裏「東京都渋谷区 明治神宮崇敬会」)一括	1冊
1303	マルクス・レーニン主義は帝国主義と無縁なりや 京都教育大学 紀要A: No. 29 別冊	小森義峯		昭和41年8月31日[発行]		印刷			1冊
1304	[書簡]	小森義峯	三須武男	[昭和41年] 9月28日	「帝国主義」に関する俗論を不満とし、同封のような論文をものしました。	ペン	「KOKUYO」便箋	1303に挿入	1通
1305	マルクス・レーニン主義は帝国主義と無縁なりや 京都教育大学 紀要A: No. 29 別冊	小森義峯		昭和41年8月31日[発行]		印刷		表紙に「謹呈 大串先生」(ペン)とあり	1冊
1306	世界連邦成立のための精神的条件—東洋思想と世界平和との関係を中心として— 京都教育大学 紀要 A: No. 30 別冊	小森義峯		昭和42年3月31日[発行]		印刷			1冊
1307	「産大法学」第八卷第四号抜刷 非常権説の法理	小森義峯		昭和50年3月[発行]		印刷		表紙に「謹呈 大串様」(ペン)とあり	1冊
1308	世界と日本五月号抜刷 憲法問題特輯号 憲法改正の提案 増刷	新日本協議会		昭和40年1月30日		印刷			1冊
1309	クレアモント大学神道会議に出席して	太宰府天満宮 宮司 西高辻 信貞		[昭和40年]		印刷			1冊
1310	神道史研究第十一卷第三号抜刷 神宮暦の研究	西内雅		昭和38年5月1日[発行]		印刷		53・119・1302・1310・1563・1725・1799・1818~1821・1927・1933は封筒(表「神奈川県藤沢市大串兎代夫様」・裏「東京都渋谷区 明治神宮崇敬会」)一括	1冊
1311	植物及動物第6巻第5号別刷 全体論に就て	橋田邦彦		昭和13年5月1日発行		印刷			1冊
1312	生理学余外集別刷 第一巻第八号及第九号 手記	橋田無適		昭和10年4月		印刷			1冊
1313	生[理]学余外集別刷第二巻第八号及第九号 音楽雑話(2)	橋田無適		昭和11年5月		印刷			1冊
1314	史前学雑誌 第七巻第一号抜刷 各大きを異にする刳根のある大和及び三河発見の土器	樋口清之				印刷			1冊
1315	法経学会雑誌 一四巻一号(通巻四九) 抜刷 日本古代の法思想の特徴	増田福太郎		昭和39年6月		印刷		表紙に「大串学兄」(ペン)とあり	1冊
1316	福岡大学法学論叢 第11巻第1号抜刷 民主制的君主制	森三十郎		昭和41年7月[発行]		印刷		表紙に「謹呈 大串先生」(ペン)とあり	1冊
1317	参考 戦争指導機構に付て			[昭和10年代]	Handbuch der neuzeitlichen Wehrwissenschaftenの抜粋翻訳	印刷		ステーブラー留め	1冊
1318	[中国青年党の動向]			[昭和10年代]		印刷		前欠、中華民國22年11月10日付會崎意見書の和訳あり	1綴
19. 雑誌									
1319	Akademie für Deutsches Recht 6. Jahrgang Heft 6			1939年3月15日		印刷			1冊
1320	Brunnen Nr. 138	郁文堂		1971年11月		印刷		1320・1869~1871は同折	1冊
1321	DEUTSCHES VERWALTUNGSBLATT HEFT 24			1951年12月15日		印刷			1冊

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
1322	DEUTSCHES VERWALTUNGSBLATT JAHRGANG 79 HEFT 17/18			1964年9月1日/15日		印刷			1冊
1323	DIE TATWELT Jahrg. VII / Heft 1	Herausgegeben von E. Erdsiek, Ereiburg i. Br.		1931年1月/3月		印刷			1冊
1324	Geist derzeit 18. Jahrg			1940年12月		印刷			1冊
1325	Geist derzeit 19. Jahrg			1941年1月		印刷			1冊
1326	INFO 第十卷第九号			昭和39年8月8日 [発行]		印刷			1冊
1327	Inside JAPAN Vol.4 No.30	New Japan Information Co.Ltd		昭和37年10月10日 [発行]		印刷		ステープラー留め。423～426・849・1327・1478・1609～1611・1633・1699・1700・1807・1808・1966・1967は封筒（表「藤沢市大串兎代夫様」「東京都新宿区躍進社」）一括	1冊
1328	NACHRICHTEN No. 66	DEUTSCHE GESELLSCHAFT FÜR NATUR- UND VÖLKERKUNDE OSTASIENS		[昭和18年]		印刷		ステープラー留め、破損大	1冊
1329	PEKING RUNDSCHAU 北京周报 37			1965年9月14日		印刷		ステープラー留め	1冊
1330	Reichsverwaltungsblatt			1938年4月9日		印刷		ステープラー留め、破損あり	1冊
1331	Reichsverwaltungsblatt			1939年1月7日		印刷		ステープラー留め	1冊
1332	アジア問題 第5巻第4号	社団法人 アジア協会		昭和31年10月1日 [発行]		印刷			1冊
1333	新しい道セミナー No. 87	神光苑出版部		昭和40年8月10日刊		印刷			1綴
1334	あゆみ 第5巻一第6号	歴史・文学研究 あゆみ会		[昭和] 41年10月20日		謄写版		ステープラー留め	1冊
1335	維新 第181号	国民総連合中央事務局		昭和40年10月15日		印刷			1綴
1336	維新 第196号	国民総連合中央事務局		昭和42年2月15日		印刷			1綴
1337	イタリア 第三巻第四号	イタリア友の会		昭和18年4月1日 [発行]		印刷			1冊
1338	大村史談 第二十九号	大村史談会		[昭和61年]	河野忠博「大村藩犯科帳（その八）」の一部	電子式複写		50・51頁	1冊
1339	[欧文社受験パイロット使用者の声]			[昭和10年代]	受験雑誌の一部カ	印刷			1枚
1340	雄鶏通信 世界の文化ニユース 第二巻第九号	雄鶏社		昭和21年8月1日 [発行]		印刷		ステープラー留め	1冊
1341	外交春秋 第一二五号	日本外交協会		昭和39年11月15日 [発行]		印刷			1冊
1342	外交春秋 第一二六号	日本外交協会		昭和40年1月15日 [発行]		印刷			1冊
1343	外交春秋 第一四〇号	日本外交協会		昭和41年3月15日 [発行]		印刷			1冊
1344	外交春秋 第一四五号	日本外交協会		昭和41年8月15日 [発行]		印刷			1冊
1345	外事特報 VOL. 2 NO. 23	中外調査会		昭和32年8月15日 [発行]		印刷		ステープラー留め	1冊
1346	[中外調査会封筒]	東京都港区 中外調査会	藤沢市 大串 兎代夫			印刷、ペン		未開封、ステープラー留め。1347・1348封入	1枚
1347	外事特報 VOL. 9 NO. 8	中外調査会		昭和39年8月 [発行]		印刷		ステープラー留め	1冊
1348	中外特報 VOL. 11 NO. 8	中外調査会		昭和39年8月 [発行]		印刷		ステープラー留め	1冊
1349	外事特報 VOL. 9 NO. 12	中外調査会		昭和39年12月		印刷		ステープラー留め	1綴
1350	中外特報 VOL. 11 NO. 12	中外調査会		昭和39年12月		印刷		ステープラー留め	1綴
1351	科学主義 第十巻第六号	科学社		昭和21年10月1日 [発行]		印刷			1冊
1352	学校経営 第9巻第1号	第一法規出版		昭和39年1月1日 [発行]	大串兎代夫「国家権威と教育」掲載	印刷			1冊
1353	学校経営 第9巻第8号	第一法規出版		昭和39年8月1日 [発行]	大串兎代夫「国家の教育権—宗像教授に問う—」掲載	印刷			1冊
1354	学校経営 第10巻第10号	第一法規出版		昭和40年10月1日 [発行]	大串兎代夫「教科書検定と憲法—家永教授の提訴とその見解を中心に—」掲載	印刷			1冊
1355	歌道維新と新国学 ひむがし 第三巻第十二号	新国学協会		昭和18年12月5日 [発行]		印刷			1冊
1356	韓国時事 第五号	韓国時事社		昭和40年9月1日 [発行]		印刷			1冊

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
1357	韓国時事 第六号	韓国時事社		昭和40年10月1日[発行]		印刷			1冊
1358	韓国時事 第十号	韓国時事社		昭和41年2月1日[発行]		印刷			1冊
1359	韓国時事 第十五号	韓国時事社		昭和41年7月1日[発行]		印刷			1冊
1360	韓国時事 第十七号	韓国時事社		昭和41年9月1日[発行]		印刷			1冊
1361	韓国時事 第十九号	韓国時事社		昭和41年11月1日[発行]		印刷			1冊
1362	韓国時事 第二十一号	韓国時事社		昭和42年1月1日[発行]		印刷			1冊
1363	棋苑 第17巻第1号	棋園図書		昭和37年1月1日[発行]		印刷			1冊
1364	極東情報 第一四九号	極東情報社		昭和40年12月10日		謄写版		ステープラー留め	1綴
1365	玖城 第三十七号	長崎県立大村中学校報国団		昭和18年3月1日[発行]		印刷			1冊
1366	紅 第60号	岩田醸造サービスセンター内 紫紅会		昭和41年9月1日[発行]		印刷			1冊
1367	経済観測 昭和四十一年一月号	経済学研究会		[昭和41年]		印刷		表紙に「大串兎代夫 難波田生」(ペン)とあり、ステープラー留め	1冊
1368	経済観測 第一一〇号 昭和四十二年一月号	経済学研究会 難波田春夫		[昭和42年]		印刷		ステープラー留め	1冊
1369	経済国策 米券	渡辺薫美先生 述 和合恒男 [編]		昭和8年12月18日[発行]	『百姓』臨時増刊号	印刷			1冊
1370	月刊 新東海 第二巻—新春特大号—	新東海社		昭和35年2月1日[発行]		印刷			1冊
1371	月刊法令	法律新報社		[昭和21年6月1日[発行]~昭和23年1月1日[発行]]	第1輯第1・3・4号・第2輯第1~8号・第3巻第1号	印刷		紐にて合綴	1組
1372	月刊若木 第195号	神社新報社		昭和41年3月1日		印刷			1綴
1373	現代の眼 第六巻 第一〇号	現代評論社		昭和40年10月1日[発行]		印刷			1冊
1374	公論 第六巻第十二号	第一公論社		昭和18年12月1日[発行]		印刷			1冊
1375	公論 第八巻第二号	第一公論社		昭和20年2月1日[発行]		印刷			1冊
1376	国際問題 第四八号	日本国際問題研究所		昭和39年3月15日[発行]		印刷		日本国際問題研究所の入会申込書・年度会費払込書封入	1冊
1377	国体文化 [昭和30年] 二月号	日本国体学会		昭和30年2月1日[発行]		印刷		表紙はずれ	1冊
1378	国民同胞 第44号	社団法人国民文化研究会		昭和40年6月10日		印刷			1綴
1379	国民文学 第四巻 第十二号	人文社		昭和19年12月1日[発行]		印刷		「寄贈」印あり	1冊
1380	コリア評論 第三十二号	コリア評論社		昭和35年4月20日[発行]		印刷			1冊
1381	思想研究 71号	思想研究所		昭和41年3月10日[発行]		印刷			1冊
1382	思想研究 73号	思想研究所		昭和41年6月10日[発行]		印刷			1冊
1383	社会学徒 第十七巻第六号	社会学徒社		昭和18年6月1日[発行]		印刷			1冊
1384	社会文化研究 第四巻第一号 労働運動と労働法—その接点上の問題について—	一橋大学教授 吾妻光俊 [述] 日本社会文化研究所		昭和36年4月15日[発行]		印刷			1冊
1385	社会文化研究 第九巻第三号 日本の労組政策と春斗	公安調査庁第一部第三課長 西川芳雄 日本社会文化研究所		昭和41年3月30日		印刷			1冊
1386	社会文化研究 第九巻第四号 社会と思想と学問	日本社会文化研究所		昭和41年4月10日		印刷			1冊
1387	週刊時事 第8巻第48号	時事通信社		昭和41年12月3日[発行]		印刷		ステープラー留め	1冊
1388	週刊ソヴィエト通信 第四二二号	ソヴィエト文化協会		[昭和21年] 8月17日		印刷			1組
1389	週刊ソヴィエト通信 第五一〇号	ソヴィエト文化協会		[昭和21年] 10月19日		印刷			1組
1390	週刊ソヴィエト通信 第五二二号	ソヴィエト文化協会		[昭和21年] 10月26日		印刷			1組
1391	週報 [新体制早わかり]	内閣情報部		[昭和15年10月7日[印刷発行]]		印刷		表紙はずれ	1冊
1392	詔勅講究所々報 皇学	詔勅講究所		昭和16年1月1日[発行]		印刷			1綴
1393	職場通信 第一巻 第四号	日本社会文化研究所職場通信編集局		昭和35年8月29日		印刷		ステープラー留め、包紙(表「藤沢市 大串兎代夫様」・裏「東京都豊島区 日本社会文化研究所」)あり	1綴
1394	書齋の窓 No. 134	有斐閣		昭和40年7月1日[発行]		印刷			1冊

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
1395	書齋の窓 No. 135	有斐閣		昭和40年9月1日[発行]		印刷			1冊
1396	書齋の窓 第一三七号	有斐閣		昭和40年11月1日[発行]		印刷			1冊
1397	書齋の窓 第一四八号	有斐閣		昭和41年12月1日[発行]		印刷			1冊
1398	新勢力 第八巻第二号	新勢力社		昭和38年2月5日[発行]		印刷			1冊
1399	新勢力 第十巻第七号	新勢力社		昭和40年7月5日[発行]		印刷		表紙に独語書込み(鉛筆)あり	1冊
1400	新勢力 第十巻第十号	新勢力社		昭和40年11月5日[発行]		印刷			1冊
1401	新勢力 第十一巻第二号	新勢力社		昭和41年3月5日[発行]		印刷			1冊
1402	新勢力 第十一巻第三号	新勢力社		昭和41年4月5日[発行]		印刷			1冊
1403	新勢力 第十一巻第六号	新勢力社		昭和41年7月5日[発行]		印刷			1冊
1404	新勢力 第十一巻第七号	新勢力社		昭和41年10月5日[発行]		印刷			1冊
1405	新勢力 第十一巻第九号	新勢力社		昭和41年12月5日[発行]		印刷			1冊
1406	新勢力 第十二巻第一号	新勢力社		昭和42年1月5日[発行]		印刷			1冊
1407	新勢力 第十二巻第二号	新勢力社		昭和42年2月5日[発行]	大串兎代夫「社会革命について」掲載	印刷		「月刊新勢力」封筒(表「藤沢市大串兎代夫殿」)あり	1冊
1408	新潮 第六十二巻第七号	新潮社		昭和40年7月1日[発行]		印刷			1冊
1409	神道宗教 第33号	神道宗教学会		昭和38年11月30日[発行]	大串兎代夫「日本国家の起源一井上光貞博士に問う一」掲載	印刷			1冊
1410	神道宗教 第39号	神道宗教学会		昭和40年6月1日[発行]	大串兎代夫「論壇時評」掲載	印刷			1冊
1411	神道宗教 第42号	神道宗教学会		昭和41年3月30日[発行]		印刷			2冊
1412	神道宗教 第43号	神道宗教学会		昭和41年6月30日[発行]		印刷			1冊
1413	神道宗教 第四十四号	神道宗教学会		昭和41年9月30日[発行]		印刷			1冊
1414	申報月刊 復刊第一巻第三号	申報月刊社		昭和18年3月16日[発行]		印刷		「中華民國三十二年三月十六日」出版とあり	1冊
1415	進路 創刊号	世界文化協会		昭和21年4月30日[発行]		印刷			1冊
1416	政界往来 第二十九巻第十号	政界往来社		昭和38年11月10日[発行]	大串兎代夫「誤った民主主義が及ぼす影響」掲載	印刷			1冊
1417	政界往来 第三十一巻第二号	政界往来社		昭和40年2月1日[発行]	大串兎代夫「政治哲学の貧困」掲載	印刷			1冊
1418	政治科学研究 1966 No. 6	政治科学研究会		昭和41年5月1日[発行]		印刷			1冊
1419	政治科学研究 1966 No. 7	政治科学研究会		昭和41年8月25日[発行]		印刷			1冊
1420	政治科学研究 1966 No. 8	政治科学研究会		昭和41年10月30日[発行]		印刷			1冊
1421	政治科学研究 1966 No. 9	政治科学研究会		昭和41年12月15日[発行]		印刷			1冊
1422	政治科学研究 No. 15	政治科学研究会		昭和43年9月25日[発行]		印刷			1冊
1423	政治公論 第四号	政治公論社		昭和28年10月5日[発行]		印刷			1冊
1424	政治刷新 第一巻第十号	政治刷新国民運動本部		昭和41年11月25日[発行]		印刷			1綴
1425	政治刷新 第一巻第十二号	政治刷新国民運動本部		昭和41年12月25日[発行]		印刷			1綴
1426	世界週報 第廿七巻第十八・十九・二十合併号	時事通信社		昭和21年5月25日[発行]	憲法特輯号	印刷			1冊
1427	世界と日本 第六巻第四号	新日本協議会出版部		昭和41年5月1日[印刷発行]		印刷			1冊
1428	世界と日本 第六巻第五号	新日本協議会出版部		昭和41年6月1日[印刷発行]		印刷			1冊
1429	世界と日本 第六巻第七号	新日本協議会出版部		昭和41年8月1日[印刷発行]		印刷			1冊
1430	世界と日本 第六巻第九号	新日本協議会出版部		昭和41年10月1日[印刷発行]		印刷			1冊
1431	世界と日本 第六巻第十号	新日本協議会出版部		昭和41年11月1日[発行]		印刷			1冊
1432	世界と日本 第六巻第十一号	新日本協議会出版部		昭和41年12月1日[発行]		印刷			1冊
1433	世界と日本 第七巻第四号	新日本協議会出版部		昭和42年5月1日[印刷発行]		印刷			1冊
1434	世界と日本 第七巻第七号	新日本協議会出版部		昭和42年8月1日[印刷発行]		印刷			1冊
1435	世連研究第18号 国連軍	世界連邦建設同盟		1965年4月1日[発行]	小森義峯「日本国憲法第九条と国連軍」掲載	印刷		表紙に「謹呈 大串兎代夫先生 小森義峯」(ペン)とあり	1冊
1436	洗心 第三号	乃木神社崇敬会		昭和41年7月1日[発行]		印刷			1冊
1437	洗心 第四号	乃木神社崇敬会		昭和41年10月1日[発行]		印刷			1冊

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
1438	騒友 第2号	騒友社		昭和39年9月15日[発行]		印刷		ステープラー留め。357～373・1438・1440・1442～1460は封筒(表「騒友」)一括。1438・1440・1442～1458は一括	1綴
1439	騒友 第4号	騒友社		昭和39年11月15日[発行]		印刷		ステープラー留め。1439～1445・1448は一括	2綴
1440	騒友 第6号	騒友社		昭和40年1月15日[発行]		印刷		ステープラー留め。357～373・1438・1440・1442～1460は封筒(表「騒友」)一括。1438・1440・1442～1458は一括。1439～1445・1448は一括	2綴
1441	騒友 第7号	騒友社		昭和40年2月15日[発行]		印刷		ステープラー留め。1439～1445・1448は一括	1綴
1442	騒友 第8号	騒友社		昭和40年3月15日[発行]		印刷		ステープラー留め。357～373・1438・1440・1442～1460は封筒(表「騒友」)一括。1438・1440・1442～1458は一括。1439～1445・1448は一括	2綴
1443	騒友 第10号	騒友社		昭和40年5月15日[発行]		印刷		ステープラー留め。357～373・1438・1440・1442～1460は封筒(表「騒友」)一括。1438・1440・1442～1458は一括。1439～1445・1448は一括	2綴
1444	騒友 第11号	騒友社		昭和40年6月15日[発行]		印刷		ステープラー留め。357～373・1438・1440・1442～1460は封筒(表「騒友」)一括。1438・1440・1442～1458は一括。1439～1445・1448は一括	2綴
1445	騒友 第12号	騒友社		昭和40年7月15日[発行]		印刷		ステープラー留め。357～373・1438・1440・1442～1460は封筒(表「騒友」)一括。1438・1440・1442～1458は一括。1439～1445・1448は一括	2綴
1446	騒友 第13号	騒友社		昭和40年8月15日[発行]		印刷		ステープラー留め。357～373・1438・1440・1442～1460は封筒(表「騒友」)一括。1438・1440・1442～1458は一括	1綴
1447	騒友 第14号	騒友社		昭和40年9月15日[発行]		印刷		ステープラー留め。357～373・1438・1440・1442～1460は封筒(表「騒友」)一括。1438・1440・1442～1458は一括	1綴
1448	騒友 第15号	騒友社		昭和40年10月15日[発行]		印刷		ステープラー留め。357～373・1438・1440・1442～1460は封筒(表「騒友」)一括。1438・1440・1442～1458は一括。1439～1445・1448は一括	2綴
1449	騒友 第17号	騒友社		昭和40年12月15日[発行]		印刷		ステープラー留め。357～373・1438・1440・1442～1460は封筒(表「騒友」)一括。1438・1440・1442～1458は一括	1綴
1450	騒友 第18号	騒友社		昭和41年1月15日[発行]		印刷		ステープラー留め。357～373・1438・1440・1442～1460は封筒(表「騒友」)一括。1438・1440・1442～1458は一括	3綴
1451	騒友 第19号	騒友社		昭和41年2月15日[発行]		印刷		ステープラー留め。357～373・1438・1440・1442～1460は封筒(表「騒友」)一括。1438・1440・1442～1458は一括	1綴
1452	騒友 第22号	騒友社		昭和41年5月15日[発行]		印刷		ステープラー留め。357～373・1438・1440・1442～1460は封筒(表「騒友」)一括。1438・1440・1442～1458は一括	1綴
1453	騒友 第24号	騒友社		昭和41年7月15日[発行]		印刷		ステープラー留め。357～373・1438・1440・1442～1460は封筒(表「騒友」)一括。1438・1440・1442～1458は一括	1綴
1454	騒友 第25号	騒友社		昭和41年8月15日[発行]		印刷		ステープラー留め。357～373・1438・1440・1442～1460は封筒(表「騒友」)一括。1438・1440・1442～1458は一括	1綴
1455	騒友 第26号	騒友社		昭和41年9月15日[発行]		印刷		ステープラー留め。357～373・1438・1440・1442～1460は封筒(表「騒友」)一括。1438・1440・1442～1458は一括	1綴
1456	騒友 第27号	騒友社		昭和41年10月15日[発行]		印刷		ステープラー留め。357～373・1438・1440・1442～1460は封筒(表「騒友」)一括。1438・1440・1442～1458は一括	1綴
1457	騒友 第28号	騒友社		昭和41年11月15日[発行]		印刷		ステープラー留め。357～373・1438・1440・1442～1460は封筒(表「騒友」)一括。1438・1440・1442～1458は一括	1綴
1458	騒友 第29号	騒友社		昭和41年12月15日[発行]		印刷		ステープラー留め。357～373・1438・1440・1442～1460は封筒(表「騒友」)一括。1438・1440・1442～1458は一括	1綴
1459	騒友 第32号	騒友社		昭和42年3月15日[発行]		印刷		ステープラー留め、1459・1462は同折	1綴
1460	騒友 第33号	騒友社		昭和42年4月15日[発行]		印刷		ステープラー留め、「騒友社」封筒(表「藤沢市 大串兎代夫様」)あり、1460・1461・1463は一括	1綴

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
1461	騒友 第34号	騒友社		昭和42年5月15日[発行]		印刷		ステープラー留め、「騒友社」封筒(表「藤沢市 大串兎代夫様」)あり、1460・1461・1463は一括	1綴
1462	騒友 第35号	騒友社		昭和42年6月15日[発行]		印刷		ステープラー留め、1459・1462は同折	1綴
1463	騒友 第51号	騒友社		昭和43年10月15日[発行]		印刷		ステープラー留め、「騒友社」封筒(表「藤沢市 大串兎代夫様」)あり、1460・1461・1463は一括	1綴
1464	騒友 第39号	騒友社		昭和42年10月15日[発行]		印刷		ステープラー留め	1綴
1465	大法輪 第三十一卷第四号	大法輪閣		昭和39年4月1日[発行]	G・V・デュルクハイム(大串兎代夫訳)「腹「Hara」一人間の中心的なもの」掲載	印刷			3冊
1466	中央公論 第七十九年第五号	中央公論社		昭和39年5月1日[発行]		印刷			1冊
1467	中央公論 第八十年第七号	中央公論社		昭和40年7月1日[発行]		印刷			1冊
1468	中央公論 第八十一年第三号	中央公論社		昭和41年3月1日[発行]		印刷			1冊
1469	別冊中央公論 第四卷第三号 経営問題	中央公論社		昭和40年9月25日[発行]		印刷			1冊
1470	展望 第八二号	筑摩書房		昭和40年10月1日[発行]		印刷			1冊
1471	ドイツ 第四卷第十九号	日独出版協会		昭和18年10月1日[発行]		印刷			1冊
1472	ドイツ短信 第一号(通巻第一三三号)	ドイツ事情研究会[編]ドイツ大使館		昭和42年1月1日[発行]		印刷		ステープラー留め	1綴
1473	同盟世界週報 第廿六卷第十九号	同盟通信社		昭和20年8月25日[発行]		印刷			1冊
1474	図書 第一七四号	岩波書店		昭和39年2月1日[発行]		印刷			1冊
1475	図書 第一八二号	岩波書店		昭和39年10月1日[発行]		印刷			1冊
1476	図書 第一八四号	岩波書店		昭和39年12月1日[発行]		印刷			1冊
1477	図書 第一八五号	岩波書店		昭和40年1月1日[発行]		印刷			1冊
1478	図書 第一八六号	岩波書店		昭和40年2月1日[発行]		印刷		423~426・849・1327・1478・1609~1611・1633・1699・1700・1807・1808・1966・1967は封筒(表「藤沢市 大串兎代夫様」「東京都新宿区 躍進社」)一括	2冊
1479	図書 第一八八号	岩波書店		昭和40年4月1日[発行]		印刷			2冊
1480	図書 第一八九号	岩波書店		昭和40年5月1日[発行]		印刷			1冊
1481	図書 第一九〇号	岩波書店		昭和40年6月1日[発行]		印刷			1冊
1482	図書 第一九一号	岩波書店		昭和40年7月1日[発行]		印刷			1冊
1483	図書 第一九二号	岩波書店		昭和40年8月1日[発行]		印刷			1冊
1484	図書 第一九五号	岩波書店		昭和40年11月1日[発行]		印刷			1冊
1485	図書 第一九九号	岩波書店		昭和41年3月1日[発行]		印刷			1冊
1486	図書 第二〇一号	岩波書店		昭和41年5月1日[発行]		印刷			1冊
1487	図書 第二〇八号	岩波書店		昭和41年12月1日[発行]		印刷			1冊
1488	図書 第二一〇号	岩波書店		昭和42年2月1日[発行]		印刷			1冊
1489	図書 第二一二号	岩波書店		昭和42年4月1日[発行]		印刷			1冊
1490	時の課題 第九卷第二号	時事問題研究所		昭和40年2月1日[発行]		印刷			1冊
1491	長崎県人 第十三卷第一号	長崎県人社		昭和40年1月1日[発行]		印刷			1冊
1492	流れ 第十卷第四号	「流れ」社		昭和37年4月8日[発行]		印刷			1冊
1493	流れ 第十一卷第一号	「流れ」社		昭和38年1月8日[発行]		印刷			1冊
1494	流れ 第十一卷第三号	「流れ」社		昭和38年3月8日[発行]		印刷			1冊
1495	流れ 第十一卷第七号	「流れ」社		昭和38年7月8日[発行]	大串兎代夫「聖徳太子と創価学会」掲載	印刷			1冊
1496	流れ 第十一卷第十号	「流れ」社		昭和38年11月8日[発行]	大串兎代夫「ユダヤ的革命思想」掲載	印刷			1冊
1497	流れ 第十二卷第八号	「流れ」社		昭和39年8月8日[発行]		印刷			1冊
1498	流れ 第十二卷第十号	「流れ」社		昭和39年11月8日[発行]	大串兎代夫「教育勅語について」掲載	印刷			1冊

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
1499	流れ 第十三巻第一号	「流れ」社		昭和40年1月8日[発行]		印刷			1冊
1500	流れ 第十三巻第六号	「流れ」社		昭和40年6月8日[発行]		印刷			1冊
1501	流れ 第十三巻第七号	「流れ」社		昭和40年7月8日[発行]		印刷			1冊
1502	流れ 第十三巻第八号	「流れ」社		昭和40年8月8日[発行]		印刷			1冊
1503	流れ 第十三巻第十号	「流れ」社		昭和40年10月8日[発行]		印刷			1冊
1504	流れ 第十三巻第十一号	「流れ」社		昭和40年11月8日[発行]	大串兎代夫「憲法以前」掲載	印刷			4冊
1505	流れ 第十三巻第十二号	「流れ」社		昭和40年12月8日[発行]	大串兎代夫「憲法以前」掲載	印刷			3冊
1506	流れ 第十四巻第一号	「流れ」社		昭和41年1月8日[発行]		印刷			1冊
1507	流れ 第十四巻第六号	「流れ」社		昭和41年6月8日[発行]		印刷			1冊
1508	流れ 第十四巻第七号	「流れ」社		昭和41年7月8日[発行]		印刷			1冊
1509	流れ 第十四巻第九号	「流れ」社		昭和41年9月8日[発行]		印刷			1冊
1510	流れ 第十四巻第十号	「流れ」社		昭和41年10月8日[発行]		印刷			1冊
1511	流れ 第十四巻第十一号	「流れ」社		昭和41年11月8日[発行]		印刷			1冊
1512	流れ 第十四巻第十二号	「流れ」社		昭和41年12月8日[発行]		印刷			1冊
1513	西浜だより 第一号	大串兎代夫		昭和39年10月25日		印刷		ステープラー留め	8冊
1514	西浜だより 第二号	大串兎代夫		昭和41年1月31日[発行]		印刷		封筒あり	4冊
1515	日独文化 第五巻第一号	財団法人日独文化協会 伯林日本学会 [編]		昭和20年2月1日[発行]		印刷		破損甚大	1冊
1516	日本 第八巻第九号	講談社		昭和40年9月1日[発行]		印刷			1冊
1517	日本 第十六巻第九号	日本学協会		昭和41年9月1日[発行]		印刷			1冊
1518	日本及日本人 第1837号	日本新聞社		昭和27年2月1日[発行]	大串兎代夫「精神の流れ」掲載	印刷			1冊
1519	日本週報 臨時増刊 二一四号	日本週報社		昭和27年7月20日[発行]		印刷		ステープラー留め	1冊
1520	日本週報 臨時増刊 二二二号	日本週報社		昭和27年9月20日[発行]		印刷		ステープラー留め。破損あり	1冊
1521	日本政治資料 随時刊通巻78号	日本政治資料調査所		[1964~65年]		印刷			1冊
1522	日本政治資料 随時刊通巻79号	日本政治資料調査所		[昭和40年]		印刷			1冊
1523	日本政治資料 随時刊通巻80号 (国際報)	日本政治資料調査所		[昭和40年]		印刷			1冊
1524	日本政治資料 随時刊通巻86号	日本政治資料調査所		[昭和40年]		印刷			1冊
1525	日本政治資料 随時刊通巻88号 (国内報)	日本政治資料調査所		[昭和40年]		印刷			1冊
1526	日本政治資料 随時刊通巻92号	日本政治資料調査所		[昭和40年]		印刷			1冊
1527	日本政治資料 随時刊通巻94号	日本政治資料調査所		[昭和40年]		印刷			1冊
1528	日本政治資料 随時刊通巻104号	日本政治資料調査所		[昭和41年]		印刷		ステープラー留め	1冊
1529	日本文化第五十四冊 帝国憲法と臣民の翼賛	大串兎代夫 日本文化協会		昭和15年4月1日[発行]		印刷			2冊
1530	人間の真理 第十二巻第八号	明玄書房		昭和40年8月1日[発行]		印刷		表紙「贈呈 伊東正弼」(ペン)あり	1冊
1531	のとす 第一輯	大村健五 [編] 文星堂		昭和14年12月15日[発行]	文芸同人雑誌	印刷			1冊
1532	バルカノン 第19・20輯	火の会		昭和39年4月29日[発行]		印刷			1冊
1533	バルカノン 第21輯	火の会		昭和40年5月3日[発行]	大串兎代夫「新憲法亡国論」掲載	印刷			2冊
1534	判例タイムズ 第十三巻第九号	判例タイムズ社		昭和37年8月15日[発行]		印刷			1冊
1535	不二 第十九巻第十号	大東塾・不二歌道会		昭和39年11月25日[発行]		印刷			1冊
1536	不二 第二十巻第二号	大東塾・不二歌道会		昭和40年2月25日[発行]		印刷			1冊
1537	不二 第二十巻第三号	大東塾・不二歌道会		昭和40年3月25日[発行]		印刷			1冊
1538	不二 第二〇巻第六号	大東塾・不二歌道会		昭和40年6月25日[発行]		印刷			1冊
1539	不二 第二〇巻第七号	大東塾・不二歌道会		昭和40年7月25日[発行]		印刷			1冊
1540	不二 第二〇巻第九号	大東塾・不二歌道会		昭和40年9月25日[発行]	大串兎代夫「憲法問題の根本」掲載	印刷			2冊

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
1541	不二 第二十巻第十号	大東塾・不二歌道会		昭和40年10月25日[発行]		印刷			1冊
1542	不二 第二〇巻第十一号	大東塾・不二歌道会		昭和40年11月25日[発行]		印刷			1冊
1543	不二 第二一巻第二号	大東塾・不二歌道会		昭和41年2月25日[発行]		印刷		1543・1544は一括	1冊
1544	不二 第二一巻第三号	大東塾・不二歌道会		昭和41年3月25日[発行]		印刷		1543・1544は一括	1冊
1545	不二 第二一巻第四号	大東塾・不二歌道会		昭和41年4月25日[発行]		印刷			1冊
1546	不二 第二一巻第五号	大東塾・不二歌道会		昭和41年6月25日[発行]		印刷			1冊
1547	不二 第二一巻第六号	大東塾・不二歌道会		昭和41年7月25日[発行]		印刷			1冊
1548	不二 第二一巻第九号	大東塾・不二歌道会		昭和41年10月25日[発行]		印刷			1冊
1549	不二 第二一巻第十号	大東塾・不二歌道会		昭和41年11月25日[発行]		印刷			1冊
1550	不二 第二一巻第十一号	大東塾・不二歌道会		昭和41年12月25日[発行]		印刷			1冊
1551	仏教文化 第二巻第六号	東京帝国大学 仏教青年会 [編] 財団 法人信道会館 [発行]		昭和21年6月1日[発行]		印刷			1冊
1552	文芸春秋 第二十二巻第十一号	文芸春秋社		昭和19年11月1日[発行]		印刷			1冊
1553	文藝春秋 第四十二巻第六号	文藝春秋新社		昭和39年6月1日[発行]		印刷			1冊
1554	法学志林 第三十六巻第六号	法政大学		昭和9年6月1日[発行]		印刷			1冊
1555	法学セミナー 通巻一二二号	日本評論社		昭和41年5月1日[発行]		印刷			1冊
1556	邦人 自第二巻第一号至第二巻第十二号	邦人社		[昭和11年]	大串兎代夫「日本憲法学」(二)～(十一)掲載	印刷		合製本	1冊
1557	法律時報 第34巻第4号	日本評論新社		昭和37年4月1日[発行]		印刷			1冊
1558	法曹界 第97号	法曹公論社		昭和40年4月1日[発行]		印刷			1冊
1559	法律新報 第七二九号	法律新報社		昭和21年6月1日[発行]		印刷			1冊
1560	法律新報 第七三十一号	法律新報社		昭和21年8月1日[発行]		印刷			3冊
1561	満洲事情案内所報告(45) 満洲の楽	満洲事情案内所		昭和13年7月8日[発行]		印刷		「康徳五年七月八日」発行とあり	1冊
1562	道の友 号外	道友社		昭和27年9月25日[発行]	「大東塾十四烈士「自刃現場」返還署名要請活動に就て」	印刷			1枚
1563	道の友 第一八一号	大東塾		昭和39年11月10日[発行]		印刷		53・119・1302・1310・1563・1725・1799・1818～1821・1927・1933は封筒(表「神奈川県藤沢市大串兎代夫様」・裏「東京都渋谷区 明治神宮崇敬会」)一括	1綴
1564	民衆大学	大衆法律文化社		[昭和21年10月1日[発行]～昭和23年6月1日[発行]]	第1巻第1号～第3巻第4号	印刷		紐一括、破損あり	1組
1565	民主公論 第十巻第一号	民主公論社		昭和34年1月10日[発行]		印刷			1冊
1566	民族自立 第二十八号	新国防経済研究所		昭和30年2月25日[発行]		印刷		ステープラー留め	1冊
1567	養正時評 No. 268, 269	立憲養正会		昭和40年3月10日[発行]		印刷		合併号、頁欠落あり、書込み(鉛筆)あり	1綴
1568	養正時評 No. 288	立憲養正会出版部		昭和41年12月25日[発行]		印刷			1綴
1569	代々木 第七巻第一号	明治神宮社務所 明治神宮崇敬会		昭和41年1月1日[発行]		印刷		ステープラー留め。1569～1575は「代々木」紙製ファイル一括	1冊
1570	代々木 第七巻第二号	明治神宮社務所 明治神宮崇敬会		昭和41年2月1日[発行]		印刷		ステープラー留め。1569～1575は「代々木」紙製ファイル一括	1冊
1571	代々木 第七巻第三号	明治神宮社務所 明治神宮崇敬会		昭和41年3月1日[発行]		印刷		ステープラー留め。1569～1575は「代々木」紙製ファイル一括	1冊
1572	代々木 第七巻第四号	明治神宮社務所 明治神宮崇敬会		昭和41年4月1日[発行]		印刷		ステープラー留め。1569～1575は「代々木」紙製ファイル一括	1冊
1573	代々木 第七巻第五号	明治神宮社務所 明治神宮崇敬会		昭和41年5月1日[発行]		印刷		ステープラー留め。1569～1575は「代々木」紙製ファイル一括	1冊
1574	代々木 第七巻第六号	明治神宮社務所 明治神宮崇敬会		昭和41年6月1日[発行]		印刷		ステープラー留め。1569～1575は「代々木」紙製ファイル一括	1冊
1575	代々木 第七巻第十二号	明治神宮社務所 明治神宮崇敬会		昭和41年12月1日[発行]		印刷		ステープラー留め。1569～1575は「代々木」紙製ファイル一括	3冊

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
1576	代々木 第八巻第一号	明治神宮社務所 明治神宮崇敬会		昭和42年1月1日[発行]		印刷		ステープラー留め	1綴
1577	緑水 第十一号	緑水会		昭和41年4月17日[発行]		印刷			1冊
1578	論争ジャーナル 第一巻第一号	株式会社育誠社		昭和42年1月5日[発行]		印刷	冊子		1冊
20. 新聞									
20-1. 切抜・スクラップ									
1579	SCRAP BOOK	[大串兎代夫]		[昭和15年前後]	大政翼賛会関係の記事、自筆の評論など	印刷、ペン		「アトラススクラップブック」	1冊
1580	[スクラップファイル]	[大串兎代夫]		[昭和16~20年]	黒田覚「大串兎代夫著 現代国家学説」(『毎日新聞』昭和16年8月15日付掲載カ)ほか	印刷、ペン			1冊
1581	青史に燦 サイパン邦人の最期	毎日新聞		昭和19年8月20日	新聞切抜	印刷			1枚
1582	朝日新聞	[朝日新聞社]		昭和36年5月23日		印刷		封筒(表「神奈川県藤沢市 大串兎代夫様」・裏「熊本市 佐々亀雄」)あり	1枚
1583	伊セ湾切ぬき	[大串兎代夫]		[昭和37~38年]	毎日新聞連載「伊勢湾」の切抜	印刷		封筒(表「伊セ湾切ぬき」)一括	1組
1584	新聞切抜	大臣官房広報主任官室(印) [真明]		昭和40年3月29・30日(月・火)	道德教育関係ほか	印刷、鉛筆、スタンプ		紐綴じ	1冊
1585	新聞切抜	大臣官房広報主任官室(印) [真明]		昭和40年3月31日(水木)	ILO関係ほか	印刷、鉛筆、スタンプ、ペン		ステープラー留め	1冊
1586	新聞切抜	大臣官房広報主任官室□ [〇に「真」]		昭和40年4月21・22日(水木)	ILO関係ほか	印刷、鉛筆、スタンプ、ペン		ステープラー留め	1冊
1587	新聞切抜	大臣官房広報主任官室(印) [真明]		昭和40年4月26・27日(月火)	教育課程関係ほか	印刷、鉛筆、スタンプ、ペン		ステープラー留め	1冊
1588	新聞切抜	大臣官房広報主任官室(印) [真明]		昭和40年4月30日(夕)(金) 5月1日(朝)(土)	歴史教科書関係ほか	印刷、鉛筆、スタンプ、ペン		ステープラー留め	1冊
1589	新聞切抜	大臣官房広報主任官室(印) [真明]		昭和40年5月12・3・4日(土日月火)	大学経営関係ほか	印刷、鉛筆、スタンプ、ペン		ステープラー留め	1冊
1590	新聞切抜	大臣官房広報主任官室(印) [真明]		昭和40年5月6・7日(木金)	日教組大会関係ほか	印刷、鉛筆、スタンプ、ペン		ステープラー留め	1冊
1591	新聞切抜	大臣官房広報主任官室(印) [真明]		昭和40年5月7・8日(金・土)	ILO関係ほか	印刷、ペン、スタンプ、鉛筆		ステープラー留め	1冊
1592	新聞切抜	大臣官房広報主任官室(印) [真明]		昭和40年5月17・18日(月火)	ILO関係ほか	印刷、鉛筆、スタンプ、ペン		ステープラー留め	1冊
1593	新聞切抜	大臣官房広報主任官室(印) [木口]		昭和40年5月[・]6月31・1日(月火)	皆既日食関係ほか	印刷、ペン、スタンプ、鉛筆		ステープラー留め	1冊
1594	新聞切抜	大臣官房広報主任官室(印) [判読不能]		昭和40年6月11・12日(金土)	ILO関係ほか	印刷、ペン、スタンプ、鉛筆		ステープラー留め	1冊
1595	新聞切抜	大臣官房広報主任官室(印) [真明]		昭和40年6月12・13・14日(土日月)	ILO関係ほか	印刷、ペン、スタンプ、鉛筆		ステープラー留め	1冊
1596	[新聞切抜]			[1966年]	「Tagesspiegel Besuch aus Japan」ほか	印刷、ペン		クリップ留め	1組
20-2. 新聞原紙									
1597	The New York Times.	The New York Times Company.		1966年9月25日	「WEEKLY REVIEW」	印刷		1597~1599は同折	1部
1598	The New York Times.	The New York Times Company.		1966年10月2日	「WEEKLY REVIEW」	印刷		1597~1599は同折	1部
1599	The New York Times.	The New York Times Company.		1966年10月9日	「WEEKLY REVIEW」	印刷		1597~1599は同折	1部
1600	The New York Times.	The New York Times Company.		1966年10月16日	「WEEKLY REVIEW」	印刷			1部
1601	朝日新聞	[朝日新聞社]		昭和28年2月1日		印刷		3~6面	1部
1602	朝日新聞 夕刊	朝日新聞東京本社		昭和32年8月26日		印刷			1部
1603	朝日新聞	朝日新聞東京本社		昭和32年8月27日		印刷			1部

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
1604	朝日新聞	朝日新聞東京本社		昭和32年8月29日		印刷			1部
1605	朝日新聞 夕刊	朝日新聞東京本社		昭和32年8月30日		印刷			1部
1606	朝日新聞	朝日新聞東京本社		昭和32年8月31日		印刷			1部
1607	朝日新聞	朝日新聞社		昭和39年1月1日		印刷		19・20・25・26面	1枚
1608	昭和日日新聞	昭和日日新聞社		昭和39年9月2日		印刷			1枚
1609	有明新聞 第24号	有明道場		昭和39年1月23日[発行]		印刷		423～426・849・1327・1478・1609～1611・1633・1699・1700・1807・1808・1966・1967は封筒(表「藤沢市 大串兎代夫様」 「東京都新宿区 躍進社」)一括	1綴
1610	有明新聞 第25号	有明道場		昭和39年4月23日[発行]		印刷		423～426・849・1327・1478・1609～1611・1633・1699・1700・1807・1808・1966・1967は封筒(表「藤沢市 大串兎代夫様」 「東京都新宿区 躍進社」)一括	1綴
1611	有明新聞 第26号	有明道場		昭和39年7月23日[発行]		印刷		423～426・849・1327・1478・1609～1611・1633・1699・1700・1807・1808・1966・1967は封筒(表「藤沢市 大串兎代夫様」 「東京都新宿区 躍進社」)一括	1綴
1612	有明新聞 第27号	有明道場		昭和39年10月23日[発行]		印刷			1綴
1613	有明新聞 第29号	有明道場		昭和40年4月23日[発行]		印刷			1綴
1614	有明新聞 第30号	有明道場		昭和40年7月23日[発行]		印刷			1綴
1615	有明新聞 第32号	有明道場		昭和41年2月23日[発行]		印刷			1綴
1616	有明新聞 第33号	有明道場		昭和41年5月23日[発行]		印刷			1綴
1617	護王 第21号	護王神社社務所		昭和40年5月1日		印刷			1綴
1618	旬報国際事情 第306号	国際事情懇談会		昭和41年12月5日		印刷			1綴
1619	国際ニュース 第156号	国際問題研究協会		昭和35年10月6日[発行]		印刷		包紙(表「藤沢市 大串兎代夫様」・裏「東京都千代田区 国際問題研究協会」)あり	1部
1620	維新 第191号	国民総連合中央事務局		昭和41年8月15日		印刷			1綴
1621	維新 第195号	国民総連合中央事務局		昭和41年12月15日		印刷		封筒(表「藤沢市 大串兎代夫様」・裏「東京都港区 国民総連合」)あり	1綴
1622	神社新報 第八百八十七号	神社新報社		昭和40年1月2日		印刷		1622・1623は一括	1綴
1623	神社新報 第九百八十三号	神社新報社		昭和42年1月7日		印刷		包紙(表「藤沢市 大串兎代夫殿 寄贈 東京都渋谷局区内 神社新報社」)あり。1622・1623は一括	1綴
1624	神社新報 第九百十五号	神社新報社		昭和40年8月7日		印刷		包紙(表「藤沢市 大串兎代夫殿 寄贈 東京都渋谷局区内 神社新報社」)あり	1綴
1625	新日協 第9巻6号	新日本協議会		昭和41年6月1日[発行]		印刷			1部
1626	新日本春秋 第338号	新日本春秋社		昭和42年1月1日		印刷			1部
1627	世界学生新聞 第421号	全国大学原理研究会新聞局		1983年7月1日		印刷			2部
1628	全日本婦人ニュース 第65号	全日本婦人連盟新聞部		昭和41年11月20日[発行]		印刷			1綴
1629	内外タイムス	〔内外タイムス社〕		昭和30年7月24日		印刷		3～6面	1枚
1630	旬刊 新法曹 第11号	法曹公論社		昭和41年12月21日		印刷		1630～1632は封筒(表「藤沢市 大串兎代夫先生 東京都千代田区 株式会社 法曹公論社」)一括	1枚
1631	旬刊 新法曹 第12号	法曹公論社		昭和42年1月1日		印刷		1630～1632は封筒(表「藤沢市 大串兎代夫先生 東京都千代田区 株式会社 法曹公論社」)一括	1綴
1632	払込票 払込通知票	法曹公論社		[昭和42年]		印刷		1630～1632は封筒(表「藤沢市 大串兎代夫先生 東京都千代田区 株式会社 法曹公論社」)一括	1枚
1633	幽頭 第612号	幽頭社		昭和38年10月1日		印刷		423～426・849・1327・1478・1609～1611・1633・1699・1700・1807・1808・1966・1967は封筒(表「藤沢市 大串兎代夫様」 「東京都新宿区 躍進社」)一括	1綴
21. 書籍類									
21-1. 大串作成書籍類									
1634	教学叢書第十二輯 大東亜戦争の意義	大串兎代夫 [著]、教学局 [発行]		昭和17年3月30日[発行]		印刷			1冊
1635	国体学	〔大串兎代夫〕		[昭和10年代]		墨書、謄写版、ペン	「国民精神文化研究所月報用原稿用紙」	謄写版印刷資料や・「国民精神文化研究所月報用原稿用紙」への手書き資料など複数の媒体からなるほか	1冊

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
1636	国体学 (国家学)	[大串兎代夫]		[昭和10年代]		謄写版		ステープラー留め	1冊
1637	国家学講義案	大串兎代夫		[昭和戦後期]		印刷		ステープラー留め	1冊
1638	国家権威の研究	大串兎代夫		[昭和16年]		印刷、鉛筆		校正刷	1綴
1639	[『国家権威の研究』校正刷]	[大串兎代夫]		[昭和16年]	「第一章 用語としての権威」、『国家権威の研究』校正刷カ	ペン、鉛筆、印刷、スタンプ	「賢文館用箋」	紐綴じ。校正刷と原稿で構成された資料	1綴
1640	第五章 国家の本質と国家権威 第六章 社会存在と社会認識	[大串兎代夫]		[昭和16年]	『国家権威の研究』の校正刷	印刷、ペン、鉛筆		紐綴じ。1639の校正刷に引き続く頁	1綴
1641	[校正刷]	[大串兎代夫]		[昭和16年]	『国家権威の研究』校正刷カ	印刷、ペン、鉛筆、スタンプ		ステープラー留め	1組
1642	国家権威の研究	[大串兎代夫]		[昭和16年]		印刷、スタンプ、ペン		校正刷、ステープラー留め	1綴
1643	国家権威の研究	[大串兎代夫]		[昭和戦後期]		印刷		表紙はずれ	1冊
1644	最近に於ける国家学説	[大串兎代夫]		[昭和10年]		印刷、鉛筆		校正刷、クリップ留め	1綴
1645	最近に於ける国家学説	[大串兎代夫]		[昭和10年]		印刷、ペン		校正刷	1組
1646	商工省職員訓練叢書 第一輯	商工協会		[昭和18年]	大串兎代夫述「日本精神」収録	印刷			1冊
1647	独逸哲学博士 藤沢親雄遺稿 創造的日本学 附 諸家追悼・随想録	小見山登 [編] 学術団体日本文化連合会		昭和39年2月11日 [発行]	大串兎代夫「日本国家学の像」掲載	印刷			1冊
1648	邦人叢書1 天皇機関説を論ず	大串兎代夫著 邦人社 [発行]		昭和10年4月18日 [発行]		印刷			1冊
1649	法治主義の問題	[大串兎代夫]		[昭和9年]		印刷、ペン		校正刷、ステープラー留め	1綴
1650	法治主義の問題	大串兎代夫		[昭和9年]		印刷、ペン、スタンプ		校正刷、ステープラー留め、ピン留め	1組
1651	法治主義の問題	[大串兎代夫]		[昭和9年]		印刷、ペン、鉛筆、スタンプ		紐綴じ。校正刷	1綴
21-2. 大串訳書籍類									
1652	(講演) 独逸人種立法の概要	オツトロー・ケールロイター 大串兎代夫訳		[昭和戦前期]		印刷			1冊
1653	法典論争	サヴィニー 大串兎代夫訳 世界文学社		昭和24年6月1日 [発行]		印刷			1冊
21-3. その他書籍類									
1654	Amerikanischer Plan Sowjetvorschläge			[1960年代]	対照表	タイプ			1枚
1655	Deutscher Dienst			1943年9月10日		印刷		1655・1656はステープラー留め	1綴
1656	Heimat-Nachrichten der NSDAP.			1943年9月9日		印刷		1655・1656はステープラー留め	1綴
1657	Fischer Bücherei Gesamtverzeichnis Frühjahr	Eberhard Albert Universitätsbuchhandlung		1966年夏		印刷		ステープラー留め	1冊
1658	Gesamtverzeichnis bis September '66	Deutscher Taschenbuch Verlag		[1966年]		印刷		ステープラー留め	1冊
1659	JAPANESE NOTE -5-			[昭和20年代]		タイプ			1枚
1660	Konvention zum Schutze der Menschenrechte und Grundfreiheiten			[1960年代]		タイプ			1枚
1661	MARBURY v. MADISON					タイプ		1~3・5~8頁、覚書(ペン)あり、クリップ留め、綴じはずれ・破損あり	1綴
1662	Nationalsozialistische Erziehung	Professor Dr. Ernst Aried Industrieberlag Spaeth & Linde		1936年2月24日		印刷		紐綴じ	1冊
1663	Ordnung der Wirtschaft			[1936年]		印刷		破損あり	1冊
1664	Verlautbarung der Pressestelle des Bundesverfassungsgerichts			[1960年代]		印刷		ステープラー留め、書込み(鉛筆)あり。1666~1668は「BUNDESVERFASSUNGSGERICHT」ファイル一括	1綴
1665	Verlautbarung der Pressestelle des Bundesverfassungsgerichts (Kurzfassung)			[1960年代]		印刷		ステープラー留め、書込み(鉛筆)あり。1666~1668は「BUNDESVERFASSUNGSGERICHT」ファイル一括	1綴

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
1666	IM NAMEN DES VOLKES	BUNDESVERFASSUNGSGERICHT		1966年8月5日		印刷		ステープラー留め。1666～1668は「BUNDESVERFASSUNGSGERICHT」ファイル一括	1綴
1667	明け行く道	京都市左京区岡本政寿謹述		昭和42年2月25日		印刷			1冊
1668	〔意見書〕			〔昭和10年代〕	「蛮夷の擾奪」について	謄写版		2頁	1枚
1669	〔意見書〕			〔昭和10年代〕	国体明徴のための学問の刷新	謄写版		ステープラー留め	1綴
1670	〔意見書〕			〔昭和10年代〕	最高政治指導部・幕僚機関について	タイプ		前後欠	1枚
1671	伊太利共和国新憲法	調査局第四課		昭和23年8月		印刷		ステープラー留め	1冊
1672	(一) 中共関係の動き (二) ソ連関係の動き (三) その他			〔昭和32年〕		印刷		表紙はずれ、ステープラー留め	1冊
1673	岩波六法全書 岩波基本六法 附録 (昭和三十七年版) 改正刑法準備草案	岩波書店		昭和37年3月10日〔発行〕		印刷		ステープラー留め	1冊
1674	解説 新世界地図帖 再版	国民図書刊行会編集部 [編]、国民図書刊行会		昭和24年6月25日〔発行〕		色刷			1冊
1675	技能者養成テキスト 徳育	海後宗臣 菅井準一 [監] 日本技術教育協会 [編]		〔昭和18年〕	表紙のみ	印刷		破損あり	1枚
1676	教育勅語	皇国会		〔昭和戦後期〕		印刷			1枚
1677	〔教育勅語〕					印刷			1枚
1678	教育勅語承継	富永半次郎先生 [述] 富永先生の会		昭和14年9月5日〔発行〕		印刷			1冊
1679	教育勅令主義の一考察、とくに明治憲法とロエスレルの助言について	国史学会例会 坂根義久		〔昭和〕41年11月12日		謄写版		書込み(鉛筆)あり、ステープラー留め、破損甚大	1綴
1680	軍制学教程 改訂五版	兵用図書株式会社		昭和12年5月20日		印刷			1冊
1681	軍備と自衛一再軍備の過誤と自衛の基本一	民族問題研究会		昭和28年8月30日		謄写版		ステープラー留め、破損あり	1冊
1682	軍備無き国家の進路—世界の将来と日本民族の使命—	世界精神革命期成同盟「神人会」会長 神月徹心(野一色利衛)		1964年8月9日		印刷		「長崎原爆記念日訂正之」とあり	1冊
1683	経営参考資料16. 私有と共有	難波田春夫		昭和41年5月		印刷			1冊
1684	〔難波田春夫書簡〕	難波田春夫	大串兎代夫	昭和41年4月	小生、早稲田大学の新社社会科学部の専任教授に就任いたしました	印刷、ペン		1683に挿入	1通
1685	経済再開発の目標と基本計画に関する答申—解説編—	東京都総合開発審議室		昭和41年2月		印刷		「参議院地方行政調査室」印あり	1冊
1686	建議			〔昭和20年〕	憲法第31条発動奏請の建議	謄写版			2枚
1687	研究資料第三百十五号 志賀問題をめぐる最近の日共の動向と今後の展望	弘津恭輔氏 [述] 中外調査会		昭和39年7月		印刷		ステープラー留め	1冊
1688	現行憲法の無効、失効、帝国憲法復原論に同調し得ない理由について	〔新日本協議会〕		〔昭和戦後期〕		印刷		ステープラー留め、書込み(ペン)あり	1綴
1689	政治家の倫理を提唱する(案)			〔昭和戦後期〕		印刷		ステープラー留め、書込み(ペン)あり	1綴
1690	建国記念の日—科学と歴史と神話—五版	西内雅 [著] 今日の問題社		昭和41年9月25日		印刷			1冊
1691	原子論に基づく古神道の解説			〔昭和戦後期〕		印刷			1枚
1692	現代に於ける神道の意義	高崎経済大学教授三瀧信吾先生の放送憲法調査建議合同会		〔昭和36年〕		印刷			1冊
1693	憲法改正は是か非か 五版	大久保武雄 憲法研究会		昭和31年4月8日〔発行〕		印刷			1冊
1694	憲法と日本語	篠田新宿診療所 神道国際学会 篠田義市		〔昭和40年〕		印刷		「寄贈」印あり。1694・1695は一括	1枚
1695	原子力平和利用=稜威利用即アンティレディオ(アクティウィティ)利用法	篠田新宿診療所 根治療法センター 医学博士 篠田義市		昭和40年2月11日		印刷		「乞高覧」印あり、ステープラー留め。1694・1695は一括	1綴

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
1696	壺和原理研究所 南村清二氏著 皇 道政治原理と体制 (概要摘録)	謹呈 軍需省 航空兵器総局 長官 陸軍中 将 遠藤三郎		[昭和19年10 月28日]		印刷			1冊
1697	『護王』大精神顕 彰シリーズ 第1輯 国体護持の道—和 気公と現代—	皇学館大学教 授 西内雅謹 話 護王神社		昭和37年7月1 日[発行]		印刷			1冊
1698	護王大精神顕彰シ リーズ 第2輯 護 王大精神と維新の 原理	皇学館大学教 授 西内雅 [編] 護王 神社 [発行]		昭和37年10月 1日[発行]		印刷			1冊
1699	五ヶ條の御誓文御 親告	礼典研究会 高澤		昭和40年5月 19日	「新聞集成明治編 年史ニ拠ル」	謄写版		423～426・849・1327・1478・ 1609～1611・1633・1699・1700・ 1807・1808・1966・1967は封筒 (表「藤沢市 大串兎代夫様」 「東京都新宿区 躍進社」)一括	1枚
1700	国史学会昭和三十 八年度一月例会レ ジュメ 大津事件 と井上毅	木野主計		[昭和39年] 1月25日		謄写版、ペン		ステープラー留め。423～426・ 849・1327・1478・1609～1611・ 1633・1699・1700・1807・1808・ 1966・1967は封筒(表「藤沢市 大串兎代夫様」「東京都新宿区 躍進社」)一括	1綴
1701	国体学(国家学)			[昭和戦前]		謄写版		ステープラー留め	1冊
1702	古代の文化(三) [平安時代]	坂本太郎		[昭和10年 代]		謄写版		「秘」印・スタンプ「24」あり	1冊
1703	「国家」詳細目次	臼井二尚		[昭和10年 代]		謄写版		スタンプ「46」あり	1冊
1704	国家	臼井二尚		[昭和10年 代]		謄写版		「秘」印・スタンプ「46」あり、 書込み(鉛筆)あり	1冊
1705	国家と経済—経済 学の基礎—	難波田春夫		[昭和戦後 期]		印刷		書込み(ペン・鉛筆)あり	1冊
1706	この二十年—新文 化シリーズNo. 5 第1版	伊藤博 [著] 新文化社		1974年10月1 日発行		印刷			1冊
1707	西海歌日記	井上孚麿		昭和41年8月 28日		印刷			1冊
1708	最終権威ノ錯覚	Mery Parker Follet 渕囑 託[訳]		[1926年]		謄写版		ステープラー留め	1綴
1709	最終修正版 日本 のビジョン 序説	新日本協議会		[昭和30～40 年代]		印刷			1冊
1710	最終訂正版 日本 のビジョン 中篇 (日本の進路)— 現時点における保 守政党の任務—	新日本協議会		[昭和39年以 降]		印刷			1冊
1711	参考資料第四輯 八紘一宇の精神			[昭和14年]		印刷			1冊
1712	社会	岩崎卯一		[昭和10年 代]		謄写版		「秘」印・スタンプ「20」あり、 書込み(鉛筆)あり	1冊
1713	自由宗教文化講座 講演資料 講題 天皇の御本質	講演者 伊東 正弼		昭和40年3月 21日		謄写版		ステープラー留め。表紙「贈呈 大串兎代夫先生」(ペン)あり	1冊
1714	一〇、日本文化体 系	臼井二尚・岩 崎卯一・難波 田春夫・斎藤 响・高山岩男 案		[昭和] 13年 11月21日		印刷、スタン プ		ステープラー留め	1綴
1715	主権 象徴及び国 体—国体は国家の 価値論的の本体で ある—	教授・文学博 士 小野祖教				印刷		書込み(鉛筆)あり	2冊
1716	条文対照・見出し 附 日本国憲法 大日本帝国憲法 家族関係法	愛知学芸大学 助教授 神谷 義郎編[著] 碩学書房		昭和31年5月 10日[発行]		印刷			1冊
1717	[神谷義郎書簡]	愛知学芸大学 助教授 神谷 義郎		昭和31年10月	拙著条文集一部お 届け申し上げます	印刷		1717・1718は同折、1716に挿入	1通
1718	[碩学書房書簡]	名古屋市東区 碩学書房	大串兎代夫	昭和31年10月	愛知学芸大学神谷 義郎助教授編著合 本一部、別便を もってお届け申し 上げます、新学期 にご採用の栄を賜 りたく謹んでお願 い申し上げます	印刷、ペン		1717・1718は同折、1716に挿入	1通
1719	女子勤労指導者養 成訓練日課表			[昭和10年 代]		謄写版			1枚
1720	新教育懇話会叢書 第六十四輯 日本 の武道	文学博士 佐 藤通次[著] 新教育懇話会 [発行]		昭和41年3月 15日[発行]		印刷		「大串兎代夫様 佐藤通次」の書 込み(ペン)あり	1冊
1721	新教育懇話会叢書 第六十九輯 「建 国記念の日」の究 明—科学・歴史・ 神話に関連して—	中央学院大学 教授 西内雅 著 新教育懇 話会[発行]		昭和41年10月 5日[発行]		印刷			1冊
1722	人口問題資料第一 輯 我が国人口問 題概要	人口問題研究 所		[昭和16年]		印刷		ステープラー留め	1冊

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
1723	〔神職階位並に服装規程〕					印刷		固着と文字かすれのため判読困難、ステープラー留め、「国学院大学」封筒あり	1組
1724	親族法大意 改訂十七版	穂積重遠		大正14年4月10日〔発行〕	奥付のみ	印刷		書込み「英法 大串兎代夫」(ペン)あり	1冊
1725	人知評論	東京都北区野口亮		昭和38年9月25日〔編〕		印刷		ステープラー留め。53・119・1302・1310・1563・1725・1799・1818～1821・1927・1933は封筒(表「神奈川県藤沢市 大串兎代夫様」・裏「東京都渋谷区 明治神宮崇敬会」)一括	1綴
1726	親展特報 共通版	中外調査会		昭和39年8月〔発行〕		印刷		ステープラー留め	1冊
1727	親展特報 共通版	中外調査会		昭和39年12月〔発行〕		印刷		ステープラー留め	1綴
1728	神道の救い 第二版	中川正光著 神社本庁		昭和40年4月1日		印刷			1冊
1729	新日協シリーズ 第二十五輯 日教組の戦術転換とその狙い—一九六一年度運動方針案と新しい倫理綱領の解説から—	新日本協議会		昭和36年6月20日〔発行〕		印刷			1冊
1730	新日本基礎法三章	国際法人世界公民連帯 法親 渡辺薫美		昭和41年7月1日		印刷		「昭和四十一年七月一日完成」とあり	1冊
1731	新日本の分県地図 三重県	和楽屋		〔昭和34年以降〕		色刷			1冊
1732	新日本の分県地図 和歌山県	和楽屋		〔1959年以降〕		色刷			1冊
1733	二見浦 日本観光旅館 松坂屋 吸霞園	〔吸霞園〕		〔昭和戦後期〕		色刷			1枚
1734	国際法より観たる南樺太千島の帰属	元陸軍教授 良田喜久男 (旧姓 大沼)〔著〕 日本政経雑話会		昭和31年7月7日〔発行〕		印刷			1冊
1735	崇徳天皇御製	崇徳天皇八百年式年奉賛会		〔昭和39年〕		印刷		28頁に書込み「昭和三十九年十月三十一日拝読」(鉛筆)あり	2冊
1736	世界法民 創刊号	世界法民宣言本部事務総局		昭和49年1月21日〔発行〕		印刷		ステープラー留め	1冊
1737	政治	岩崎卯一		〔昭和10年代〕		謄写版		「秘」印・スタンプ「11」あり、書込み(鉛筆・ペン)あり	1冊
1738	世界文学別冊 唯物論と革命	J.-P.サルトル 世界文学社		1949年6月25日〔発行〕		印刷			1冊
1739	「訴因」に関する講義の要旨	判事 横川敏雄		〔昭和20年代〕		謄写版		ステープラー留め	1綴
1740	宗文館古書目 No. 33 (特輯) —法律・政治・思想・社会・労働関係—	宗文館書店		昭和41年10月～11月		印刷			1冊
1741	ソ連・中国・朝鮮 第1版	伊藤博〔著〕 ミヤコヤ書店		昭和42年11月25日〔発行〕		印刷			1冊
1742	孫子 全					木版			1冊
1743	第一章 国家 第二章 行政権			〔昭和戦後期〕	校正刷カ	印刷			1組
1744	大義名分の書	法学博士広池千九郎謹述		昭和12年4月18日		墨書		「昭和十三年十一月廿一日 小出竹一氏謹記セルヲ写ス」 吉村通一謹書」とあり	1冊
1745	道徳科学及び最高道徳の根本原理 (其ノ一)	道徳科学研究所 広池千英〔述〕		昭和15年7月		墨書		1744の20・21丁目間に挿入	1組
1746	対共産施策と国是 国策確立に関する意見	大越兼二		昭和34年1月		印刷		大串宛のメッセージ(ペン)あり	1冊
1747	大東亜新秩序建設の原理—共栄圏の道義秩序及法秩序の基礎理念探求—	外務省調査部長 田尻愛義〔著〕 日本青年外交協会〔発行〕		昭和17年10月20日〔発行〕		印刷		「贈呈」印あり	1冊
1748	第二節 国生み			〔昭和10年代〕		謄写版		破損あり	1綴
1749	大日本帝国憲法 附属法	枢密院				印刷			1冊
1750	平事件の判決をきいて	法学博士 岩田宙造				印刷		ステープラー留め	1綴
1751	たなすゑのみち研究—手のひら療治実修資料—	宮崎五郎著 手のひら療治研究会		昭和30年2月2日〔発行〕		印刷			1冊
1752	中外シリーズ 第八集 ソ連の中・東欧侵略の方法と技術	スタニスラウ・ミコライチク述 中外調査会〔発行〕		昭和31年1月30日〔発行〕		印刷			5冊
1753	中外シリーズ 第二十八集 北朝鮮の日本共産化運動の現状	中外調査会		昭和39年9月20日〔発行〕		印刷			1冊
1754	中外シリーズ 第二十九集 中共の日本共産化運動	中外調査会		昭和39年10月10日〔発行〕		印刷			1冊

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
1755	中外シリーズ 第三十集 宗教界における左翼平和運動 ……日本宗平協を中心として…	中外調査会		昭和39年12月5日 [発行]		印刷			1冊
1756	中外シリーズ 第三十一集 ソ連の対日革命戦略	甲谷悦雄 [著] 中外調査会 [発行]		昭和39年12月20日 [発行]		印刷			1冊
1757	中外シリーズ 第三十二集 日共はいま何を考えているか	中外調査会		昭和39年12月20日 [発行]		印刷			1冊
1758	中等教育 幾何学教科書 平面部	波木井九十郎		大正2年12月30日 [文部省検定済]		印刷		破損あり	1冊
1759	〔鎮魂祭・新嘗祭〕			〔昭和戦前期〕	式典の進め方	謄写版、鉛筆			1綴
1760	追憶 中村儀三郎	菊池暁輝 松本政治		昭和43年3月19日 [発行]		印刷			1冊
1761	帝国憲法概括表 訂正再版	東京帝国大学教授 法学博士 寛克彦立案		昭和8年6月1日		多色刷			1枚
1762	東亜共栄圏内重要資源概要	東京市大森区 中村至道		〔昭和16～18年〕		謄写版		ステープラー留め	1冊
1763	特別資料No. 28 共産圏内の情勢と国際共産主義運動の見透し	中外調査会 [編] 中外調査会 [発行]		昭和32年5月10日 [発行]		印刷			2冊
1764	二、徳川時代前期の国体論			〔昭和10年代〕		謄写版		ステープラー留め、書込み (ペン) あり	2綴
1765	二月十一日暦算一 建国記念日と科学一 初版	西内雅 [著] 建国記念日二月十一日を推進する会 [発行]		昭和41年10月15日		印刷			1冊
1766	2603・日独文化協会夏期大学 綜合独逸講座 第一輯	財団法人 日独文化協会		〔昭和19年4月〕		印刷		ステープラー留め	1冊
1767	日本国民会議連絡版第122号	日本国民会議事務局		昭和41年10月15日 [発行]		印刷			1綴
1768	日本宗教(神仏)の方向について 吉田重十郎	日本宗教研究会		昭和39年12月5日		印刷		ステープラー留め	1冊
1769	日本諸学研究 (二) 書紀編纂者の思想に就いて一使用語句による原典批判的研究一	木村俊夫 [編] 財団法人日本文化中央聯盟		昭和14年9月10日 [発行]		印刷			1冊
1770	日本の課題一可見の将来に一 文教連シリーズ第68輯	自由文教人連盟理事長 増田栄 [著] 自由文教人連盟中央本部		昭和38年7月1日 [発行]		印刷			1冊
1771	日本の歴史1 付録	中央公論社		昭和40年2月		印刷		頁欠落あり	1綴
1772	〔『神話から歴史へ』付録〕	井上 丸山		〔昭和40年〕	井上光貞・丸山真男対談	印刷		前後欠 1771の欠落部分の一部カ	1枚
1773	日本文化学術叢書 第十六巻 教育の再建	皇学館大学教授 野口恒樹 [著] 日本文化連合会		昭和41年10月10日 [発行]		印刷			1冊
1774	「日本文化大観」要旨 (修正案)			〔昭和13年11月21日〕		印刷		ステープラー留め	1冊
1775	日本文化大観編纂関係者			〔昭和17年〕	名簿	印刷		ステープラー留め、1775・1776は一括	1綴
1776	国防及軍事			〔昭和17年〕	「日本文化大観」第10巻の章立て	印刷		1775・1776は一括	1枚
1777	宣長大人 百歌集	大辻信銈		昭和29年12月28日 [発行]		印刷			1冊
1778	非常大権ニ関スル意見要綱			〔昭和20年〕		印刷		ステープラー留め。書込み (ペン) あり	1綴
1779	人づくりと教育基本法 文教連シリーズ第64輯	日本大学教授・文学博士 高山岩男 [著] 自由文教人連盟中央本部		昭和38年3月1日 [発行]		印刷			1冊
1780	火の断章一その序説一	古財陸男		〔昭和51年〕		印刷		「謹呈 大串孝子様」 (ペン) とあり	1冊
1781	〔武教小学の由来〕			〔昭和10年代〕		謄写版		前欠	1枚
1782	普化道第二年第二号別冊 無適先生片鱗集 第二	不空生記		昭和5年2月25日 [発行]		印刷			1冊
1783	普化道第二巻第四号別冊 無適先生片鱗集 第四 (手記)	不空生記		昭和6年2月10日 [発行]		印刷			1冊
1784	ポーランドの不思議一暴動は何故起きたか一	中外調査会 [編] 新世紀社 [発行]		昭和31年9月10日 [発行]		印刷			3冊
1785	ポール・リシャール博士招聘の意見	石坂浦次郎		〔昭和戦後期〕		印刷			1枚

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
1786	炎の絵 初版	中込忠三 南江堂		昭和54年8月1日 [発行]		印刷		内表紙に「大串孝子様 中込忠三」(ペン)とあり	1冊
1787	四、明治時代の国体思想(国体問題)			[昭和10年代]		謄写版		ステープラー留め、書込み(ペン・鉛筆)あり	1綴
1788	毛呂清輝先生画集	野田和昭		昭和56年12月19日 [発行]		色刷			1冊
1789	靖国神社の国家護持とは?—非宗教の徹底と特別立法—	靖国神社祭祀制度調査委員会		[昭和39年2月以降]		印刷		793に挿入	1枚
1790	敬神生活の綱領					印刷		1789に挿入	1枚
1791	論争ジャーナル 発刊にあたり	育誠社		[昭和戦後期]		印刷		表紙に書込み「保田与重郎」(鉛筆)あり、ステープラー留め	1冊
1792	若きドイツは鍛へる—ドイツ青少年の国防教育—	ヘルムート・シュテルレヒト[著] 日本青年外交協会研究部[訳] 日本青年外交協会版		昭和15年8月18日 [発行]		印刷			1冊
22. 各種団体・その他									
22-1. 各種団体									
1793	安里積千代略歴	安里積千代後援会本部		[昭和37年以降]		印刷			1枚
1794	悲願二十年!! 沖縄の祖国復帰のために九千万同胞に訴える!	沖縄社会大衆党委員長 琉球政府立法院議員 安里積千代		[昭和40年]		印刷			1枚
1795	昭和十三年度 大村会会報	大村会		昭和13年12月29日 [発行]		印刷			1冊
1796	[大村中学校同窓会長 梅田倫平 同 地元代表幹事 西川茂書簡]	大村中学校同窓会長 梅田倫平 同 地元代表幹事 西川茂	大串兎代夫	昭和21年7月24日	会員名簿作製発行の協力依頼	謄写版		1796~1798は同折	1枚
1797	長崎県立大村中学校同窓会員卒業回数別調査用紙	[大村中学校同窓会]		[昭和21年]		謄写版		1796~1798は同折	1枚
1798	長崎県立大村中学校同窓会員地区別調査用紙	[大村中学校同窓会]		[昭和21年]		謄写版		1796~1798は同折	1枚
1799	営業報告書 第34期 昭和41年上半年 昭和41年4月1日~昭和41年9月30日	沖電気工業株式会社		[昭和41年~42年]		印刷		ステープラー留め。53・119・1302・1310・1563・1725・1799・1818~1821・1927・1933は封筒(表「神奈川県藤沢市 大串兎代夫様」・裏「東京都渋谷区 明治神宮崇敬会」)一括	1冊
1800	会員氏名録	学士会		昭和36年11月10日 [発行]		印刷			1冊
1801	[『寮歌は生きている』刊行案内]	旧制高校寮歌保存会		[昭和38年以降]		印刷			1綴
1802	光華会事業要綱案			[昭和17~20年]		印刷		1802・1803は同折	1枚
1803	神奈川光華会要綱案			[昭和17~20年]		印刷		1802・1803は同折	1枚
1804	恒久的調査研究基本計画	基本計画設定準備委員会		昭和20年7月20日		印刷		書込み(ペン)あり、ピン留め	1綴
1805	国民工場化運動ノ提唱—航空機ノ徹底増産ノ為ニ—	航空工業会総合審議室		昭和20年7月		謄写版			2冊
1806	選挙の常識	公明党機関紙局		[昭和41年]		印刷			1冊
1807	[護王会館建設委員会書簡]	護王会館建設委員会		昭和39年8月吉日	護王会館建設費多額につき格別の御賛助をお願い申し上げます	印刷		423~426・849・1327・1478・1609~1611・1633・1699・1700・1807・1808・1966・1967は封筒(表「藤沢市 大串兎代夫様」・裏「東京都新宿区 躍進社」)一括	1枚
1808	護王会館建設趣意書	護王会館建設委員会		昭和39年8月吉日		印刷		423~426・849・1327・1478・1609~1611・1633・1699・1700・1807・1808・1966・1967は封筒(表「藤沢市 大串兎代夫様」・裏「東京都新宿区 躍進社」)一括	1枚
1809	護王会館建設委員会報	護王会館建設委員会		昭和40年3月1日号		印刷			1枚
1810	国民運動研究所設立ノ件			[昭和17~20年]	林藤(慶応大学教員 医学博士)、大串(国民精神文化研究所員)、山之内一郎(外務省調査部)、松前重義(通信省工務局長 工学博士)を顧問とする	印刷		ステープラー留め	1綴
1811	[国民勤労革新党]	国民勤労革新党結成準備会事務所		昭和29年10月日	綱領・政策などの案	謄写版		ステープラー留め	1綴
1812	慰霊祭詞 志士寮物故者			昭和29年9月26日		墨書		「於片瀬大串先生宅」とあり	1枚

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
1813	松薫会名簿			[昭和40年12月8日]		謄写版、ペン		ステープラー留め、封筒(表「神奈川県片瀬町 大串兎代夫様」「日本産業映画社 東京都港区」)あり	1綴
1814	昭和皇政維新国家総動員法案大綱	昭和皇政維新促進同盟		昭和7年1月		印刷		「皇紀二千五百九十二年一月」とあり	1冊
1815	陳情書	神社本庁事務総長職務代理 神社本庁事務副総長 林栄治	参議院〔議長 重宗雄〕三	昭和41年9月1日	信仰上の儀礼や行事を無形の民俗資料として適当な名称のもとに重要無形文化財なみに指定保護するよう陳情	印刷		「写」印あり、文字かすれあり、ステープラー留め。1815～1817は一括	1綴
1816	陳情の主旨	神社本庁事務総長 林栄治		昭和41年11月12日	信仰上の儀礼や行事を重要無形文化財なみに指定しよう、文化財保護法を改正することを望む	印刷		1815～1817は一括	1枚
1817	参考意見			[昭和41年]		印刷		1816の参考意見カ、ステープラー留め。1815～1817は一括	1綴
1818	陳情書	神社本庁事務総長職務代理 神社本庁事務副総長 林栄治	参議院〔議長 重宗雄〕三	昭和41年9月1日		印刷		ステープラー留め。53・119・1302・1310・1563・1725・1799・1818～1821・1927・1933は封筒(表「神奈川県藤沢市 大串兎代夫様」・裏「東京都渋谷区 明治神宮崇敬会」)一括。1818～1821はクリップ留め	1綴
1819	(参考資料)重要民俗資料指定基準(昭和二十九年十二月二十五日 文化財保護委員会告示第五十八号)	[神社本庁調査部]		[昭和] 41年10月19日		ペン、青焼き		「神社本庁」罫紙への手書き文書の青焼き複写資料。53・119・1302・1310・1563・1725・1799・1818～1821・1927・1933は封筒(表「神奈川県藤沢市 大串兎代夫様」・裏「東京都渋谷区 明治神宮崇敬会」)一括。1818～1821はクリップ留め	1枚
1820	記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗資料選択基準(昭和二十九年十二月二十五日文化財保護委員会告示第五十九号)	神社本庁調査部		[昭和] 41年10月18日		ペン、青焼き		「神社本庁」罫紙への手書き文書の青焼き複写資料。53・119・1302・1310・1563・1725・1799・1818～1821・1927・1933は封筒(表「神奈川県藤沢市 大串兎代夫様」・裏「東京都渋谷区 明治神宮崇敬会」)一括。1818～1821はクリップ留め	1枚
1821	重要民俗資料の部	神社本庁調査部		[昭和] 41年10月19日		ペン、青焼き		「神社本庁」罫紙への手書き文書の青焼き複写資料。53・119・1302・1310・1563・1725・1799・1818～1821・1927・1933は封筒(表「神奈川県藤沢市 大串兎代夫様」・裏「東京都渋谷区 明治神宮崇敬会」)一括。1818～1821はクリップ留め	1枚
1822	政治刷新国民運動役員名簿			昭和40年10月18日現在	顧問に「大串兎代夫」の名前あり			ステープラー留め	1綴
1823	植物波 会報 第3号	静電協会総本部		昭和31年5月30日 [発行]		印刷		表紙に名刺「水谷源治郎」のクリップ留めあり	1冊
1824	原理研究会案内	全国大学連合理理研究会		[1965年]	1965年早稲田祭における早稲田大学原理研究会主催の講演会・展示会の案内	謄写版			1枚
1825	統一原理概要(統一原理的弁証法哲学)	全国大学連合理理研究会		[昭和40年]		謄写版		ステープラー留め	1冊
1826	日本でただ一つの父と母と子への広告媒体 - 全国21万父母とむすぶ一教養誌「父母教室」月刊 機関紙「父母会議」月刊	全日本教育父母会議				印刷		1826～1829は封筒(裏「東京都港区 全日本教育父母会議」)一括	1枚
1827	父母会議の歩み	全日本教育父母会議				印刷		1826～1829は封筒(裏「東京都港区 全日本教育父母会議」)一括	1枚
1828	父母教室 第八八号	全日本教育父母会議		昭和40年1月15日 [発行]		印刷		ステープラー留め。1826～1829は封筒(裏「東京都港区 全日本教育父母会議」)一括	1冊
1829	父母会議 第39号	全日本教育父母会議		昭和40年1月1日		印刷		1826～1829は封筒(裏「東京都港区 全日本教育父母会議」)一括	1部
1830	[大東塾十四烈士顕彰会 代表 吉田益三 大東塾・不二歌道会 代表 影山正治書簡]	大東塾十四烈士顕彰会 代表 吉田益三 大東塾・不二歌道会 代表 影山正治	大串兎代夫	昭和37年初夏	「大東塾自刃十四烈士中央墓碑建立」「大東学生会館建設」の件、ご快援を賜りますよう重ねて切に懇願申し上げます	印刷、ペン		1830～1832は封筒(表「藤沢市 大串兎代夫様」・裏「東京都渋谷区 大東塾十四烈士顕彰会」)一括	1通
1831	十四烈士芳名 個人碑と地方合同墓碑等			昭和36年4月現在		印刷		1830～1832は封筒(表「藤沢市 大串兎代夫様」・裏「東京都渋谷区 大東塾十四烈士顕彰会」)一括	1枚

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
1832	払込票 払込通知票	大東塾十四烈士顕彰会		[昭和37年]		印刷		1830～1832は封筒(表「藤沢市大串兎代夫様」・裏「東京都渋谷区 大東塾十四烈士顕彰会」)一括	1枚
1833	烈士の面影	大東塾十四烈士顕彰会		昭和39年8月25日 [発行]		印刷			1冊
1834	中外調査会昭和二十九年度経理関係報告書類	[中外調査会]		自昭和29年4月至同30年3月		印刷		ステープラー留め	1冊
1835	[臨時役員会順序]	[中外調査会]		[昭和30年]		印刷		1835～1838はクリップ一括	1枚
1836	経過の概要	中外調査会		昭和30年2月17日現在		印刷		ステープラー留め。1835～1838はクリップ一括	1冊
1837	経理関係メモ	[中外調査会]		[昭和30年]		印刷		1835～1838はクリップ一括	1枚
1838	昭和卅年度・当面の活動方針について	中外調査会事務局		[昭和30年]		印刷		ステープラー留め。1835～1838はクリップ一括	1冊
1839	中外調査会昭和三十年収支概算書	中外調査会		自昭和30年4月・至同31年3月		印刷		ステープラー留め	1冊
1840	中外調査会昭和卅年度事業計画書	中外調査会		自昭和30年4月・至同31年3月		印刷		ステープラー留め	1冊
1841	昭和三十八年度 中外調査会事業経過概要	中外調査会		自昭和38年4月・至昭和39年3月		印刷		1841～1849・1842～1849はクリップ留め。848・1841～1847は封筒(裏「東京都港区 中外調査会」)一括	1冊
1842	昭和三十九年四月度 中外調査会主要実施事業概要	中外調査会		[昭和39年]		印刷		ステープラー留め、1841～1849・1842～1849はクリップ留め。848・1841～1847は封筒(裏「東京都港区 中外調査会」)一括	1綴
1843	昭和三十九年六月度 中外調査会主要実施事業概要	中外調査会		[昭和39年]		印刷		ステープラー留め、1841～1849・1842～1849はクリップ留め。848・1841～1847は封筒(裏「東京都港区 中外調査会」)一括	1綴
1844	昭和三十九年七月度 中外調査会主要実施事業概要	中外調査会		[昭和39年]		印刷		ステープラー留め、1841～1849・1842～1849はクリップ留め。848・1841～1847は封筒(裏「東京都港区 中外調査会」)一括	1綴
1845	昭和三十九年八月度 中外調査会主要実施事業概要	中外調査会		[昭和39年]		印刷		ステープラー留め、1841～1849・1842～1849はクリップ留め。848・1841～1847は封筒(裏「東京都港区 中外調査会」)一括	1綴
1846	昭和三十九年十月度 中外調査会主要実施事業概要	中外調査会		[昭和39年]		印刷		ステープラー留め、1841～1849・1842～1849はクリップ留め。848・1841～1847は封筒(裏「東京都港区 中外調査会」)一括	1綴
1847	昭和三十九年十一月度 中外調査会主要調査実施事業概要	中外調査会		[昭和39年]		印刷		ステープラー留め、1841～1849・1842～1849はクリップ留め。848・1841～1847は封筒(裏「東京都港区 中外調査会」)一括	1綴
1848	昭和38年度決算書	中外調査会		自昭和38年4月・至昭和39年3月		印刷		1841～1849・1842～1849はクリップ留め。1848・1849はクリップ、ステープラー留め	1枚
1849	昭和39年度予算書	中外調査会		自昭和39年4月・至昭和40年3月		印刷		1841～1849・1842～1849はクリップ留め。1848・1849はクリップ、ステープラー留め	1枚
1850	岩田先生を囲む中外調査会歳末懇親会出席者芳名	[中外調査会]		12月26日	「大串兎代夫 国学院大学教授」として記載あり	印刷、ペン			1枚
1851	第廿二期決算報告書	築地運送株式会社		自昭和29年10月1日・至昭和30年3月31日		印刷		ステープラー留め。1851・1852封筒(表「神奈川県藤沢市 大串兎代夫殿」・裏「東京都中央区 築地運送株式会社」)一括	1冊
1852	株主名簿	築地運送株式会社		昭和30年1月1日現在		印刷		1851・1852封筒(表「神奈川県藤沢市 大串兎代夫殿」・裏「東京都中央区 築地運送株式会社」)一括	1枚
1853	研究歴	守田広海		[昭和20年代]		印刷		ステープラー留め。1853・1854は同折	1綴
1854	[電気関係学会大会要旨]	守田広海		[昭和26～28年]		電子式複写、印刷、鉛筆		ステープラー留め。1853・1854は同折	1綴
1855	東洋文化 第一号	東洋文化振興会		昭和31年6月25日 [発行]		印刷			1冊
1856	再評価積立金の一部資本組入並びにこれに伴う新株式発行についての取締役会決議のお知らせ	大阪市北区 同和火災海上保険株式会社 取締役社長 岡崎真一	株主各位	昭和35年10月7日		印刷	葉書		1枚
1857	第22期 事業報告書	同和火災海上保険株式会社		昭和39年4月1日から昭和40年3月31日まで		印刷			1冊
1858	国民運動の前進 日韓友好運動の教訓から	日韓友好条約 批准促進国民会議		昭和41年1月25日 [発行]		印刷			1冊

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
1859	〔日韓友好条約批准促進国民会議 残務事務局々々長 末次一郎書簡〕	日韓友好条約批准促進国民会議 残務事務局々々長 末次一郎		昭和41年2月10日	「日韓友好条約批准促進国民会議」の活動経過の報告書を発刊いたしました、さっそくご送付申し上げます	印刷		1858に挿入	1通
1860	第廿五回 日本社会学会大会	〔日本社会学会〕		第一日 昭和27年10月25日(土) 第二日 昭和27年10月26日(日)	プログラム、第一日は於東京教育大学、第二日は於東京大学	印刷			1枚
1861	日本自由党青年部 結成宣言	日本自由党青年部本部		〔昭和20～21年〕		謄写版			1枚
1862	青年部入部申込書	日本自由党青年部		〔昭和20～21年〕		謄写版		1861に挿入	1枚
1863	若き情熱を傾倒して	日本自由党青年部本部		〔昭和20～21年〕		謄写版			1枚
1864	被銓衡者一覧表 (第六回)	日本出版会		〔昭和10年代〕 6月30日	出版関係者の「思想、性格、業績等」など	謄写版		「秘」印あり、ステープラー留め	1綴
1865	勸告書	日本同盟		〔昭和30年代〕		印刷		書込み(ペン)あり	1冊
1866	日本民主主義聯盟 結成宣言	〔日本民主主義聯盟〕		〔昭和20年12月〕		印刷		「日本民主主義聯盟加入書」添付(綴はずれ)。1866・1867はステープラー一括	1綴
1867	〔日本民主主義聯盟 常任委員長 江木武彦書簡〕	日本民主主義聯盟 常任委員長 江木武彦		〔昭和20年12月〕	ご賛同をいただき誠に心強く存じております	印刷		「日本民主主義聯盟組織」添付。1866・1867はステープラー一括	1綴
1868	神宮の森一随想百人集一	明治神宮崇敬会		昭和47年6月1日〔発行〕	大串兎代夫「維新と現代」収録	印刷			1冊
1869	『明治の会』大会次第	〔明治の会〕		昭和46年7月30日		謄写版		「中野区 相原良一」(ペン)とあり。1320・1869～1871は同折。1869～1871は同折	2枚
1870	宇宙心即ち日本肇国の基	浦和市 晴晃園精神文化研究所 新村晃彬		〔昭和40年代〕		印刷		1320・1869～1871は同折。1869～1871は同折	2枚
1871	〔決議〕			〔昭和45年以降〕	改憲・自衛隊の国軍化など、前欠	謄写版		1320・1869～1871は同折。1869～1871は同折	1枚
1872	横瀬浦史蹟 顕彰期成会 趣意書	事務所 長崎県西彼杵郡西海村 西海村役場内		1962年3月1日〔印刷〕		謄写版、色刷			1冊
1873	西海郷邨沿革史年表 南蛮船来航四〇〇年記念	横瀬浦史蹟顕彰期成会 会長 麻生啓三		〔昭和37年〕		謄写版、スタンプ、クレヨン			1冊
1874	次第	らくらく会 忘年の集い		〔昭和〕41年12月26日	会合の案内	謄写版		1874・1875は封筒(表「藤沢市大串兎代夫先生」・裏「東京都台東区 同人会事務所」)一括	1枚
1875	番町共済会館	東京都千代田区 市町村職員共済組合連合会			番町共済会館の案内	印刷		1874・1875は封筒(表「藤沢市大串兎代夫先生」・裏「東京都台東区 同人会事務所」)一括	1枚
1876	陸海達 第一号 国民義勇戦闘隊教令	陸軍省印刷		昭和20年6月		印刷		1876～1884は封筒(表「国民義勇戦闘隊規則」・裏「陸軍」)一括	1冊
1877	兵務局長放送要旨 国民義勇戦闘隊ノ編成ニ当リテ	〔陸軍省〕		〔昭和20年〕 6月24日夜		印刷		ステープラー留め、書込み(ペン)あり。1876～1884は封筒(表「国民義勇戦闘隊規則」・裏「陸軍」)一括	1綴
1878	国民義勇戦闘隊統率令	〔陸軍省〕		昭和20年6月23日		謄写版		1876～1884は封筒(表「国民義勇戦闘隊規則」・裏「陸軍」)一括	1綴
1879	国民義勇戦闘隊教令ニ関スル説明	陸軍省兵務課		昭和20年6月26日		謄写版		ステープラー留め。1876～1884は封筒(表「国民義勇戦闘隊規則」・裏「陸軍」)一括	1綴
1880	国民義勇戦闘隊ニ関スル現地普及指導ノ際ニ於ケル陸軍省兵務局長口演	〔陸軍省〕		〔昭和20年〕		印刷		ステープラー留め。1876～1884は封筒(表「国民義勇戦闘隊規則」・裏「陸軍」)一括	1綴
1881	陸軍大臣放送 国民義勇兵役法公布ノ上論ヲ拝ス(本土決戦一億戦列へ)	〔陸軍省〕		〔昭和20年〕 6月23日		印刷		ステープラー留め。1876～1884は封筒(表「国民義勇戦闘隊規則」・裏「陸軍」)一括	1綴
1882	義勇兵役法施行規則	〔陸軍省〕		昭和20年6月日		印刷	「陸軍」用紙	ステープラー留め。1876～1884は封筒(表「国民義勇戦闘隊規則」・裏「陸軍」)一括	1綴
1883	義勇兵役法施行令	〔陸軍省〕		昭和20年6月22日		印刷	「陸軍」用紙	ステープラー留め。1876～1884は封筒(表「国民義勇戦闘隊規則」・裏「陸軍」)一括	1綴
1884	義勇兵役法	〔陸軍省〕		昭和20年6月22日		印刷	「陸軍」用紙	資料固着、書込み(ペン)あり。1876～1884は封筒(表「国民義勇戦闘隊規則」・裏「陸軍」)一括	1綴
1885	あゆみ 第4巻-第7号	歴史文学研究 あゆみ会		〔昭和〕40年7月15日		謄写版		ステープラー留め	1綴
22-2. その他									
1886	〔肖像写真〕			〔1932～1933年〕	ドイツ留学時代の関係者カ	現像		包紙あり	1組
1887	〔河崎滋郎名刺〕	神奈川県逗子町 河崎滋郎		〔昭和10年代〕		印刷			1枚

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
1888	展覧南部家文書			[昭和10年代]		謄写版			1組
1889	[素描]	[大串兎代夫]		[昭和10年代]	着物の図柄	ペン、色鉛筆	「教育研究会 原稿用紙」	紙背使用	1枚
1890	御由緒略記 県社武田神社			[昭和12年以降]		印刷			1枚
1891	高塚竹堂先生お習字講座(一)			[昭和15~16年]	雑誌付録カ	印刷		裏面「お習字手本(仏印進駐の兵隊さんへ)」	1枚
1892	漁業権賃貸借契約書	鎌倉郡片瀬町甲 江ノ島漁業組合 理事組合長 渡辺新五郎 理事吉岡勘蔵、全郡全町 乙 浜野伝三郎		昭和15年11月8日		ペン			1綴
1893	火技中興洋兵開祖高島秋帆先生遺墨展目録	市立長崎博物館		昭和16年5月15日ヨリ6月10日迄		印刷			1冊
1894	[回覧板]			[昭和17~18年]				裏面に「東京府北多摩郡小金井町国民錬成所学寮用」(墨書)とあり	1枚
1895	[株式会社 田中組 左官部 田光薫名刺]	株式会社 田中組 左官部 田光薫 東京都小金井市		[昭和戦後期]		印刷			1枚
1896	[中部プリンス自動車株式会社 営業第一部 販売二課 権田毅名刺]	中部プリンス自動車株式会社 営業第一部 販売二課 権田毅		[昭和戦後期]		印刷		1896・1897は一括	1枚
1897	[天王寺鉄道管理局 天王寺建築区 伊藤正勝名刺]	天王寺鉄道管理局 天王寺建築区 伊藤正勝		[昭和戦後期]		印刷		裏面に書込み「三重県津市丸之内家庭裁判所調査部 伊藤一男」(ペン)あり。1896・1897は一括	1枚
1898	[東京電機大学学生部長 藤田豊名刺]	東京電機大学学生部長 藤田豊		[昭和戦後期]		印刷、ペン			1枚
1899	[藤田豊名刺]	日本私立大学協会図書館委員会幹事〔ほか1件〕 藤田豊		[昭和戦後期]		印刷			1枚
1900	[藤田豊名刺]	日本図書館学会幹事〔ほか4件〕 藤田豊		[昭和戦後期]		印刷、ペン			1枚
1901	有斐閣六法 参照条文めも	[有斐閣]		[昭和戦後期]		印刷			1枚
1902	[名刺]	帝国通信工業株式会社 取締役社長 菊池国雄		[昭和戦後期]		印刷			1枚
1903	第一回日本美術展覧会陳列品目録			[昭和20年代]		印刷			1組
1904	履歴書	[大串兎代夫]		[昭和20年]	大串清司の履歴書	ペン	「国民精神文化研究所」原稿用紙		1枚
1905	人事興信録第十五版 内容見本	株式会社 人事興信所		[昭和23年]		印刷			1枚
1906	電通週報 新聞ラジオ広告 第256号	日本電報通信社		昭和27年10月17日		印刷		帯(「東京都中央区 株式会社日本電報通信社」「藤沢市 法律新報社 大串兎代夫殿 贈呈」)あり	1冊
1907	市外通話料、等内訳書			[昭和30年代]	84 6248	印刷、タイプ		70・392~395・805・819・1907・1948は封筒(表「名古屋市昭和区名城大学内 大串兎代夫先生」・裏「京都市右京区 小森義峯」)一括	1枚
1908	愛読者カード	理想社編集部		[昭和30年代]	(佐藤通次博士の「坤心談話集」について)読者諸賢からも著者に課題し要望して、人生の諸部門についての原理的な解説をさらに引き出してください	印刷	葉書		1枚
1909	[名刺]			[昭和30年代]	「三幸商店 山田悦久」ほか	印刷			1組
1910	購読申込書	東京中央局区内 千代田区岸本ビル 株式会社人事興信所		[昭和32年]	『第十九版 人事興信録』の購読申込書	印刷	葉書		1枚
1911	第十九版 人事興信録 内容見本	株式会社 人事興信所		[昭和32年]		色刷			1枚
1912	[振替用紙]	旺文社		[昭和33年]	『全国学園新聞』の代金振込み	印刷			1枚
1913	肥後一の宮 阿蘇神社由緒略記			昭和33年 [記す]		印刷			1枚
1914	海外の御旅行は…	日本交通公社 海外旅行部		昭和33年4月 [印刷]		多色刷		1914・1915は「日本航空」チケットフォルダー一括	1枚
1915	福岡一沖縄線定期航空案内	日本航空		昭和33年4月1日		多色刷		「昭和33年4月1日改正」とあり。1914・1915は「日本航空」チケットフォルダー一括	1枚

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
1916	〔金額計算覚書〕			〔昭和34年〕	「愛知」「瀬口」「児玉」「親和」に関する金額の計算	ペン	「KOKUYO」罫紙	1916～1918は一括。1916・1917は同折	1枚
1917	領収証	親和電機株式会社 小林京太郎 (拇印)		昭和34年12月24日	「一、金貳万六千六百九拾五円也」	ペン	「KOKUYO」罫紙	1916～1918は一括。1916・1917は同折	1枚
1918	領収証	親和電機株式会社 (公印)	東洋電業社	昭和34年12月24日	「金拾参万七千六百七拾七円也」	印刷、ペン		1916～1918は一括	1枚
1919	〔カレンダー〕	森永の菓子		1959〔1～6月〕		色刷			1枚
1920	年代表	財団法人 五島美術館		〔1960年〕		印刷			1冊
1921	ARLINGTON STREET CHURCH			〔1961年以降〕		印刷		ステープラー留め	1冊
1922	CONGREGATIONAL REPORT 1964-1965	ARINGTON STREET CHURCH		〔1965年以降〕		印刷	冊子	ステープラー留め	1冊
1923	“秋の欧州旅行”	欧州経済事情研究協会		〔昭和40年〕		印刷	冊子	ステープラー留め	1冊
1924	Städtische Bühnen Freiburg IN DER SACHE J. ROBERT OPPENHEIMER	Heinar Kipphardt		〔1965年〕		印刷	冊子	ステープラー留め。476～480・1924は紐・包紙 (表「Mr. ODO HOLZER c/o Kiyoko Ogushi」・裏「Abs. Robert Kao」) 一括	1冊
1925	開館五周年記念 前田育徳会国宝重要文化財特別展	主催 五島美術館 前田育徳会		〔昭和40年〕		印刷			2枚
1926	〔ネガフィルム〕	東京アグファ現像所	MR. ODOHOLZER c/o Kiyoko OGUSHI	〔昭和〕40年2月5日発送	ネガフィルム	印刷、ペン		封筒 (ステープラー留め、未開封) あり。フィルム包紙にステープラーあり	1枚
1927	わたくしのしやくしよ <窓口のご案内>	藤沢市		昭和41年		印刷		ステープラー留め。53・119・1302・1310・1563・1725・1799・1818～1821・1927・1933は封筒 (表「神奈川県藤沢市 大串兎代夫様」・裏「東京都渋谷区 明治神宮崇敬会」) 一括	1冊
1928	新集古書販売目録 文献 再刊第二十九号	明治堂書店		昭和41年9月		印刷			1冊
1929	LIEFERSCHEIN	Nomos Verlagsgesellschaft	Herrn Prof. Toyowo Ohgushi [大串兎代夫]	1966年11月10日	「Autoren-Freiemplar “Planung II” s. unser Schreiben vom 10. 11. 1966」の納品書	印刷、タイプ		「Nomos Verlagsgesellschaft」封筒あり	1枚
1930	神奈川県電話番号 簿正誤表 (湘南版)	日本電信電話公社 関東電気通信局		昭和41年12月1日		印刷			1枚
1931	Paketkarte	STUDIO AMIKOESTEL	Miss KIYOKO OHGUSHISAN KANAGAWA FUJISAWA [大串紀代子]	〔19〕66年12月8日-13日	小包荷札	印刷、タイプ、スタンプ		1931・1932はクリップ一括	1枚
1932	Zollinhaltserklärung	STUDIO AMIKOESTEL	Miss KIYOKO OHGUSHISAN KANAGAWA FUJISAWA [大串紀代子]	1966年12月8日	「Christmas Angel -GIFT-」	印刷、タイプ、スタンプ、ペン		税関符票。1931・1932はクリップ一括	1枚
1933	〔領収証〕	小田急	菊地	〔昭和〕41年12月10日		印刷、ペン、スタンプ		53・119・1302・1310・1563・1725・1799・1818～1821・1927・1933は封筒 (表「神奈川県藤沢市 大串兎代夫様」・裏「東京都渋谷区 明治神宮崇敬会」) 一括	1枚
1934	国立劇場/3月公演 スケジュール	国立劇場		〔1967年〕		印刷			4枚
1935	預り証	片瀬支所事務吏員 汲田貞史 (印)	藤沢市 大串 兎紀夫	昭和42年2月20日	金10,000円を社会福祉事業のための寄附金として、預かりました	ペン	「藤沢市」罫紙		1枚
1936	御鎮座一三〇年式年大祭 解説 箱根山信仰の原点	箱根神社 宮司敬白		昭和60年4月吉日		印刷			1枚
1937	軍艦 (装甲巡洋艦)				「シャノン」「筑波」などのイラスト	印刷			1枚
1938	〔肖像画〕				大串兎代夫カ	色鉛筆			1枚
1939	〔カルタ〕				「さ」(「さっさと おきた おりこうさん」)のみ	印刷			1枚
1940	キリストの一生図解					印刷			1枚
1941	Hand- und Schreibmaschinen-Papier	SELECTA			カーボン紙	印刷		包装紙あり	1組
1942	age of tomorrow 25	Hitachi, Ltd.				多色刷		ステープラー留め	1冊
1943	〔住宅設計図〕	MKハウス 丸井建設株式会社				複写			1枚
1944	MUSEUM OF FINE ARTS, BOSTON Floor Plan					印刷			1枚

番号	タイトル	作成	宛先	年月日	内容	記述法	用紙	備考	数量
1945	RECLAM UNIVERSAL-BIBLIOTHEK	Eberhard Albert Universitäts-Buchhandlung				印刷			1枚
1946	健康は人の宝なり 金のなる記	マルカ百貨店 社長 川崎 クッキングス クール校長 食養医学研究 会会長 川崎 市 吉川嘉一				印刷			1枚
1947	[写真]				石碑	写真			1枚
1948	[名刺]	杉浦寿			杉浦寿	印刷		70・392～395・805・819・1907・1948は封筒（表「名古屋市昭和区名城大学内 大串兎代夫先生」・裏「京都市右京区 小森義峯」）一括	1枚
1949	[名刺]	白峯神宮宮司 中井勝彦			白峯神宮宮司 中井勝彦	印刷		裏面に覚書（鉛筆）あり	1枚
1950	[名刺]				「香川県立土庄高等学校 教諭 和氣勲」ほか	印刷			1組
1951	寿				書	墨書			1枚
1952	[観世音菩薩について]					印刷		前後欠	1枚
1953	[書]	東洋				墨書		1953～1958は一括	1枚
1954	[書]	東洋山史				墨書		1953～1958は一括	1枚
1955	[書]	[不詳]				墨書		1953～1958は一括	1枚
1956	[書]	東洋散士				墨書		1953～1958は一括	1枚
1957	[書]	東洋山史				墨書		1953～1958は一括	1枚
1958	[書]	東洋山人				墨書		1953～1958は一括	1枚
1959	SCRAP BOOK	[大串兎代夫]				複写、タイプ	「BUNKA」スクラップブック	「Gottingische gel. Anzeigen」	1冊
1960	[スケッチ]				花	鉛筆	「OLYMPIC」用箋	402～413・1960・1961は封筒（表「独逸 フライブルグ 大串兎代夫殿」・裏「Asia University Tokyo Japan」）一括	1枚
1961	[スケッチ]				花	鉛筆	「OLYMPIC」用箋	包紙あり。402～413・1960・1961は封筒（表「独逸 フライブルグ 大串兎代夫殿」・裏「Asia University Tokyo Japan」）一括	1枚
1962	飛鳥地方史跡略解	近畿日本鉄道株式会社 橿原神宮駅案内所				謄写版		破損あり	1枚
1963	[肖像写真]					写真			1枚
1964	地方貯金局の名称、位置、所掌事務の範囲及び管轄区域 別表					印刷		前後欠	1枚
1965	[広告]				コダックカラーフィルム の広告	印刷			1枚
1966	[領収証]	Industrie Companie			「Technische Beratung in Rekuperator- und ofenbaufragen」の 領収証	印刷、タイプ		423～426・849・1327・1478・1609～1611・1633・1699・1700・1807・1808・1966・1967は封筒（表「藤沢市 大串兎代夫様」 「東京都新宿区 躍進社」）一括	1枚
1967	正誤表					印刷		423～426・849・1327・1478・1609～1611・1633・1699・1700・1807・1808・1966・1967は封筒（表「藤沢市 大串兎代夫様」 「東京都新宿区 躍進社」）一括	1枚
1968	新嘗祭賢所皇霊殿 神殿ノ儀			昭和□年11月 23日	式次第	謄写版			1枚